

『スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究
（スポーツにおけるボランティア活動を担う
組織・団体活性化のための実践研究）』

報 告 書

平成 27 年 3 月

笹川スポーツ財団

目次

I. 調査概要	1
1 事業の目的	1
2 調査の内容	1
3 事業の実施体制	2
(1) 実施体制	2
(2) 調査検討会議の開催	3
II. スポーツボランティアとは	4
III. 調査報告	7
(1) <u>スポーツボランティア活動に関する組織・団体の実態調査</u>	7
主な調査結果	9
1) 調査概要	10
2) 調査結果 (①地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体)	12
3) 調査結果 (②トップスポーツチーム)	23
(2) <u>スポーツボランティア活動に関する組織・団体の事例調査</u>	37
1) 調査概要	39
2) 調査結果 (事例調査)	42
IV. トライアル事業の報告	79
1) 事業概要	81
2) トライアル事業結果	83
3) トライアル事業の効果検証	94
V. まとめと考察	105
VI. 参考文献・付録	113

Ⅰ. 調査概要

1. 事業の目的

スポーツを通じて、全ての人々が幸福で豊かな生活を営む社会を実現する上で、スポーツを「支える」ボランティアの重要性が高まっている。地域の競技団体・クラブによる日々の指導や、大小様々な規模のスポーツイベント(町の運動会から日本で開催される国際競技大会まで)など、あらゆるスポーツの場面において、スポーツボランティアの存在は不可欠である。しかしながら、我が国のスポーツボランティア実施率は、近年 6%～8%で推移しており、その活用は十分ではない。

そこで、本事業はスポーツボランティア個人やスポーツボランティア団体等の詳細な実態把握を行うことによって、スポーツにおけるボランティア活動の担い手(個人や組織・団体)の要件を整理し、活動の活性化のための今後の方向性と「支えるスポーツ」の推進を図るための基礎資料とすることを目的とした。

2. 調査の内容

(1) スポーツボランティア活動に関する組織・団体の実態調査

地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体及びトップスポーツチームが活用しているボランティア組織・団体を対象とし、質問紙調査を実施した。主な調査内容は、活動開始時期や登録者属性、登録料・年会費、講習会の有無、活動に伴うインセンティブ(物品や行事の特典)、募集方法などであった。

(2) スポーツボランティア活動に関する組織・団体の事例調査

地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体及びトップスポーツチームが活用しているボランティア組織・団体を対象とし、ヒアリング調査を実施した。主な調査内容は、組織体制や登録者の属性、年間予算、活動内容、運営についての工夫や課題などであった。

(3) トライアル事業

地域におけるスポーツボランティア組織等を活性化する具体的な方策を検討、提案することを目的とし、試行的な事業の実施を通して課題及び活性化方策の検証を行った。岡山県、広島市、仙台市においてスポーツボランティアの育成や活動活性化支援などに関する事業を実施した。主な内容は、スポーツボランティアの募集・養成プログラムの設計や、活動の課題・ニーズ調査の実施、中高生のボランティア参画・研修プログラムの構築などであった。

3. 事業の実施体制

スポーツボランティアに関わる関係団体や有識者等で構成される協力者会議を全4回開催した。

(1) 実施体制

1) 委員リスト

委員長	山口 泰雄	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 教授
委員	泉田 和雄	市民スポーツボランティア SV2004 代表
	関沢 英彦	東京経済大学 コミュニケーション学部 教授
	二宮 雅也	文教大学 人間科学部人間科学科 准教授
	松本 耕二	広島経済大学 経済学部スポーツ経営学科 准教授
	森村 ゆき	東京マラソン財団 運営統括部 ボランティアセンター長
	山岸 仁	国立青少年教育振興機構 教育事業部 事業部長
	吉田 明子	東京都体育協会 事業部 スポーツ振興課 課長
	渡邊 一利	笹川スポーツ財団 専務理事

2) 事務局

澁谷 茂樹	笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所	主任研究員
工藤 保子	〃	副主任研究員
藤原 直幸	〃	研究員
武長 理栄	〃	研究員
松井 くるみ	〃	研究員
高橋 光	〃	研究員
但野 秀信	笹川スポーツ財団 経営企画グループ	係長

(2) 調査検討会議の開催

1) 第1回協力者会議

委員:9人

期日:2014年5月23日(金)17:00~18:45

会場:笹川スポーツ財団会議室

2) 第2回協力者会議

委員:9人

期日:2014年9月12日(金)16:00~18:00

会場:笹川スポーツ財団会議室

3) 第3回協力者会議

委員:7人

期日:2014年12月11日(木)17:00~19:00

会場:笹川スポーツ財団会議室

4) 第4回協力者会議

委員:8人

期日:2015年3月4日(水)16:00~18:00

会場:笹川スポーツ財団会議室

II. スポーツボランティアとは

1. スポーツボランティアの定義

ボランティアの語源は、ラテン語の voluntas（ウォランタス）であり、自由意志や自主性を意味している。文部省（現・文部科学省）「スポーツにおけるボランティア活動の実態等に関する調査研究協力者会議」（2000）では、スポーツボランティアを以下のとおり定義している。

【スポーツボランティアの定義】

地域におけるスポーツクラブやスポーツ団体において、報酬を目的としないで、クラブ・団体の運営や指導活動を日常的に支えたり、また、国際競技大会や地域スポーツ大会などにおいて、専門的能力や時間などを進んで提供し、大会の運営を支える人のこと

2. スポーツボランティアの政策の中での位置付け

2011年に「スポーツ基本法」が制定され、これに基づき2012年に「スポーツ基本計画」が策定された。現在、我が国のスポーツ政策では、国のスポーツ基本計画を参考に、各都道府県・市区町村で地方スポーツ推進計画を策定し、スポーツ振興が図られることが期待されている。

スポーツ基本計画では、『スポーツボランティア』について言及されている。14か所に記載があるが、主に以下の「第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策」で触れられている。今後の具体的な施策として「スポーツボランティア活動の普及促進」を目指しており、主に国は、スポーツボランティア活動に関する国民の関心を高め、地方公共団体は、貢献がある者の功績を称え、地方公共団体やスポーツ団体等は、スポーツボランティアの参画環境を整えることが期待されている。

また、都道府県や市区町村のスポーツ推進計画にも、スポーツボランティアに関する施策が明文化されている例がある。

【スポーツ基本計画(2012):ボランティア関連部分抜粋】

第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策

2. 若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体づくり支援等ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

(1) ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進

③ 今後の具体的施策展開:

(スポーツボランティア活動の普及促進)

- 国は、地方公共団体、大学・研究機関、スポーツ団体、民間事業者等と連携を図りつつ、スポーツボランティア活動に関する事例の紹介等の普及・啓発活動を通して、スポーツボランティア活動に対する国民の関心を高める。
- 地方公共団体においては、スポーツボランティアとして大きな貢献がある者を、例えば「スポーツボランティアマスター（仮称）」として認定しその功績を称えること等により、スポーツボランティア活動を奨励することが期待される。
- 地方公共団体やスポーツ団体等においては、地域住民が、日常的に総合型クラブをはじめとした地域スポーツクラブやスポーツ団体等の運営に参画できたり、校区運動会や地域スポーツ大会等のスポーツイベントの運営・実施やスポーツの指導に参画できる環境を整えることが期待される。

3. スポーツボランティアの分類

スポーツボランティアは役割とその範囲から、大きく三つに分類することができる。不定期的な「イベントボランティア」、定期的な「クラブ・団体ボランティア」、トップアスリートやプロスポーツ選手による「アスリートボランティア」である(図表1)。

○イベントボランティア

イベントボランティアは、地域における市民マラソン大会や運動会、更には国民体育大会(国体)や国際大会を支えるボランティアを指しており、不定期的な活動と言える。

イベントボランティアのうち、専門的な知識や技術が必要な「専門ボランティア」としては、審判員や通訳、医療救護員、データ処理、そして大会役員などが挙げられる。

「一般ボランティア」には、特別な技術や知識が不要で、誰にでも容易に関わることができる給水・給食、案内・受付、記録・掲示、交通整理、運搬・運転、そして選手の滞在・訪問を受け入れるホストファミリーなどがある。

市民マラソン大会の例で見ると、受付や給水、コース整理などのほかに、視覚障害者のランナーをサポートする伴走ボランティアランナーといった活動もある。

○クラブ・団体ボランティア

クラブ・団体ボランティアは、地域スポーツクラブやスポーツ団体におけるボランティアを指しており、日常的で定期的な活動と言える。

具体的には、地域のスポーツ少年団やママさんバレーなどで監督やコーチを務める「ボランティア指導者」や、監督やコーチが指導する際の指導アシスタントも含まれる。また、クラブや団体の役員や幹事、練習時に給水などを担当する世話係、更に競技団体役員も「運営ボランティア」に位置付けられる。

○アスリートボランティア

アスリートボランティアは、現役・OB のプロスポーツ選手やトップアスリートによるボランティア活動で、オフシーズンに福祉施設を訪ねたり、ジュニアのスポーツ指導や地域のイベントに参加するなどの社会貢献活動が挙げられる。プロ野球選手やプロサッカー選手の活動はもとより、最近では様々な種目のトップアスリートが集まってNPO法人などを組織し、活動するケースが増えている。東日本大震災の発生以降は、組織、個人に関わらず、多くのアスリートが被災地に出向き、復興支援にボランティアとして携わっている。

図表1 スポーツボランティアの分類

イベントボランティア (地域スポーツ大会、国際・全国スポーツ大会) <非日常的・不定期的活動>
専門ボランティア (審判、通訳、医療救護、大会役員、データ処理など)
一般ボランティア (給水・給食、案内・受付、記録・掲示、交通整理、運搬・運転、ホストファミリーなど)
クラブ・団体ボランティア (クラブ・スポーツ団体) <日常的・定期的活動>
ボランティア指導者 (監督・コーチ、指導アシスタント)
運営ボランティア (クラブ役員・監事、世話係、運搬・運転、広報、データ処理、競技団体役員など)
アスリートボランティア
トップアスリート・プロスポーツ選手 (ジュニアの指導、施設訪問、地域イベントへの参加など)

山口「スポーツ・ボランティアへの招待」(2004)、
 文部科学省「スポーツにおけるボランティア活動の実態等に関する調査研究報告書」(2000)より作成

Ⅲ. 調査報告

(1) スポーツボランティア活動に関する組織・団体の 実態調査

主な調査結果

6割の組織・団体がスポーツイベントをきっかけに設立

地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体について、設立経緯を見ると、「全国的なスポーツイベントをきっかけにボランティア組織を設立した」(21.3%)が最も多かった。次いで「国際的なスポーツイベントをきっかけにボランティア組織を設立した」と「地域のスポーツイベントをきっかけにボランティア組織を設立した」(19.7%)が同率で、約6割の組織・団体がスポーツイベントをきっかけに設立されていた。【図表 1-4】

6割のトップスポーツチームがボランティア組織・団体を活用

プロスポーツを含む 21 リーグに所属しているトップスポーツチームについて、現在、チームの試合やイベント等でボランティアを「活用している」と回答したチームは 58.3%(67 チーム)であった。サッカーの J1 と J2、バスケットボールの bj リーグでは、活用しているチーム数(活用率)がそれぞれ 8 チーム(88.9%)、11 チーム(100.0%)、7 チーム(100.0%)と多かった。【図表 1-27、図表 1-28】

地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体では 60 代、トップスポーツチームが活用しているボランティア組織・団体では 20～40 代が活動の中心

地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体の登録者の中で、最も多い年代を一つ尋ねたところ、「60 代」(54.0%)が最も多く、次いで「70 代以上」(18.0%)であり、活動の中心となっている年代は 60 代であることが分かった。

一方、トップスポーツチームが活用しているボランティア組織・団体の登録者の中で、最も多い年代を一つ尋ねたところ、「30 代」(27.0%)が最も多く、次いで「20 代」と「40 代」(24.3%)であった。トップスポーツチームが活用しているボランティア組織・団体は 20～40 代が活動の中心となっている。【図表 1-11、図表 1-39】

地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体では登録者の口コミ、トップスポーツチームが活用しているボランティア組織・団体ではウェブサイトがボランティア募集に効果的

地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体について、最も効果的な登録者の募集方法は「ボランティア登録者の口コミ」(27.8%)が最も多く、次いで「チームやボランティア組織・団体のウェブサイト」(22.2%)であった。

一方、トップスポーツチームが活用しているボランティア組織・団体では、「チームやボランティア組織・団体のウェブサイト」(52.6%)が最も多く、次いで「ボランティア登録者の口コミ」(31.6%)であった。【図表 1-21、図表 1-47】

新規の登録者や運営の中心となる人材の不足が課題

地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体の活動上の課題について、あてはまるものを複数回答で尋ねたところ、「新しい登録者が集まらない」(50.8%)が最も多く、次いで「運営の中心となる登録者が不足している」(33.8%)であった。

トップスポーツチームが活用しているボランティア組織・団体についても同様に、「新しい登録者が集まらない」(54.1%)が最も多く、次いで「運営の中心となる登録者が不足している」(41.0%)であった。【図表 1-18、図表 1-44】

1. 調査概要

1. 1 調査目的

本調査は、地域におけるスポーツボランティア組織・団体の実態や、トップスポーツチームのボランティアの活用状況を明らかにすることによって、スポーツにおけるボランティア活動の担い手(個人や組織・団体)の要件を整理し、活動の活性化のための今後の方向性と「支えるスポーツ」の推進を図るための基礎資料とすることを目的とした。

1. 2 調査対象

調査対象は以下の 384 組織・団体とした。

- ① 地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体(81 団体)
笹川スポーツ財団「スポーツ振興に関する自治体調査」(2013)の結果などを参考に得られた、地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体(一部、全国で活動している組織・団体も含む)
(例:一般財団法人東京マラソン財団、埼玉県スポーツボランティア など)
- ② トップスポーツチーム(303 チーム)
主にトップリーグ連携機構に登録されているリーグに所属するチームと、その他プロリーグや地域リーグに所属するチーム(11 競技、21 リーグ)

1. 3 調査方法及び回収結果

(1) 調査方法

郵送法による質問紙調査。

対象によってスポーツボランティアの活用状況の特性が異なるため、以下の 2 種類の調査票を用いた。

- ① 地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体を対象とした調査票
- ② トップスポーツチームを対象とした調査票

(2) 調査内容

- ・活動開始時期
- ・登録者数、男女比、年代
- ・初期登録料や年会費
- ・講習会の有無
- ・活動に伴うインセンティブ(物品や行事の特典)
- ・課題
- ・募集方法
- ・活動内容
- ・活発度
- ・ボランティアの活用の有無(トップスポーツチームのみ)

(3) 回収数（回収率）

180 票（46.9%）

それぞれの対象について、回収数(回収率)は以下のとおりである(図表 1-1)。また、②トップスポーツチームを対象とした調査については、リーグ別に見た回収数(回収率)の内訳を図表 1-2 に示した。

図表 1-1 回収結果

対象	配布数	有効回答数	回収率(%)
①地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体	81	65	80.2
②トップスポーツチーム	303	115	38.0

図表 1-2 トップスポーツチームのリーグ別に見た回収率

No.	リーグ名称	略称	配布数	有効回答数	回収率(%)
サッカー					
1	日本プロサッカーリーグ ディビジョン1	J1	18	9	50.0
2	日本プロサッカーリーグ ディビジョン2	J2	22	11	50.0
3	J3 リーグ	J3	12	3	25.0
4	日本フットボールリーグ	JFL	14	9	64.3
5	日本女子サッカーリーグ なでしこリーグ	なでしこリーグ	26	7	26.9
野球					
6	セントラル・リーグ	セ・リーグ	6	3	50.0
7	パシフィック・リーグ	パ・リーグ	6	3	50.0
8	ベースボール・チャレンジ・リーグ	BC リーグ	6	1	16.7
9	四国アイランドリーグ plus	-	4	2	50.0
10	日本女子プロ野球リーグ	JWBL	1	1	100.0
バスケットボール					
11	日本プロバスケットボールリーグ	bj リーグ	21	7	33.3
12	ナショナルバスケットボールリーグ	NBL	21	4	19.0
13	バスケットボール女子日本リーグ	WJBL	12	2	16.7
その他					
14	日本バレーボールリーグ	V リーグ	36	15	41.7
15	日本女子ソフトボールリーグ	JSL	26	10	38.5
16	日本社会人アメリカンフットボール X リーグ	X リーグ	18	7	38.9
17	日本ハンドボールリーグ	JHL	16	4	25.0
18	ジャパンラグビートップリーグ	JRTL	16	8	50.0
19	日本フットサルリーグ	F リーグ	10	3	30.0
20	女子ホッケー日本リーグ	HJL	8	5	62.5
21	アジアリーグアイスホッケー	ALIH	4	1	25.0
計			303	115	38.0

注 1) 原則 2013 年度リーグに参加していたチームを対象とした

注 2) V リーグはチャレンジリーグを含む（ただし、パイオニアレッドウィングスは廃部のため対象外）

注 3) NBL は NBDL を、なでしこリーグはチャレンジリーグを含む

注 4) JWBL はチームの事務局が一括のため配布先は 1 か所のみとし、ALIH は国内のチームのみ対象とした

(4) 調査期間

2014 年 8 月 22 日～2014 年 9 月 30 日

2. 調査結果(①地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体)

2.1 地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体について

(1) 都道府県別に見たスポーツボランティア組織・団体

回答が得られた地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体について、都道府県別に集計すると以下のとおりである(図表 1-3)。

図表 1-3 都道府県別に見たスポーツボランティア組織・団体数

都道府県	組織・団体数(%)	都道府県	組織・団体数(%)
北海道	5 (7.7)	愛知県	3 (4.6)
青森県	1 (1.5)	三重県	1 (1.5)
岩手県	1 (1.5)	京都府	1 (1.5)
宮城県	3 (4.6)	大阪府	4 (6.2)
福島県	1 (1.5)	兵庫県	1 (1.5)
茨城県	1 (1.5)	広島県	1 (1.5)
栃木県	2 (3.1)	山口県	5 (7.7)
埼玉県	6 (9.2)	徳島県	1 (1.5)
千葉県	1 (1.5)	愛媛県	1 (1.5)
東京都	10 (15.4)	福岡県	3 (4.6)
神奈川県	4 (6.2)	佐賀県	1 (1.5)
富山県	1 (1.5)	大分県	1 (1.5)
石川県	1 (1.5)	宮崎県	1 (1.5)
岐阜県	1 (1.5)	計	65 (100.0)
静岡県	3 (4.6)		

(2) 組織・団体の設立経緯

組織・団体の設立経緯については、「全国的なスポーツイベントをきっかけにボランティア組織を設立した」(21.3%)が最も多く、次いで「国際的なスポーツイベントをきっかけにボランティア組織を設立した」と「地域のスポーツイベントをきっかけにボランティア組織を設立した」(19.7%)が同率であった。6割以上の組織・団体がスポーツイベントをきっかけに設立されていたことが確認できた(図表 1-4)。

図表 1-4 スポーツボランティア組織・団体の設立の経緯

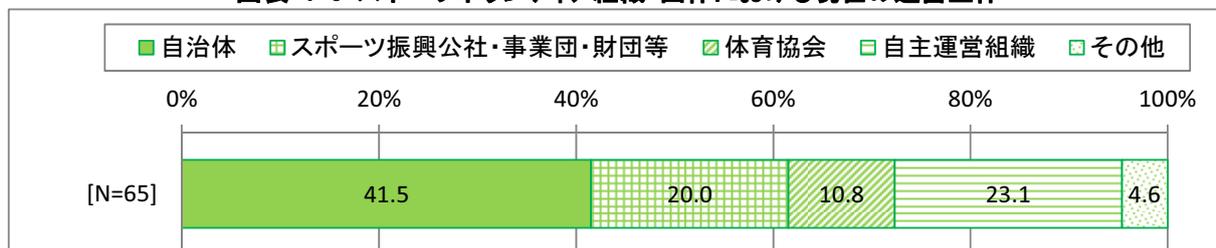
(%)

No.	設立経緯の類型化	(n=61)
1	全国的なスポーツイベントをきっかけにボランティア組織を設立した	21.3
2	国際的なスポーツイベントをきっかけにボランティア組織を設立した	19.7
	地域のスポーツイベントをきっかけにボランティア組織を設立した	19.7
4	スポーツの普及やスポーツボランティア文化を醸成するために設立した	9.8
	日常的なスポーツクラブの運営・指導を担う人材を確保するために設立した	9.8
6	スポーツに関する行政計画に基づき設立した	6.6
—	その他	13.1

(3) 組織・団体における現在の運営主体

組織・団体における現在の運営主体については、「自治体」(41.5%)が最も多く、次いで「自主運営組織」(23.1%)、「スポーツ振興公社・事業団・財団等」(20.0%)であった(図表 1-5)。

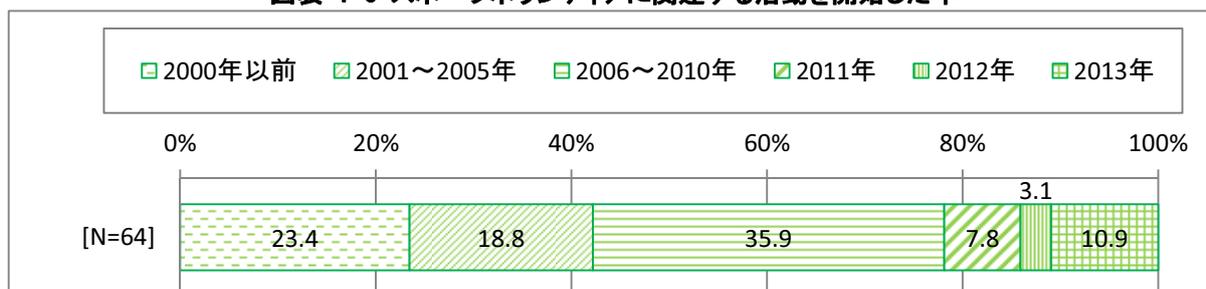
図表 1-5 スポーツボランティア組織・団体における現在の運営主体



(4) スポーツボランティアに関連する活動を開始した年

スポーツボランティアに関連する活動を開始した年については、「2006～2010年」(35.9%)が最も多く、次いで「2000年以前」(23.4%)、「2001～2005年」(18.8%)であった(図表 1-6)。

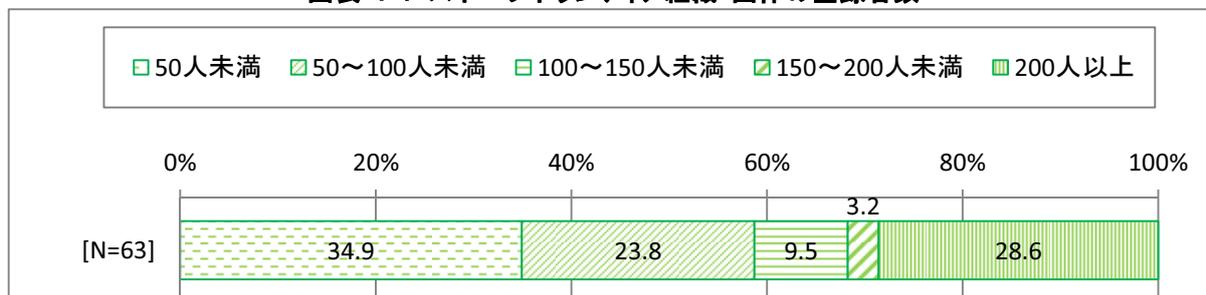
図表 1-6 スポーツボランティアに関連する活動を開始した年



(5) 登録者数

登録者数については、「50人未満」(34.9%)が最も多く、次いで「200人以上」(28.6%)、「50～100人未満」(23.8%)であった(図表 1-7)。

図表 1-7 スポーツボランティア組織・団体の登録者数

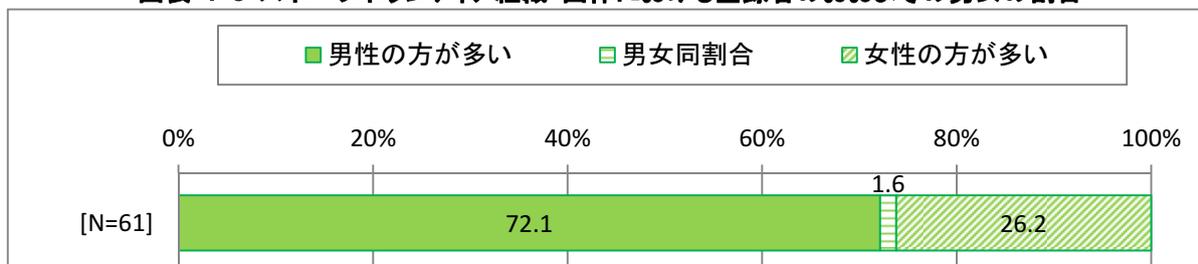


(6) 登録者の男女の割合

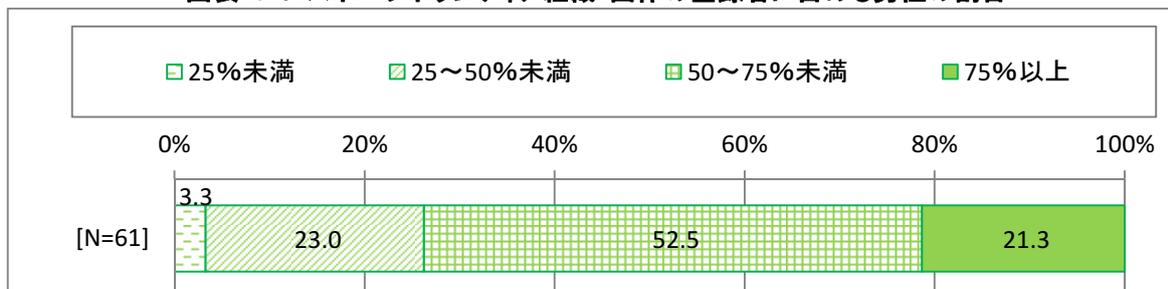
登録者のおおよその男女の割合については、「男性の方が多い」が 72.1%、「女性の方が多い」が 26.2%、「男女同割合」が 1.6%であった(図表 1-8)。

登録者に占める男性の割合については、「50～75%未満」(52.5%)が最も多く、次いで「25～50%未満」(23.0%)であり、平均値は 59.8%であった(図表 1-9)。

図表 1-8 スポーツボランティア組織・団体における登録者のおおよその男女の割合



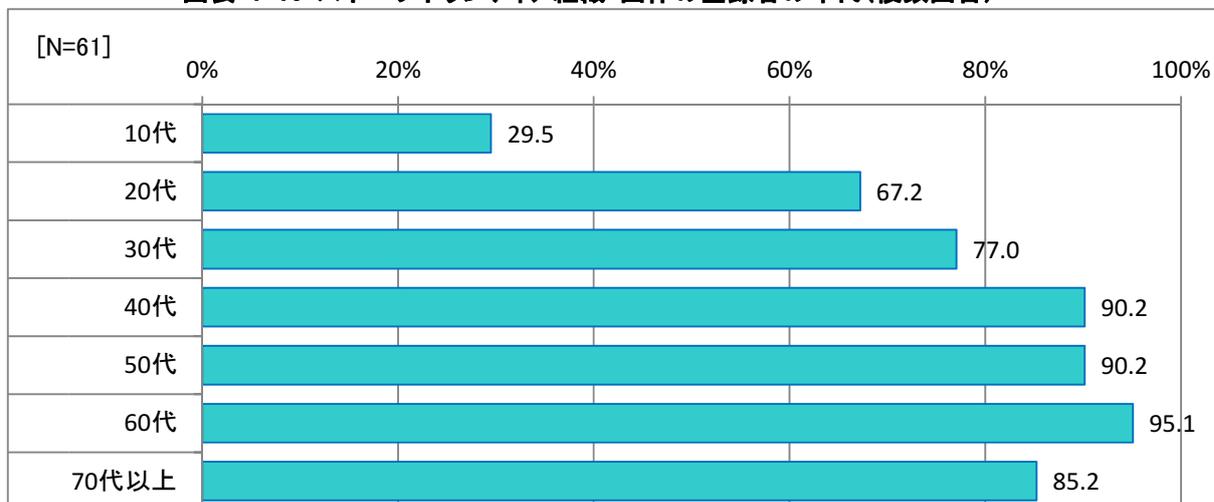
図表 1-9 スポーツボランティア組織・団体の登録者に占める男性の割合



(7) 登録者の年代

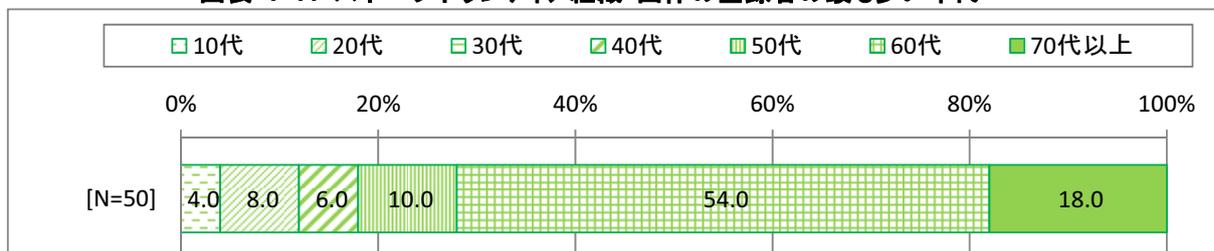
登録者の年代について複数回答で尋ねたところ、「60代」(95.1%)が最も多く、次いで「40代」「50代」(90.2%)、「70代以上」(85.2%)であった。(図表 1-10)。

図表 1-10 スポーツボランティア組織・団体の登録者の年代(複数回答)



登録者の中で最も多い年代を一つ尋ねたところ、「60代」(54.0%)が最も多く、次いで「70代以上」(18.0%)であった。40代、50代の登録者が在籍している組織・団体は9割以上あるものの(図表 1-10 参照)、活動の中心となっている年代は、60代、70代以上であることが確認できた(図表 1-11)。

図表 1-11 スポーツボランティア組織・団体の登録者の最も多い年代



(8) 登録者の初期登録料や年会費

登録者の初期登録料や年会費は「集めていない」が最も多かった(それぞれ 93.5% (58 団体)、83.6% (51 団体))。一方、初期登録料を集めている組織・団体は 6.5%(4 団体)、年会費を集めて運営している組織・団体は 16.4%(10 団体)であった。「その他」の回答としては、正会員や準会員で異なる金額(1,000～5,000 円程度)を集めている組織・団体などがあつた(図表 1-12)。

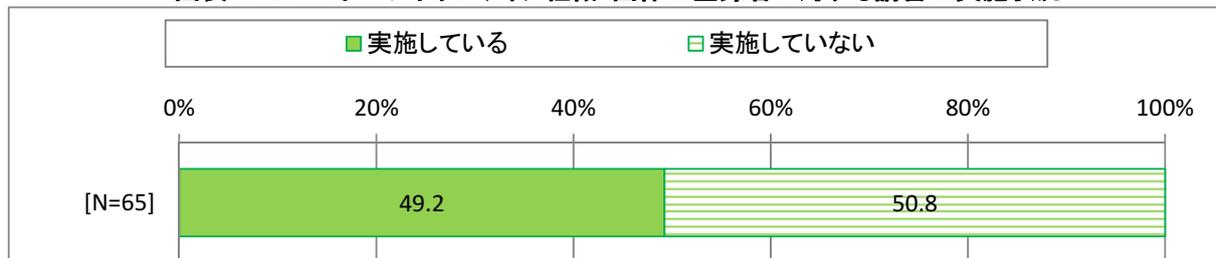
図表 1-12 スポーツボランティア組織・団体における登録者の初期登録料や年会費

	集めていない	集めている	150 円	1,000 円	1,500 円	2,000 円	その他
初期登録料 (n=62)	58(93.5%)	4(6.5%)	1(1.6%)	1(1.6%)	1(1.6%)	1(1.6%)	0
年会費 (n=61)	51(83.6%)	10(16.4%)	0	4(6.6%)	2(3.3%)	2(3.3%)	2(3.3%)

(9) 登録者に対する講習の実施状況と実施回数

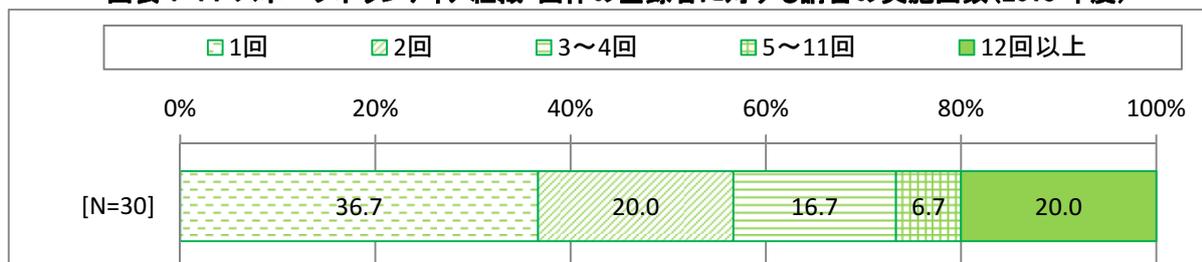
登録者に対する講習(ボランティア養成講習会、リスクマネジメント研修会など)の実施状況については、「実施している」が49.2%、「実施していない」が50.8%であった(図表 1-13)。

図表 1-13 スポーツボランティア組織・団体の登録者に対する講習の実施状況



2013年度の実施回数については、「1回」(36.7%)が最も多く、次いで、「2回」「12回以上」が20.0%であった。実施回数の平均値は6.1回であった(図表 1-14)。

図表 1-14 スポーツボランティア組織・団体の登録者に対する講習の実施回数(2013年度)

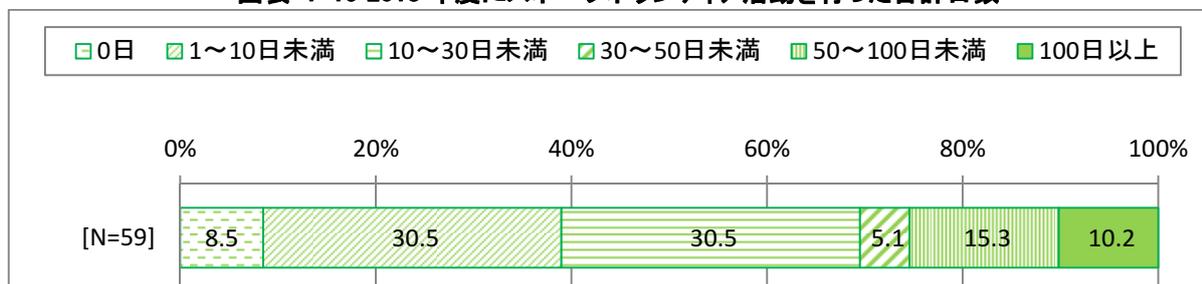


注) 全国に支部を持つ組織・団体の総数データは除外

(10) 2013年度にスポーツボランティア活動を行った合計日数

2013年度にスポーツボランティア活動を行った合計日数については、「1~10日未満」と「10~30日未満」が30.5%と最も多く、次いで「50~100日未満」(15.3%)であった。スポーツボランティア活動を行った合計日数の平均値は34.8日であった(図表 1-15)。

図表 1-15 2013年度にスポーツボランティア活動を行った合計日数

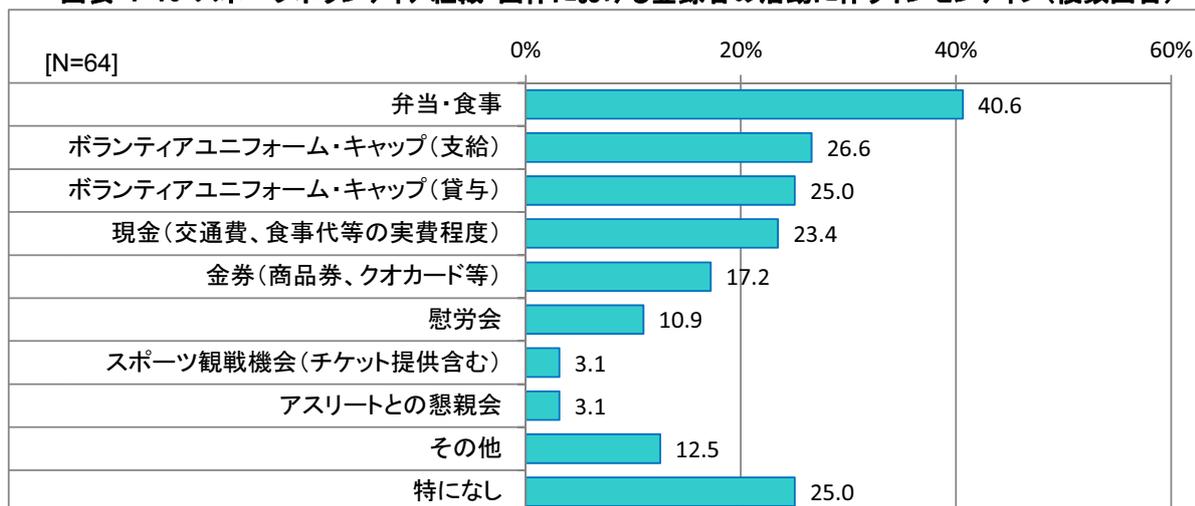


注) 延べ日数の組織・団体もある

(11) 登録者の活動に伴うインセンティブ（物品や行事の特典）

本調査の対象である組織・団体が、独自に提供している登録者へのインセンティブ（物品や行事の特典）について複数回答で尋ねたところ、「弁当・食事」（40.6%）が最も多く、次いで「ボランティアユニフォーム・キャップ（支給）」（26.6%）、「ボランティアユニフォーム・キャップ（貸与）」（25.0%）、「現金（交通費、食事代等の実費程度）」（23.4%）であった。「その他」の回答としては、「参加賞」などがあり、「特になし」も25.0%であった（図表 1-16）。

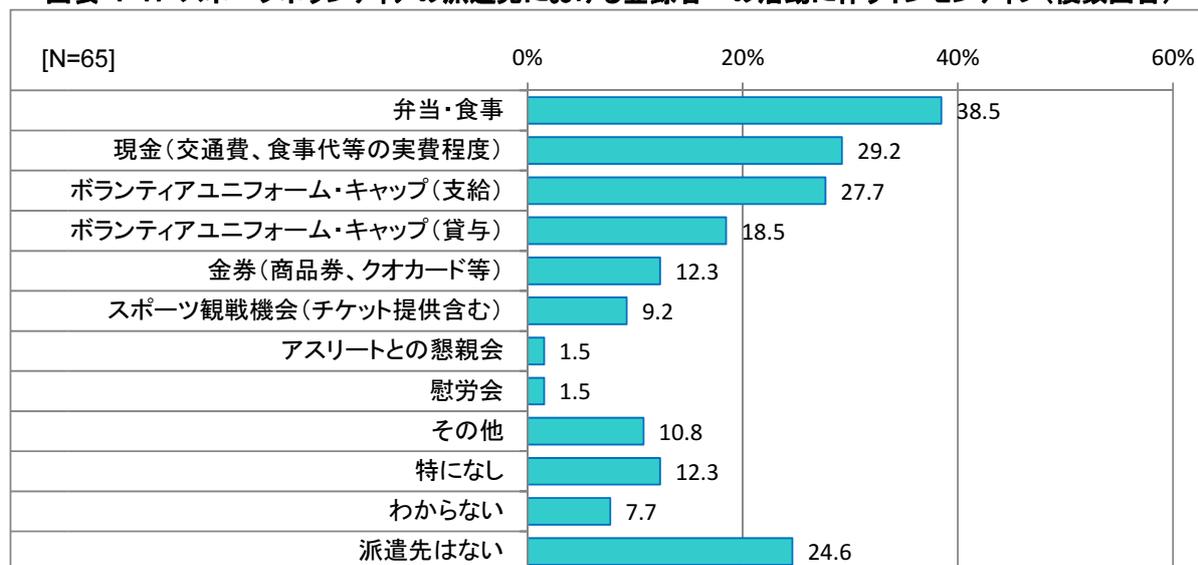
図表 1-16 スポーツボランティア組織・団体における登録者の活動に伴うインセンティブ（複数回答）



(12) 派遣先における登録者への活動に伴うインセンティブ（物品や行事の特典）

スポーツボランティアの派遣先（大会やイベントの主催者など）が、それぞれで提供している登録者へのインセンティブについて複数回答で尋ねたところ、「弁当・食事」（38.5%）が最も多く、次いで「現金（交通費、食事代等の実費程度）」（29.2%）、「ボランティアユニフォーム・キャップ（支給）」（27.7%）であった（図表 1-17）。

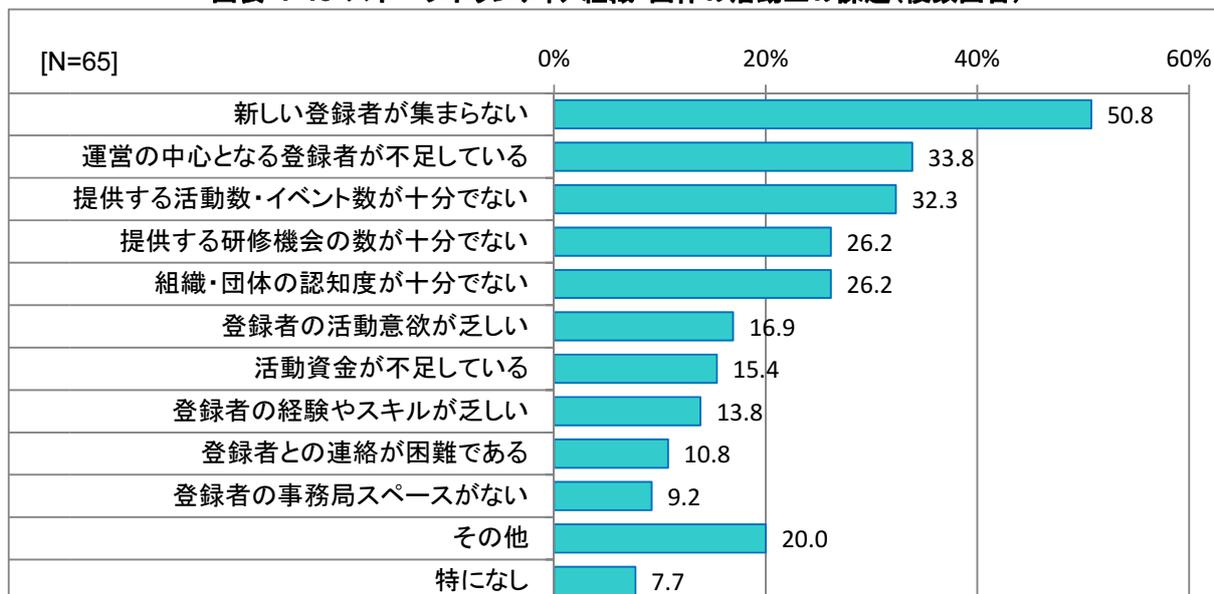
図表 1-17 スポーツボランティアの派遣先における登録者への活動に伴うインセンティブ（複数回答）



(13) 活動上の課題

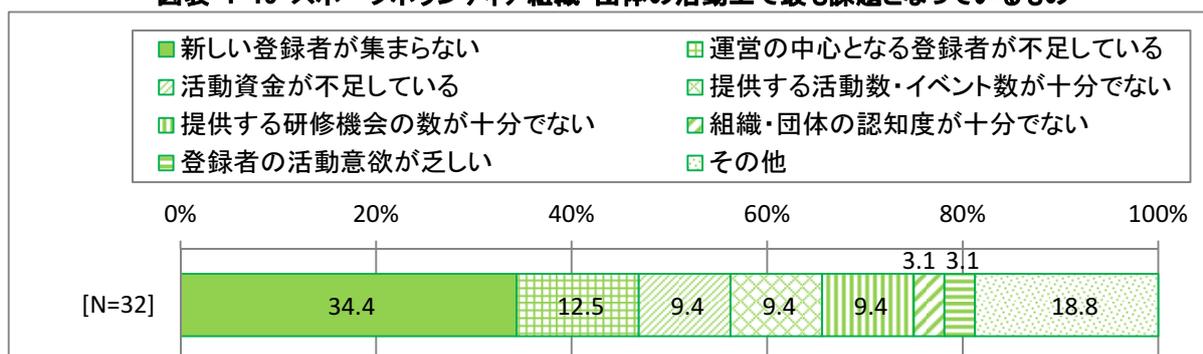
活動上の課題について、あてはまるものを複数回答で尋ねたところ、「新しい登録者が集まらない」(50.8%)が最も多く、次いで「運営の中心となる登録者が不足している」(33.8%)、「提供する活動数・イベント数が十分でない」(32.3%)であった。「その他」の回答としては、「登録者が高齢化している」「登録者やイベントの情報管理が十分でない」などがあつた(図表 1-18)。

図表 1-18 スポーツボランティア組織・団体の活動上の課題(複数回答)



最も課題となっているものを一つ尋ねたところ、「新しい登録者が集まらない」(34.4%)が最も多く、次いで「その他」(18.8%)、「運営の中心となる登録者が不足している」(12.5%)であった(図表 1-19)。

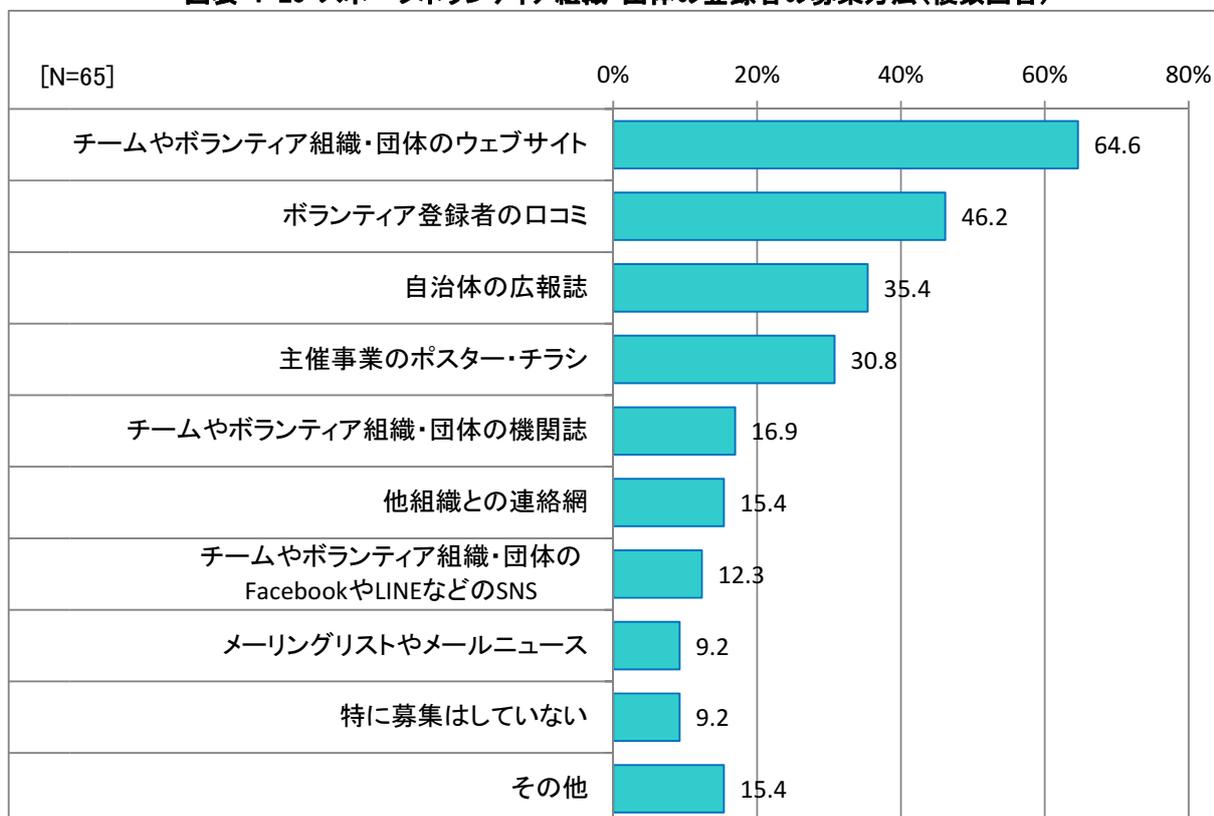
図表 1-19 スポーツボランティア組織・団体の活動上で最も課題となっているもの



(14) 登録者の募集方法

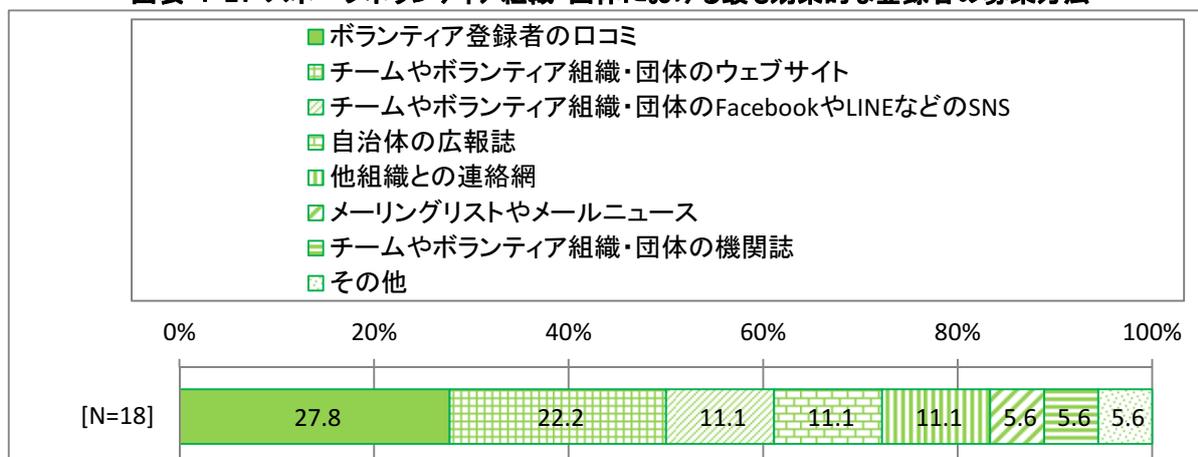
登録者の募集方法について、あてはまるものを複数回答で尋ねたところ、「チームやボランティア組織・団体のウェブサイト」(64.6%)が最も多く、次いで「ボランティア登録者の口コミ」(46.2%)、「自治体の広報誌」(35.4%)であった。「その他」の回答としては、「講習会や研修での告知」などがあつた(図表 1-20)。

図表 1-20 スポーツボランティア組織・団体の登録者の募集方法(複数回答)



最も効果的な登録者の募集方法を一つ尋ねたところ、「ボランティア登録者の口コミ」(27.8%)が最も多く、次いで「チームやボランティア組織・団体のウェブサイト」(22.2%)であった(図表 1-21)。

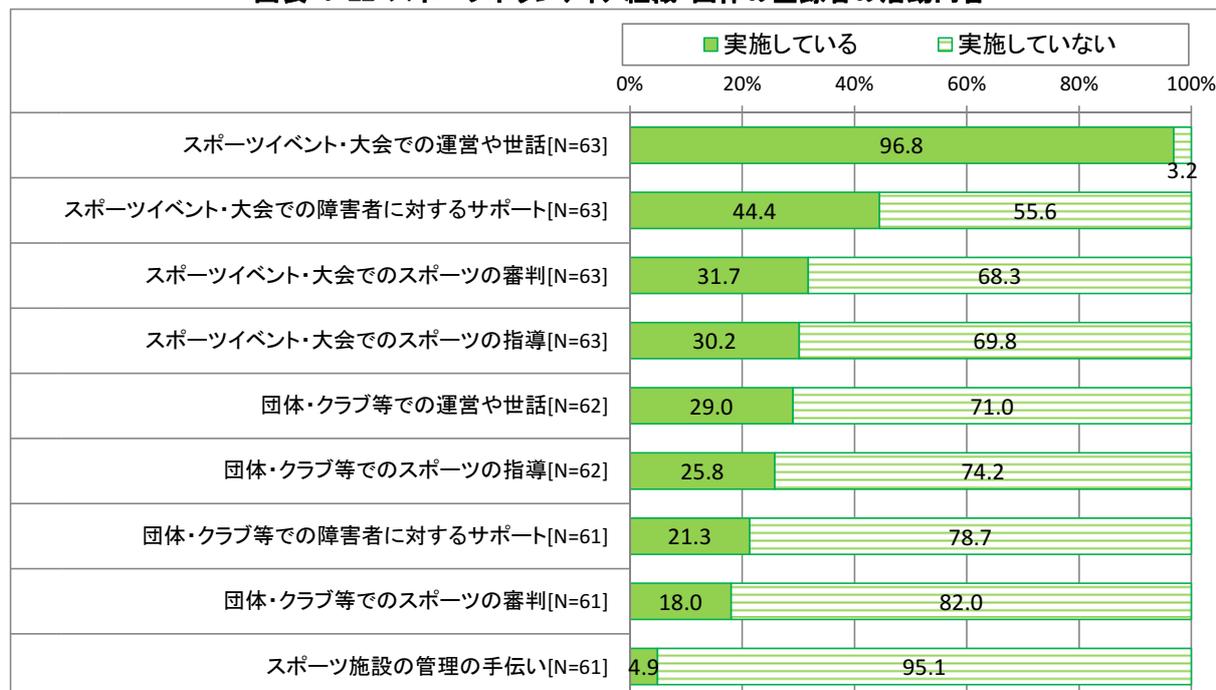
図表 1-21 スポーツボランティア組織・団体における最も効果的な登録者の募集方法



(15) 登録者の活動内容

登録者の活動内容について、具体的な内容別に実施の有無を尋ねたところ、「実施している」と回答した内容については、「スポーツイベント・大会での運営や世話」(96.8%)が最も多く、次いで「スポーツイベント・大会での障害者に対するサポート」(44.4%)、「スポーツイベント・大会でのスポーツの審判」(31.7%)であった(図表 1-22)。

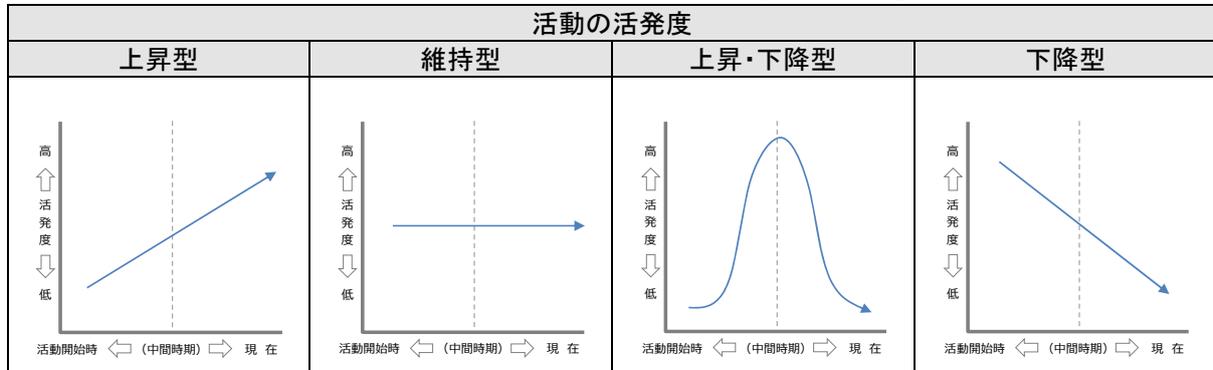
図表 1-22 スポーツボランティア組織・団体の登録者の活動内容



(16) 組織・団体における活動の活発度

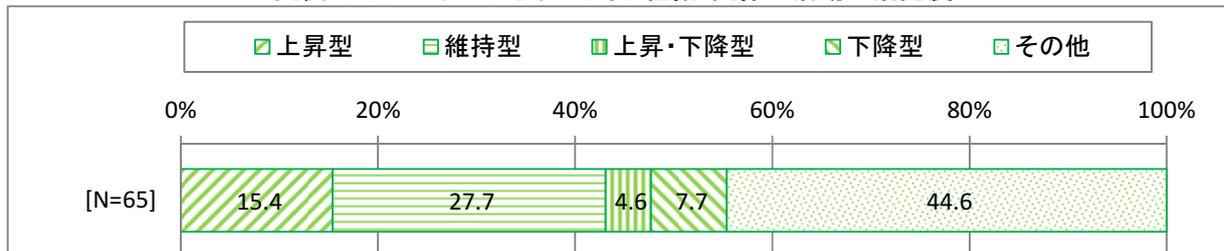
組織・団体における、スポーツボランティアに関する事業の活動開始時から現在に至るまでの活動の活発度について、図表 1-23 に示した四つのパターンから回答を得た。

図表 1-23 スポーツボランティア組織・団体における活動の活発度の選択肢

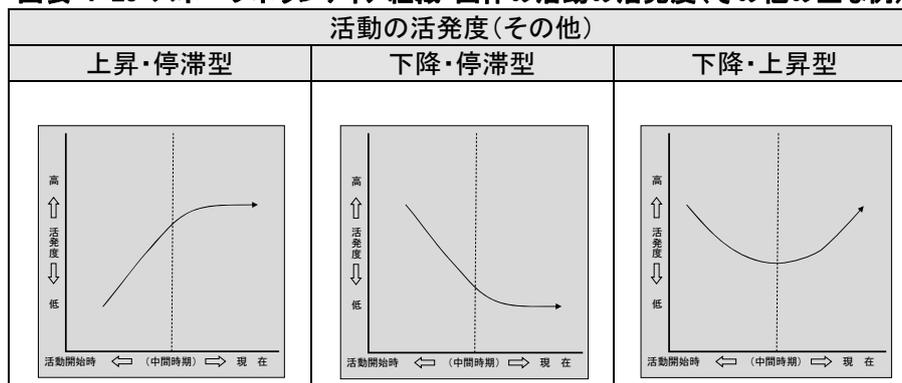


その結果、「その他」(44.6%)が最も多く、次いで「維持型」(27.7%)、「上昇型」(15.4%)であった(図表 1-24)。「その他」の回答としては、「上昇・停滞型」「下降・停滞型」「下降・上昇型」などがあつた(図表 1-25)。

図表 1-24 スポーツボランティア組織・団体の活動の活発度



図表 1-25 スポーツボランティア組織・団体の活動の活発度(その他の主な例)



(17) 活発度別に見たスポーツボランティア組織・団体の課題

活発度別にスポーツボランティア組織・団体の課題を尋ね、上位三つの課題を図表 1-26 に示した。上昇型は「新しい登録者が集まらない」「組織・団体の認知度が十分ではない」(40.0%)が最も多く、次いで「活動資金が不足している」「登録者の活動意欲が乏しい」(30.0%)であった。維持型は「新しい登録者が集まらない」(66.7%)が最も多く、次いで「提供する研修機会の数が十分でない」(33.3%)、「組織・団体の認知度が十分でない」(27.8%)であった。

図表 1-26 活発度別に見たスポーツボランティア組織・団体の課題(複数回答)

上昇型(n=10)			維持型(n=18)		
順位	項目	(%)	順位	項目	(%)
1	新しい登録者が集まらない	40.0	1	新しい登録者が集まらない	66.7
	組織・団体の認知度が十分でない	40.0	2	提供する研修機会の数が十分でない	33.3
3	活動資金が不足している	30.0	3	組織・団体の認知度が十分でない	27.8
	登録者の活動意欲が乏しい	30.0			

上昇・下降型(n=3)			下降型(n=5)		
順位	項目	(%)	順位	項目	(%)
1	新しい登録者が集まらない	100.0	1	運営の中心となる登録者が不足している	80.0
2	運営の中心となる登録者が不足している	66.7	2	提供する活動数・イベント数が十分でない	60.0
	組織・団体の認知度が十分でない	33.3	3	新しい登録者が集まらない	40.0
	提供する活動数・イベント数が十分でない	33.3		組織・団体の認知度が十分でない	40.0
	登録者の経験やスキルが乏しい	33.3			

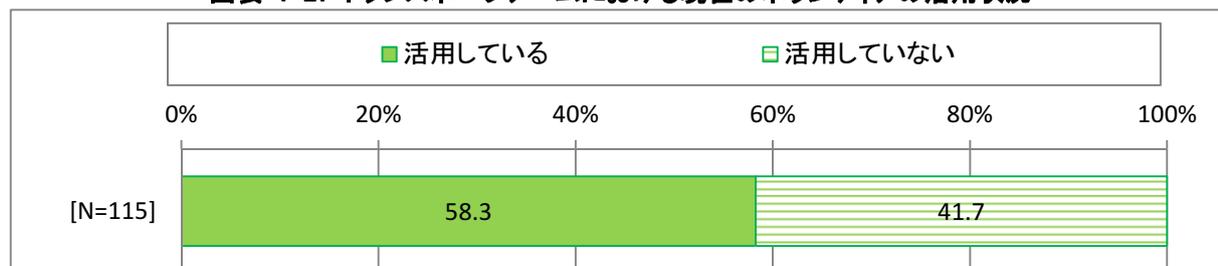
3. 調査結果(②トップスポーツチーム)

3. 1 トップスポーツチームにおけるボランティアの活用について

(1) 現在のボランティアの活用状況

チームの試合やイベント等での、現在のボランティアの活用状況について尋ねたところ、「活用している」と回答したチームが 58.3% (67 チーム)、「活用していない」が 41.7%であった(図表 1-27)。

図表 1-27 トップスポーツチームにおける現在のボランティアの活用状況



(2) リーグ別に見た現在のボランティアの活用状況

リーグ別に見た現在のボランティアの活用状況を図表 1-28 に示した。「日本プロサッカーリーグ ディビジョン1(J1)」と「日本プロサッカーリーグ ディビジョン2(J2)」、「日本プロバスケットボールリーグ(bjリーグ)」について、活用しているチーム数(活用率)がそれぞれ8チーム(88.9%)、11チーム(100.0%)、7チーム(100.0%)と高いことが分かった。

図表 1-28 トップスポーツチームのリーグ別に見たボランティアの活用状況

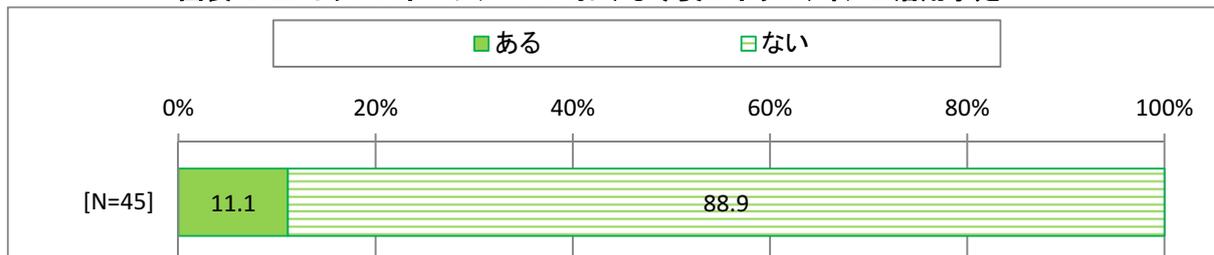
No.	リーグ名称	略称	有効回答数	活用している チーム数(活用率%)
サッカー				
1	日本プロサッカーリーグ ディビジョン1	J1	9	8 (88.9)
2	日本プロサッカーリーグ ディビジョン2	J2	11	11 (100.0)
3	J3リーグ	J3	3	3 (100.0)
4	日本フットボールリーグ	JFL	9	6 (66.7)
5	日本女子サッカーリーグ なでしこリーグ	なでしこリーグ	7	4 (57.1)
野球				
6	セントラル・リーグ	セ・リーグ	3	1 (33.3)
7	パシフィック・リーグ	パ・リーグ	3	2 (66.7)
8	ベースボール・チャレンジ・リーグ	BCリーグ	1	1 (100.0)
9	四国アイランドリーグ plus	-	2	2 (100.0)
10	日本女子プロ野球リーグ	JWBL	1	1 (100.0)
バスケットボール				
11	日本プロバスケットボールリーグ	bjリーグ	7	7 (100.0)
12	ナショナルバスケットボールリーグ	NBL	4	2 (50.0)
13	バスケットボール女子日本リーグ	WJBL	2	1 (50.0)
その他				
14	日本バレーボールリーグ	Vリーグ	15	6 (40.0)
15	日本女子ソフトボールリーグ	JSL	10	0 (0.0)
16	日本社会人アメリカンフットボール Xリーグ	Xリーグ	7	3 (42.9)
17	日本ハンドボールリーグ	JHL	4	3 (75.0)
18	ジャパンラグビートップリーグ	JRTL	8	2 (25.0)
19	日本フットサルリーグ	Fリーグ	3	2 (66.7)
20	女子ホッケー日本リーグ	HJL	5	1 (20.0)
21	アジアリーグアイスホッケー	ALIH	1	1 (100.0)
計			115	67 (58.3)

注) 配布数と回収率は図表 1-2 参照

(3) 今後のボランティアの活用予定

現在、ボランティアを活用していないチームに対して、今後のボランティアの活用予定を尋ねたところ、予定が「ある」と回答したチームが 11.1% (5 チーム)、「ない」が 88.9%であった(図表 1-29)。

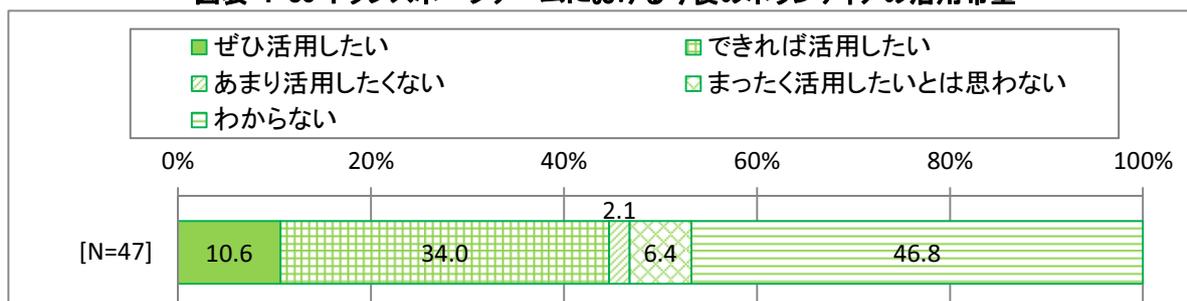
図表 1-29 トップスポーツチームにおける今後のボランティアの活用予定



(4) 今後のボランティアの活用希望

現在、ボランティアを活用していないチームについて、今後のチームの試合やイベント等でボランティアの活用を希望するかどうかを尋ねた。その結果、「わからない」(46.8%)が最も多く、次いで「できれば活用したい」が 34.0% (16 チーム)、「ぜひ活用したい」が 10.6% (5 チーム)であった(図表 1-30)。

図表 1-30 トップスポーツチームにおける今後のボランティアの活用希望

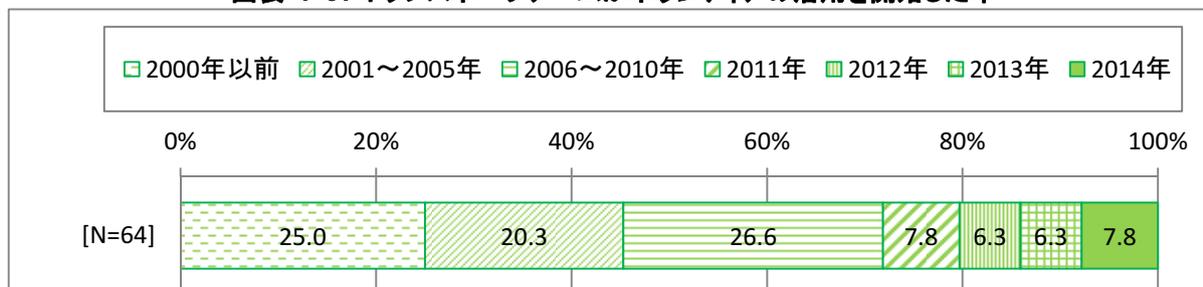


3. 2 現在ボランティアを活用しているチームについて

(1) ボランティアの活用を開始した年

ボランティアの活用を開始した年については、「2006～2010年」(26.6%)が最も多く、次いで「2000年以前」(25.0%)、「2001～2005年」(20.3%)であった(図表 1-31)。

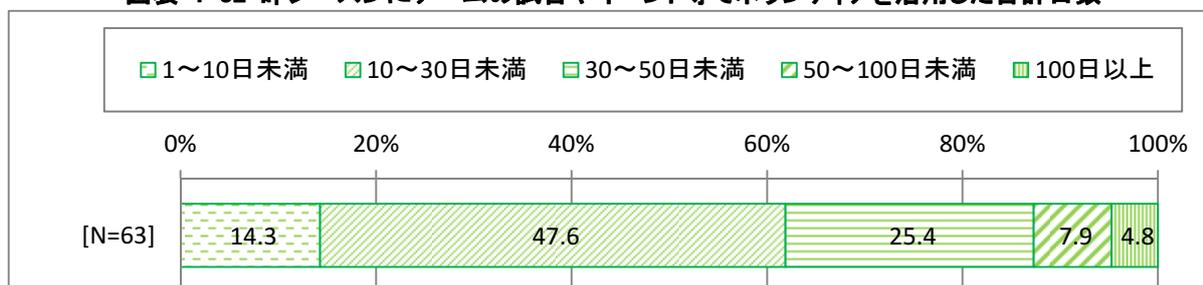
図表 1-31 トップスポーツチームがボランティアの活用を開始した年



(2) 昨シーズンにチームの試合やイベント等でボランティアを活用した合計日数

昨シーズンにチームの試合やイベント等でボランティアを活用した合計日数については、「10～30日未満」(47.6%)が最も多く、次いで「30～50日未満」(25.4%)、「1～10日未満」(14.3%)であった。合計日数の平均値は30.9日、最大値は200日であった(図表 1-32)。

図表 1-32 昨シーズンにチームの試合やイベント等でボランティアを活用した合計日数



注 1) 延べ日数のチームもある

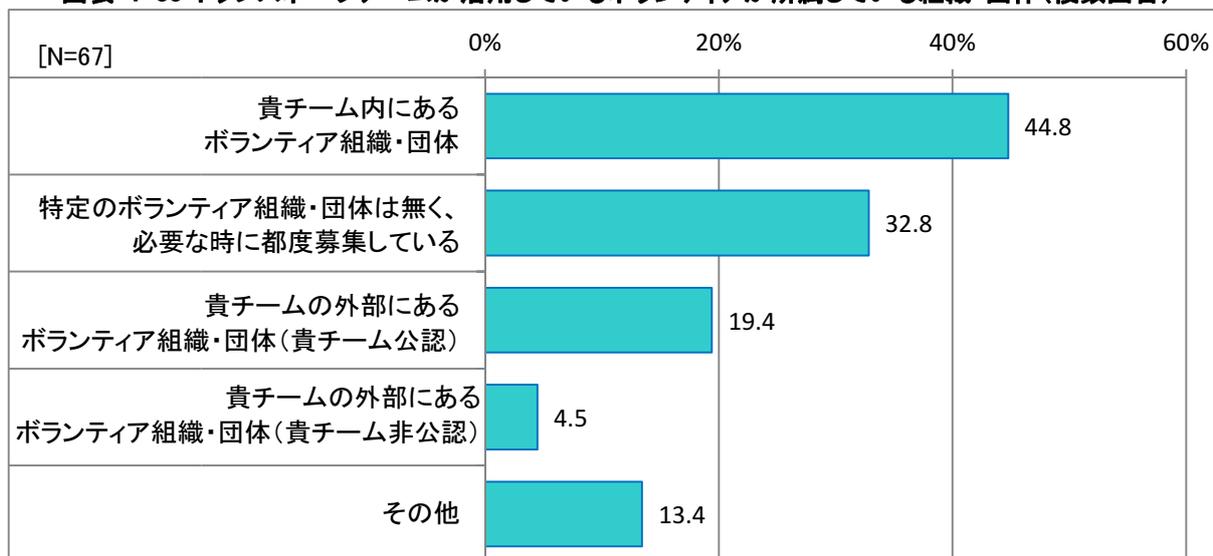
注 2) 昨シーズン：本調査期間（2014年8月～2014年9月）の前に終了した直近のシーズンのこと

3. 3 活用しているボランティア組織・団体について

(1) 活用しているボランティアが所属している組織・団体

活用しているボランティアが所属している組織・団体については、「貴チーム内にあるボランティア組織・団体」(44.8%)が最も多く、次いで「特定のボランティア組織・団体は無く、必要な時に都度募集している」(32.8%)であった(図表 1-33)。

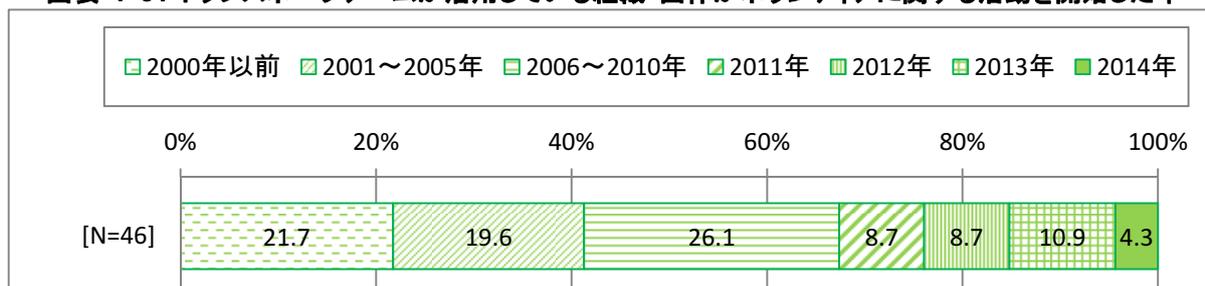
図表 1-33 トップスポーツチームが活用しているボランティアが所属している組織・団体(複数回答)



(2) 活用している組織・団体がボランティアに関する活動を開始した年

活用している組織・団体がボランティアに関する活動を開始した年については、「2006年～2010年」(26.1%)が最も多く、次いで「2000年以前」(21.7%)、「2001年～2005年」(19.6%)であった。(図表 1-34)

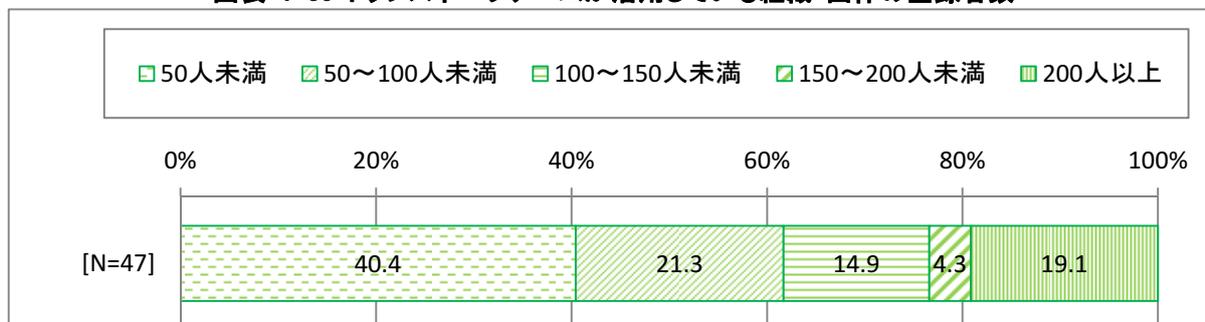
図表 1-34 トップスポーツチームが活用している組織・団体がボランティアに関する活動を開始した年



(3) 登録者数

登録者数については、「50 人未満」(40.4%)が最も多く、次いで「50～100 人未満」(21.3%)、「200 人以上」(19.1%)であった。登録者数の平均値は、98.0 人、最大値は 346 人であった(図表 1-35)。

図表 1-35 トップスポーツチームが活用している組織・団体の登録者数

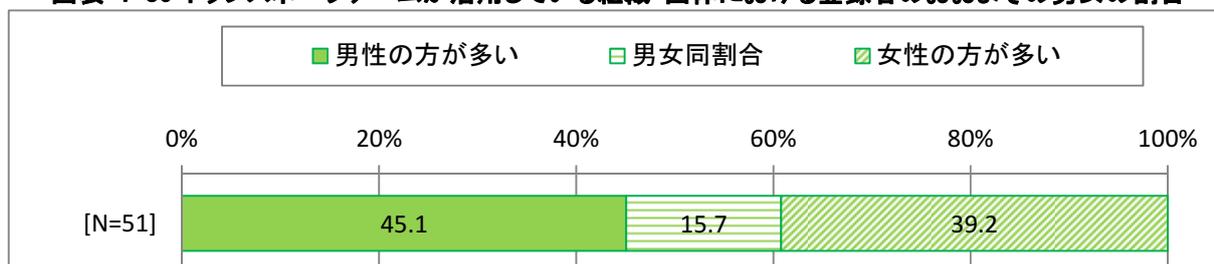


(4) 登録者の男女の割合

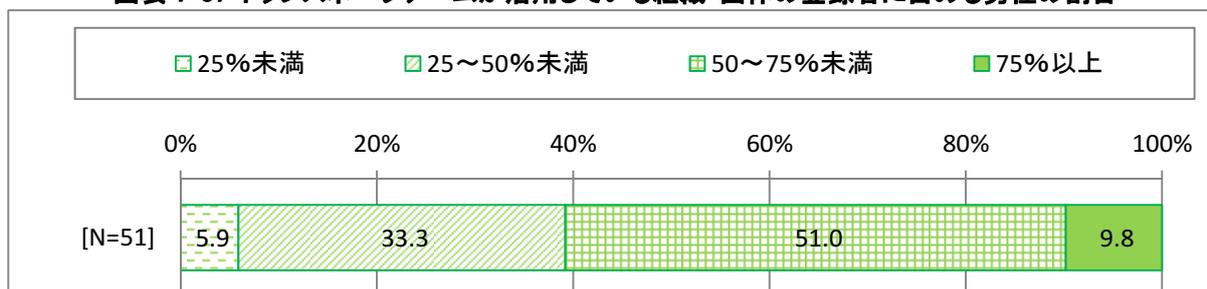
登録者のおおよその男女の割合については、「男性の方が多い」が 45.1%、「女性の方が多い」が 39.2%、「男女同割合」が 15.7%であった(図表 1-36)。

登録者に占める男性の割合では、「50～75%未満」(51.0%)が最も多く、次いで「25～50%未満」(33.3%)であり、平均値は 50.7%であった(図表 1-37)。

図表 1-36 トップスポーツチームが活用している組織・団体における登録者のおおよその男女の割合



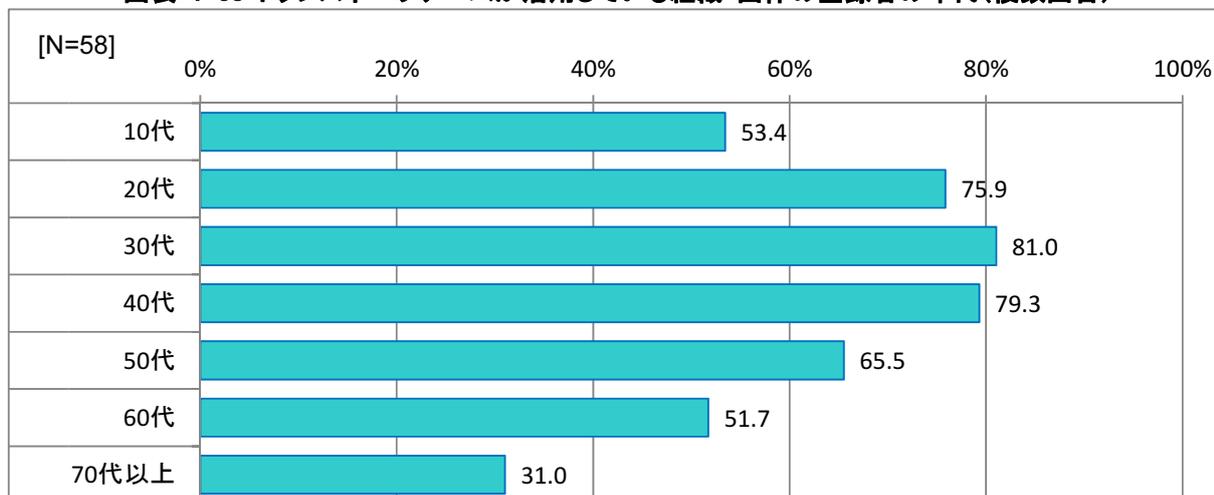
図表 1-37 トップスポーツチームが活用している組織・団体の登録者に占める男性の割合



(5) 登録者の年代

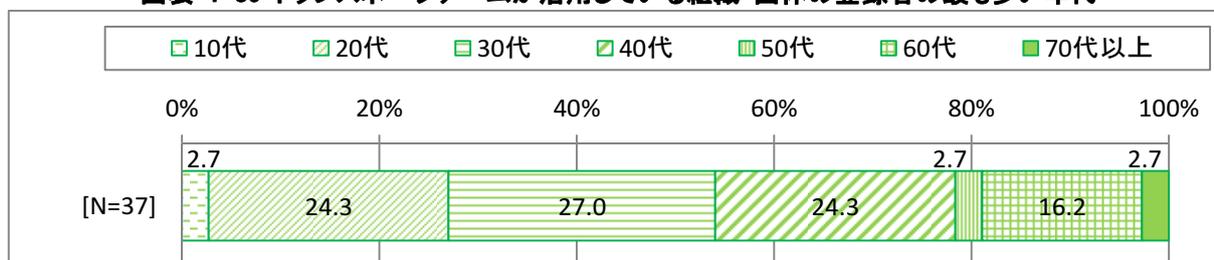
登録者の年代について複数回答で尋ねたところ、「30代」(81.0%)が最も多く、次いで「40代」(79.3%)、「20代」(75.9%)であった(図表 1-38)。

図表 1-38 トップスポーツチームが活用している組織・団体の登録者の年代(複数回答)



登録者の中で最も多い年代を一つ尋ねたところ、「30代」(27.0%)が最も多く、次いで「20代」と「40代」(24.3%)であった(図表 1-39)。60代、70代以上が活動の中心であった登録制度を持つスポーツボランティア組織・団体やスポーツボランティアの任意組織(図表 1-11 参照)に比べ、トップスポーツチームが活用しているボランティア組織・団体は20~40代が活動の中心を担っていることが確認できた。

図表 1-39 トップスポーツチームが活用している組織・団体の登録者の最も多い年代



(6) 登録者の初期登録料や年会費

登録者の初期登録料や年会費は「集めていない」が最も多かった(それぞれ 100.0% (56 団体)、94.6%(53 団体))。一方、年会費を集めている組織・団体も 5.4%(3 団体)あった。「その他」の回答としては、「12,000 円」があったが、ボランティア活動だけでなく、登録者が参加する懇親会の経費も含めた年会費として回収していた(図表 1-40)。

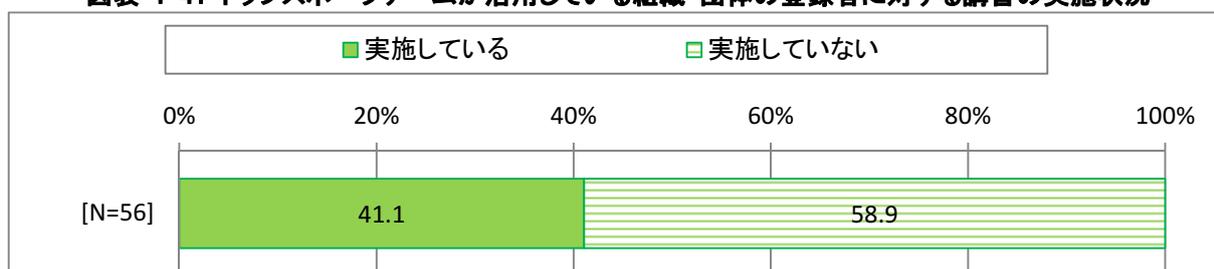
図表 1-40 トップスポーツチームが活用している組織・団体における登録者の初期登録料や年会費

	集めていない	集めている	1,000 円	3,000 円	その他
初期登録料 (n=56)	56(100.0%)	0	0	0	0
年会費 (n=53)	53(94.6%)	3(5.4%)	1(1.9%)	1(1.9%)	1(1.9%)

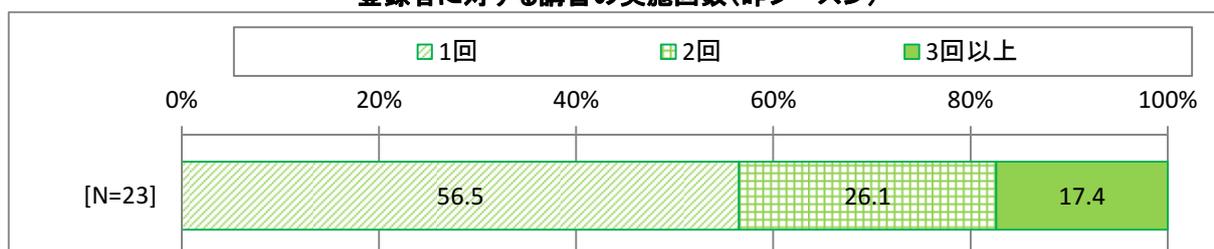
(7) 登録者に対する講習の実施状況と実施回数

登録者に対する講習(ボランティア養成講習会、リスクマネジメント研修会など)の実施状況については、「実施している」が 41.1%、「実施していない」が 58.9%であった(図表 1-41)。昨シーズンの実施回数については、「1 回」(56.5%)が最も多く、次いで「2 回」(26.1%)、「3 回以上」(17.4%)であった。最大値は 27 回であった(図表 1-42)。

図表 1-41 トップスポーツチームが活用している組織・団体の登録者に対する講習の実施状況



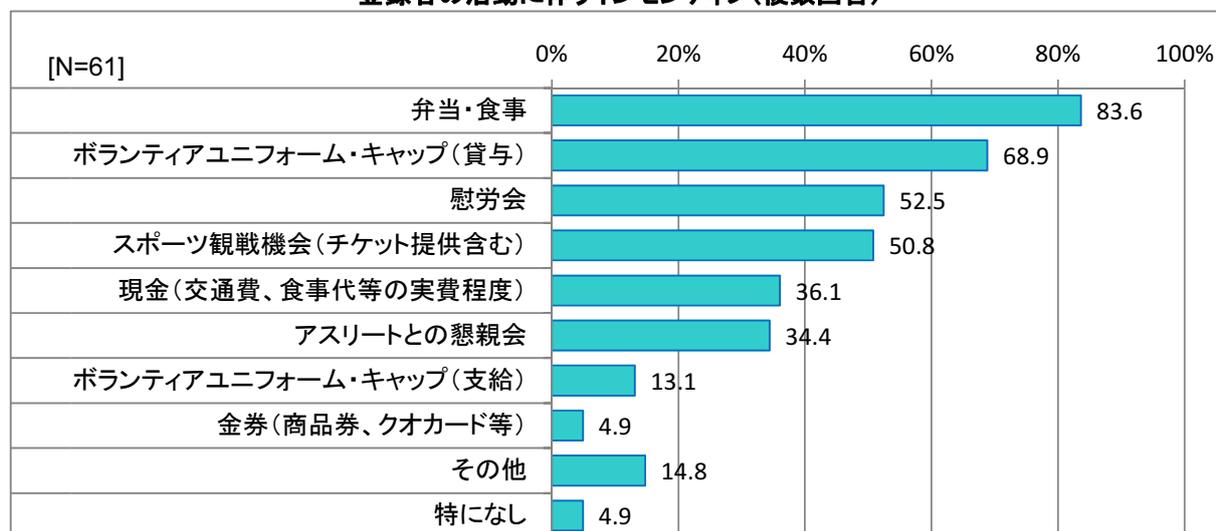
図表 1-42 トップスポーツチームが活用している組織・団体の登録者に対する講習の実施回数(昨シーズン)



(8) 登録者の活動に伴うインセンティブ（物品や行事の特典）

登録者の活動に伴うインセンティブ（物品や行事の特典）について複数回答で尋ねたところ、「弁当・食事」（83.6%）が最も多く、次いで「ボランティアユニフォーム・キャップ（貸与）」（68.9%）、「慰労会」（52.5%）であった。「その他」の回答としては、「チームのグッズ」「記念品」などがあつた（図表 1-43）。

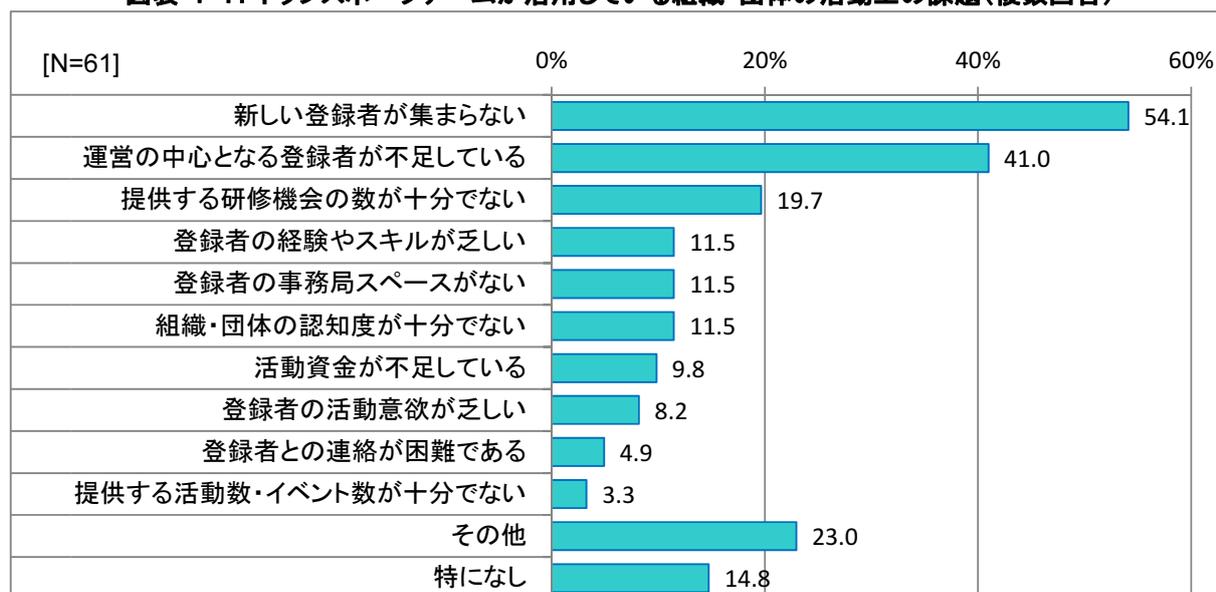
図表 1-43 トップスポーツチームが活用している組織・団体における登録者の活動に伴うインセンティブ（複数回答）



(9) 活動上の課題

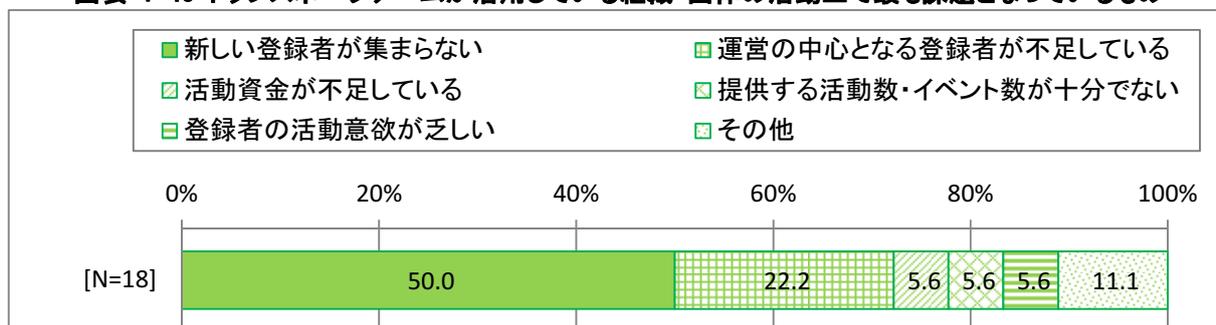
活動上の課題について、あてはまるものを複数回答で尋ねたところ、「新しい登録者が集まらない」（54.1%）が最も多く、次いで「運営の中心となる登録者が不足している」（41.0%）であった。「その他」の回答としては、「登録者が高齢化している」「登録者の定着が十分でない」「活動日や場所によって参加人数に偏りがある」などがあつた（図表 1-44）。

図表 1-44 トップスポーツチームが活用している組織・団体の活動上の課題（複数回答）



最も課題となっているものを一つ尋ねたところ、「新しい登録者が集まらない」(50.0%)が最も多く、次いで「運営の中心となる登録者が不足している」(22.2%)であった(図表 1-45)。

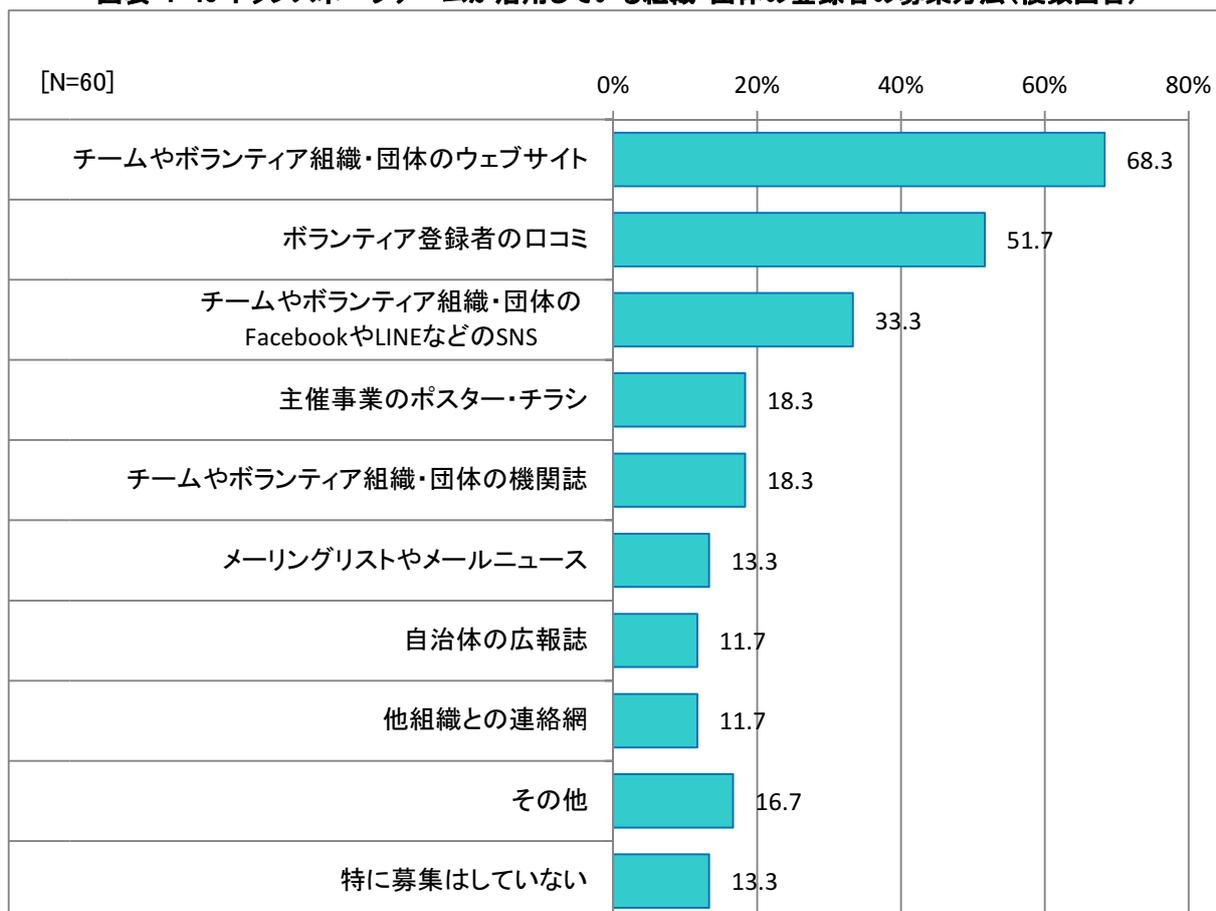
図表 1-45 トップスポーツチームが活用している組織・団体の活動上で最も課題となっているもの



(10) 登録者の募集方法

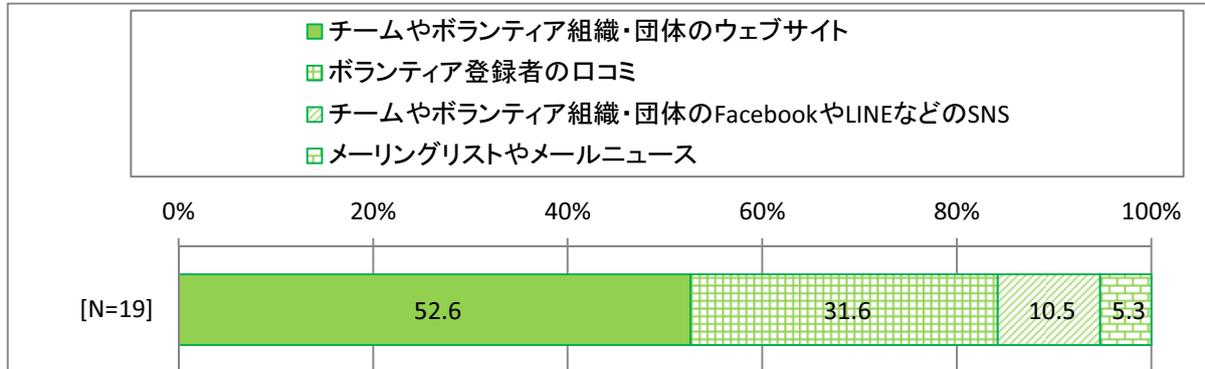
登録者の募集方法について、あてはまるものを複数回答で尋ねたところ、「チームやボランティア組織・団体のウェブサイト」(68.3%)が最も多く、次いで「ボランティア登録者の口コミ」(51.7%)、「チームやボランティア組織・団体の Facebook や LINE などの SNS」(33.3%)であった。「その他」の回答としては、「試合会場での告知」「大学や高校など学校での告知」などがあつた(図表 1-46)。

図表 1-46 トップスポーツチームが活用している組織・団体の登録者の募集方法(複数回答)



最も効果的な登録者の募集方法を一つ尋ねたところ、「チームやボランティア組織・団体のウェブサイト」(52.6%)が最も多く、次いで「ボランティア登録者の口コミ」(31.6%)、「チームやボランティア組織・団体のFacebook や LINE などの SNS」(10.5%)であった(図表 1-47)。

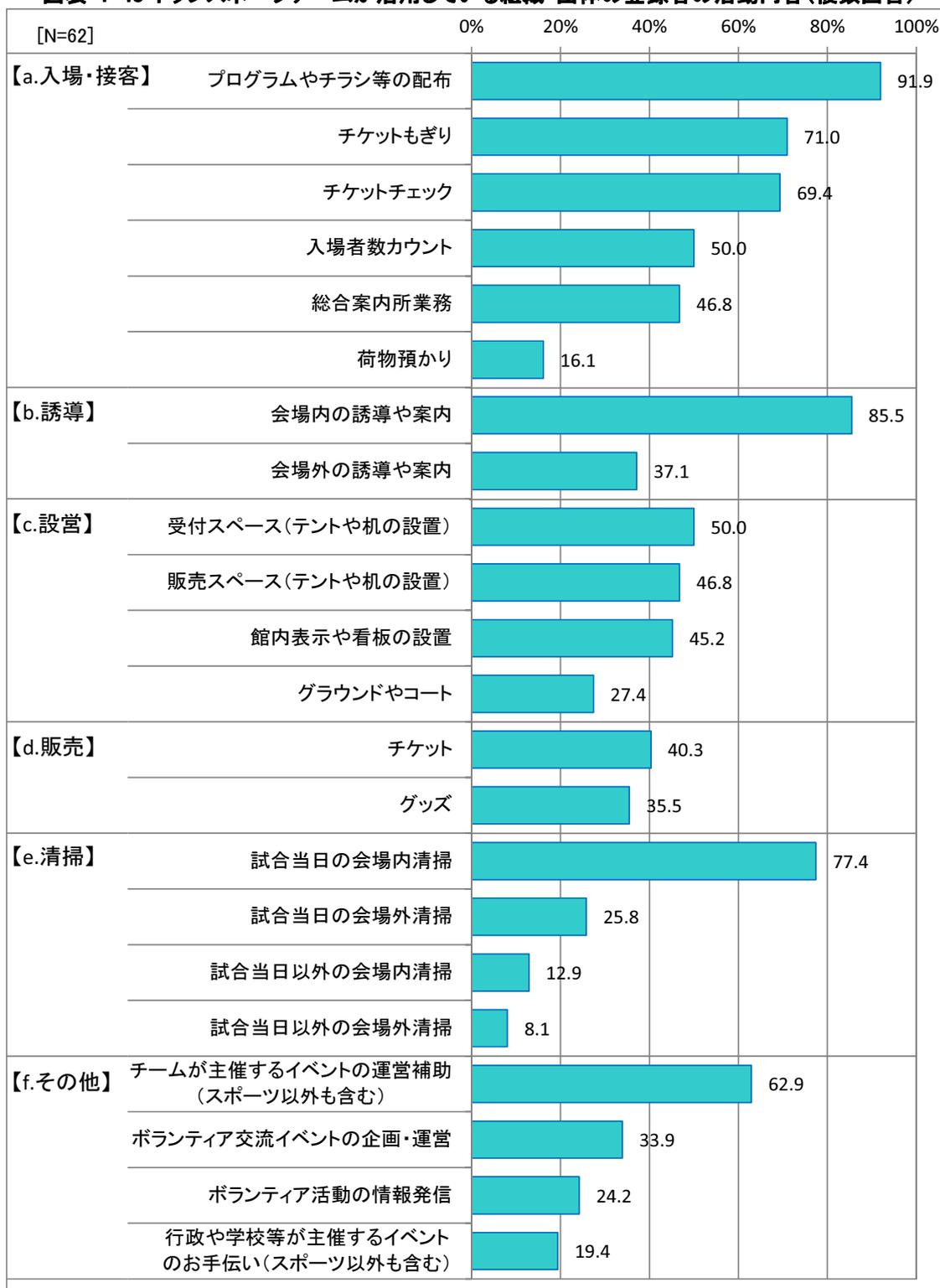
図表 1-47 トップスポーツチームが活用している組織・団体における最も効果的な登録者の募集方法



(11) 登録者の活動内容

登録者の活動内容について、具体的な内容別に実施の有無を尋ねたところ、「プログラムやチラシ等の配布」(91.9%)が最も多く、次いで「会場内の誘導や案内」(85.5%)、「試合当日の会場内清掃」(77.4%)であった(図表 1-48)。

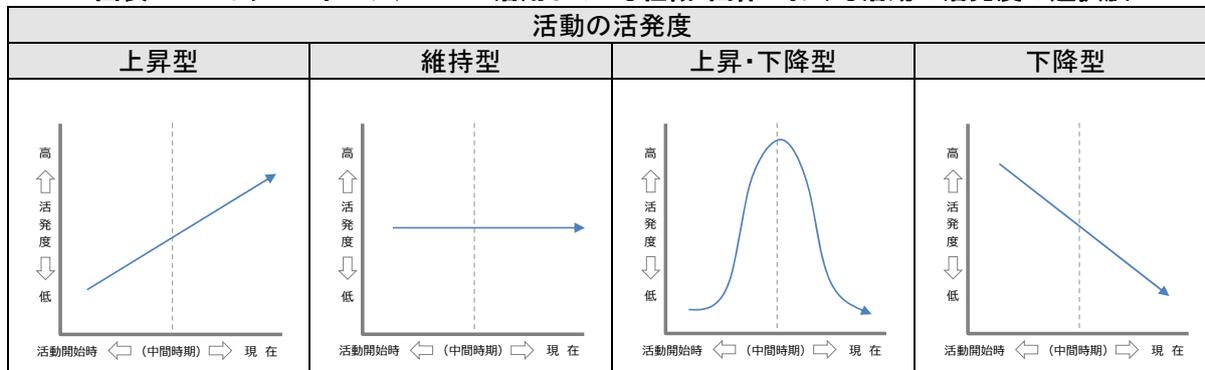
図表 1-48 トップスポーツチームが活用している組織・団体の登録者の活動内容(複数回答)



(12) 活用している組織・団体における活動の活発度

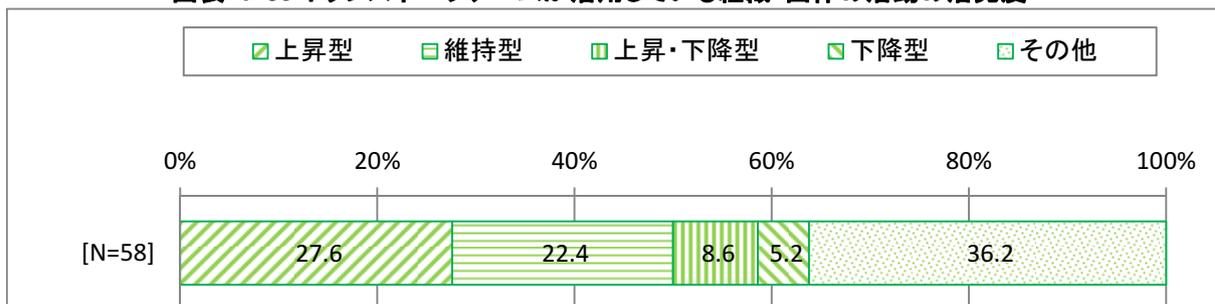
組織・団体における、スポーツボランティアに関する事業の活動開始時から現在に至るまでの活動の活発度について、図表 1-49 に示した四つのパターンから回答を得た。

図表 1-49 トップスポーツチームが活用している組織・団体における活動の活発度の選択肢

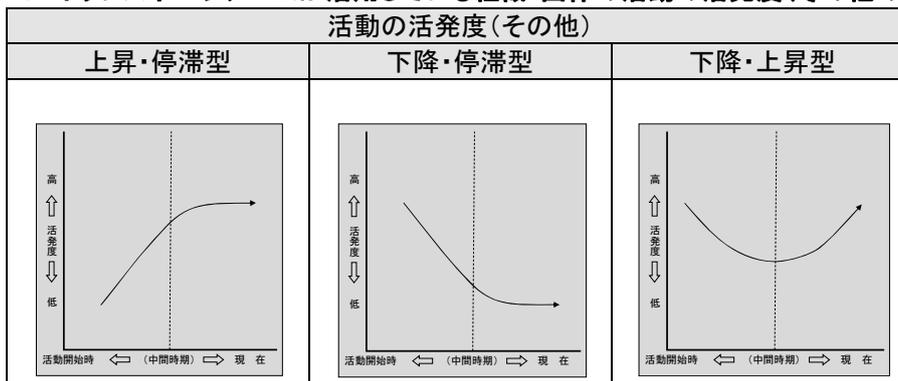


その結果、「その他」(36.2%)が最も多く、次いで「上昇型」(27.6%)であった(図表 1-50)。「その他」の回答としては、「上昇・停滞型」「下降・停滞型」「下降・上昇型」などがあつた(図表 1-51)。

図表 1-50 トップスポーツチームが活用している組織・団体の活動の活発度



図表 1-51 トップスポーツチームが活用している組織・団体の活動の活発度(その他の主な例)



(13) 活発度別に見たトップスポーツチームが活用している組織・団体の課題

活発度別にトップスポーツチームが活用している組織・団体の課題を調べ、上位三つの課題を整理した。上昇型は「運営の中心となる登録者が不足している」(40.0%)が最も多く、次いで「新しい登録者が集まらない」「特になし」(26.7%)であった。維持型は「新しい登録者が集まらない」(53.8%)が最も多く、次いで「運営の中心となる登録者が不足している」(38.5%)、「特になし」(30.8%)であった(図表 1-52)。

図表 1-52 活発度別に見たトップスポーツチームが活用している組織・団体の課題(複数回答)

上昇型(n=15)			維持型(n=13)		
順位	項目	(%)	順位	項目	(%)
1	運営の中心となる登録者が不足している	40.0	1	新しい登録者が集まらない	53.8
2	新しい登録者が集まらない	26.7	2	運営の中心となる登録者が不足している	38.5
	特になし	26.7	3	特になし	30.8

上昇・下降型(n=4)			下降型(n=3)		
順位	項目	(%)	順位	項目	(%)
1	新しい登録者が集まらない	100.0	1	新しい登録者が集まらない	100.0
2	運営の中心となる登録者が不足している	75.0	2	運営の中心となる登録者が不足している	33.3
3	組織・団体の認知度が十分でない	25.0		登録者の経験やスキルが乏しい	33.3
				活動資金が不足している	33.3
				登録者の活動意欲が乏しい	33.3
				登録者との連絡が困難である	33.3

(2) スポーツボランティア活動に関する組織・団体の 事例調査

1. 調査概要

1. 1 調査目的

本調査は、地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体やトップスポーツチームが活用しているボランティア組織・団体の実態を詳細に明らかにすることによって、スポーツにおけるボランティア活動の担い手(個人や組織・団体)の要件を整理し、活動の活性化のための今後の方向性と「支えるスポーツ」の推進を図るための基礎資料とすることを目的とした。

1. 2 調査方法

(1) 調査方法

現地訪問によるヒアリング調査

(2) 調査対象

- ①地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体については、運営主体やエリア、団体規模、活動内容などを考慮し、5 組織・団体を選定した。
- ②トップスポーツチームが活用しているボランティア組織・団体については、競技やエリア、団体規模などを考慮し、4 組織・団体を選定した。

図表 2-1 地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体の訪問先一覧

①地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体	
組織・団体名称	特徴
日産スタジアム運営ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ● スタジアム専属のボランティア組織 ● ボランティアが自発的・積極的に活動できるよう六つの部会を作り活動 ● 日産スタジアムで開催されるイベントに加え新横浜公園の環境・美化活動も実施
NPO法人 成田空港ボランティア・スカイレッツ	<ul style="list-style-type: none"> ● 長野オリンピック・パラリンピックで集まったボランティアが自主的に活動を継続し組織化 ● 新規ボランティアの受け入れと多様な活動依頼に応えるために組織改革を実施 ● 空港見学などの現場研修や英会話などのスキルアップ研修も提供
北九州市障害者スポーツボランティアの会 SKET(スケット)	<ul style="list-style-type: none"> ● 1992年に結成した障害者スポーツ指導組織を、大規模イベント開催を機に再編 ● 障害者スポーツセンター及び障害者スポーツ協会と連携したボランティアの養成・確保 ● 障害者スポーツセンターを拠点に多数の活動機会を提供
山口県スポーツボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ● 2011年の「おいでませ！山口国体」に向け、募集・養成したボランティアを組織化 ● ボランティアの窓口は各市町に委ね、県が活動内容や登録者数を集約 ● 「山口県スポーツボランティア手帳」が活動のモチベーション維持に貢献
埼玉県スポーツボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ● 2004年「彩の国まごころ国体」に参加したボランティアを組織化 ● イベント主催者とボランティアのマッチングを実施 ● QRコード、電子メール、登録用紙などの多様な登録方法で全ての年代に配慮

図表 2-2 トップスポーツチームが活用しているボランティア組織・団体の訪問先一覧

②トップスポーツチームが活用しているボランティア組織・団体	
組織・団体名称	特徴
川崎フロンターレボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ● ホームゲームと地域イベントで年間延べ150日以上ボランティアが活動 ● 「チューター制度」「リーダー制度」を設けてボランティアを運営 ● 「ボランティア活動ポイント制度」による活動継続の動機付け
仙台89ERSボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ● 仙台市内のスポーツボランティア団体と連携してボランティア組織を設立 ● チームとボランティアの一体感を積極的に醸成 ● シーズン終了後に開催するボランティアのための慰労会には、選手・チアリーダー等が全員参加
山雅後援会 TEAM VAMOS(チームバモス)	<ul style="list-style-type: none"> ● Jリーグ参入前にボランティア組織を設立。ホームゲームで1試合100人以上のボランティアが活動 ● 障害者のボランティア活動への参加機会を提供 ● ボランティアの自主性を重んじることで、試合運営の改善や質の高いおもてなしを実現
北海道 日本ハムファイターズボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間50日以上ホームゲームでボランティアが活動 ● リーダーを固定化せず当日の出欠状況に応じて球団職員が指名 ● ボランティア運営の質を確保するため、球団職員担当者向けのマニュアルを整備

(3) 調査内容

- ・基本情報(活動開始年、登録者数、活動日数、運営主体、主な活動場所など)
- ・設立経緯
- ・組織体制
- ・登録者の属性(性別、年代、居住地域など)
- ・年間予算
- ・登録者の募集方法
- ・活動内容
- ・運営について工夫している点
- ・活動に対するインセンティブ
- ・課題
- ・その他

(4) 調査訪問日時・場所

本調査における訪問日時、場所、担当者は以下のとおりである。

図表 2-3 調査訪問日時・場所

①地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体		
組織・団体名称	日時	場所
日産スタジアム運営ボランティア	2014年10月23日 13:00 ~ 14:00	日産スタジアム
NPO法人 成田空港ボランティア・スカイレッツ	2014年12月10日 16:30 ~ 18:00	船橋市内
北九州市障害者スポーツボランティアの会 SKET(スケット)	2014年10月31日 10:15 ~ 11:45	北九州市 障害者スポーツセンター「アレアス」
山口県スポーツボランティア	2014年10月30日 16:00 ~ 17:00	山口県庁
埼玉県スポーツボランティア	2014年11月11日 10:00 ~ 11:15	埼玉県庁
②トップスポーツチームが活用しているボランティア組織・団体		
組織・団体名称	日時	場所
川崎フロンターレボランティア	2014年10月23日 16:00 ~ 17:30	川崎フロンターレ事務所
仙台89ERSボランティア	2014年11月3日 14:30 ~ 16:00	仙台市内
山雅後援会 TEAM VAMOS(チームバモス)	2014年8月10日 11:00 ~ 12:00	長野県松本平 広域公園総合球技場「アルウィン」
北海道 日本ハムファイターズボランティア	2014年8月24日 11:00 ~ 12:30	北海道 日本ハムファイターズ事務所

日産スタジアム運営ボランティア

- スタジアム専属のボランティア組織
- ボランティアが自発的・積極的に活動できるよう六つの部会を作り活動
- 日産スタジアムで開催されるイベントに加え新横浜公園の環境・美化活動も実施

1. プロフィール

(1) 基本情報

図表 2-4 日産スタジアム運営ボランティアの基本情報

組織名	日産スタジアム運営ボランティア
活動開始年	1999年
登録者数	238人(2014年10月現在)
活動日数	41日(2014年度)
運営主体	公益財団法人 横浜市体育協会 新横浜公園管理局
主な活動場所	日産スタジアムで開催される横浜F・マリノスのホームゲーム、スタジアム自主事業 など

(2) 設立経緯

1997年に日産スタジアムが完成し、1998年3月に初のJリーグの試合、10月には「かながわ・ゆめ国体」の開会式などが開催された。大きなスポーツイベントが開催される中、スタジアム専属のボランティア組織を作る気運が高まり、1999年に日産スタジアム運営ボランティアを設立。2002年にはFIFAワールドカップの試合運営にもボランティアとして参加した。

(3) 組織体制

日産スタジアムを含む新横浜公園は、横浜市体育協会が運営(指定管理)している。同協会の新横浜公園管理局の事業部の中に、日産スタジアム運営ボランティア事務局があり、職員と数人のボランティアで運営している。

ボランティア事務局は六つの部会によって構成されている。各ボランティアの特性を生かし、相互の交流を図れるよう、①運営部会、②リーダー部会、③研修・交流部会、④情報部会、⑤イベント企画部会、⑥環境・美化部会がある。希望する部会に入会することが可能。日産スタジアムや新横浜公園で開催されるスポーツイベントの主催者からボランティアの依頼があった際に活動する。

図表 2-5 日産スタジアム運営ボランティアの部会制度

運営部会	新規登録者や継続するボランティアの手続きに関する業務、イベント主催者との調整、活動者の選出及び調整などを実施
リーダー部会	イベント当日にグループ20~30人(イベント規模による)の活動をまとめる
研修・交流部会	新規登録者に対する研修や全登録者に向けた研修を企画する
情報部会	情報誌「ボランチわ」及びウェブサイトの作成、会議や活動等の報告、ボランティア意識調査の実施
イベント企画部会	ボランティア同士の親睦を深めるための自主イベント(餅つきなど)を企画・実施
環境・美化部会	新横浜公園の環境整備・美化活動等を実施

(4) 登録者

- ・登録者数は238人(2014年10月現在)であり、性別は男性が37%、女性が63%である。
- ・年代は、高校生～80代までいるが、60歳以上が74%を占めている。
- ・居住地域は、85%が横浜市在住者であるが、残りの15%には市外や東京都、静岡県から参加する者もいる。
- ・日産スタジアムには、「日産スタジアム運営ボランティア(238人)」とは別に「スタジアム見学ツアーボランティア」が25人いる。語学力とボランティア経験のある者が活動しており、運営ボランティアと兼務の者も5人含まれる。

(5) ボランティアに関する年間予算

- ・2014年度の年間予算は約100万円。支出内容には主にボランティア保険、交通費、通信運搬費(会報誌発送など)、講演会の登壇者に対する謝金などである。

2. 活動について

(1) 募集

- ・通年でウェブサイトを活用し募集告知を行うことに加え、横浜市にある他の公共施設などに募集チラシを配布しており、希望者には郵送で申し込んでもらう。

(2) 説明会・研修等

○説明会

- ・新規で登録したボランティアのために、年3～4回の説明会を開催する。「日産スタジアム運営ボランティアガイド」に基づき、ボランティアの心構えや活動内容、事務手続きやスタジアムの概要を説明する。



研修会

○研修

- ・ボランティアが中心となり、年2回研修会を開催する。グループワークを中心に、交流を兼ねた研修会を実施。
- ・2014年度の夏季研修会は3部構成で開催され、第1部が講演会(スタジアムの歴史や特徴を理解する)、第2部が横浜F・マリノスのホームゲームにおける活動の確認事項、第3部がボランティア同士の交流会であった。

(3) 活動内容

○ホームゲームでの主な活動内容

- ・年間の活動日数41日(2014年度)のうち、30日は横浜F・マリノスのホームゲームでの活動であり、1試合あたり100人程度のボランティアが活動する。
- ・活動内容は主に、ゲートでのチラシ配布、スタンド入り口でのチケットチェック、ゲートでの誘導・案内である。
- ・3人でシフトを組んでおり、30分ごとに2勤1休(30分単位で2回活動し、1回休憩すること)で活動する。
- ・集合時間は試合開始の3時間45分前。チラシ配布の者は、配布終了後はゲートでの案内等を実施し、試合の開始で活動が終了する。チケットチェックのボランティアは試合終了まで活動する。
- ・横浜F・マリノスが運営主体の「横浜F・マリノスサポートスタッフ」というボランティア組織が別にあり、横浜F・マリノスのホームゲーム時には、役割を分担して活動している。

○ホームゲーム以外での活動

- ・スタジアムで開催されるイベント(「JA 全農チビリンピック 2014」や自主事業である「日産スタジアム駅伝」や「餅つき&しめ縄づくり/昔遊び」)の運営をサポート。
- ・環境・美化部会のボランティアが中心となり、新横浜公園の環境整備・美化活動に力を入れている。活動内容は主に、公園内の田んぼでの田植え、稲刈り、案山子づくり、花壇の手入れなどがある。また、環境・美化部会の活動予算は、新横浜公園管理局として市民活動助成事業に申請し、補助金により活動している。また、芝生の手入れや肥料等を担当する緑管理課が、必要な機材を提供する。



ホームゲームでのチラン配布



新横浜公園の環境整備・美化活動

3. 運営について

(1) エ夫している点

○アルバイトや他のボランティアとの共存

- ・一つのイベントに、ボランティアとアルバイトが同時に参加する場合は、業務を分けるようイベント主催者に依頼している。同じ業務にもかかわらず、報酬が発生する者としなない者が一緒に活動することがないよう配慮している。
- ・イベント主催者によっては、日産スタジアム運営ボランティア以外のボランティアも要請し運営することがある。その際に、それぞれのボランティアに与えられる交通費などのインセンティブ(特典)に格差が生じないように、業務の依頼を受ける最初の段階で、イベント主催者と調整を行う。

○ボランティア情報誌の発行

- ・ボランティアの活動報告や各部会・会議の議事録、今後の活動予定などが掲載された「ボランチわ」という情報誌があり、情報部会に所属するボランティアが中心となって発行している。活動の様子が分かる写真が多数掲載されており、日産スタジアムのボランティアに関するウェブサイト内で、バックナンバーを閲覧することができる。



ボランティア情報誌「ボランチわ」

(2) 活動に対するインセンティブ

○支給・貸与している物品など

- ・支給: 交通費 1,000 円/回
- ・貸与: ウインドブレーカー、ID カード、ポロシャツ、帽子 など

※イベント主催者からの報酬として、Tシャツ、ノベルティグッズなどが支給されることもある

(3) 課題

○登録者数の増員及び世代交代

- ・ボランティアの年齢層が高く、フットワークなどの面でも若年層との違いが見られる。一方で、若年層の継続率は低く、登録者も年々少なくなっていることから、登録者数を増やすことが課題である。
- ・日産スタジアムは、2020 年東京オリンピック競技大会のサッカーの会場となる予定であり、それに向けてボランティアの世代交代を進めていきたい。

○リーダーの育成

- ・リーダーを育成していく必要がある。リーダーには経験と人柄が重要で、また活動時間も長くなる(事前にシフト表を作成する)ため、リーダーが増えていない。負担となる仕事であることのほかに、高齢で新しい仕事を引き受けることに消極的なボランティアも多く、リーダーの担い手が少ない。

○ボランティア精神の原点回帰(自主性の見直し)

- ・「日産スタジアム運営ボランティアガイド」に沿った活動が中心となっている。ボランティア精神の原点に戻って、担当以外の部分にもボランティア一人一人が目配り・気配り等を行い、自主的に活動していく必要がある。

日産スタジアム運営ボランティア

○運営主体: 公益財団法人 横浜市体育協会 新横浜公園管理局

○所在地: 横浜市港北区小机町 3300

NPO 法人 成田空港ボランティア・スカイレッツ

- 長野オリンピック・パラリンピックで集まったボランティアが自主的に活動を継続し組織化
- 新規ボランティアの受入れと多様な活動依頼に応えるために組織改革を実施
- 空港見学などの現場研修や英会話などのスキルアップ研修も提供

1. プロフィール

(1) 基本情報

図表 2-6 NPO 法人 成田空港ボランティア・スカイレッツの基本情報

組織名	NPO 法人 成田空港ボランティア・スカイレッツ
活動開始年	1998 年
登録者数	約 80 人 (2014 年 8 月現在)
活動日数	20 日/年
主な活動場所	成田空港内

(2) 設立経緯

1997 年に、長野オリンピック及びパラリンピック冬季競技大会(以下、長野大会)の組織委員会の呼び掛けで、成田空港の案内・送迎のためのボランティアとして活動した、千葉県在住のボランティアが集まり組織化した。長野大会が開催された 1998 年から活動を開始し、大会終了後、任意団体として自発的に活動を続けた。2010 年に法人格(NPO)を取得した。

(3) 組織体制

・組織体制としては、会長、理事長、副理事長、理事(7人)、監事、相談役の 12 人で運営の中枢を担っている。2014 年に組織改革を行い、これまで全ての事業を一つの事業部が担っていたが、第一部門(空港でのスポーツ・国際イベント)、第二部門(地域貢献)、第三部門(講演会)に役割を分担した。その他、広報部、教育部、渉外部(外部団体との折衝)、事務局(会計部)があり、基本的に各部署は担当理事が取りまとめているが、ボランティア経験の豊富な学生が運営に携わるケースもある。組織改革を行ったのは、新しいボランティアの受入れ態勢を整備し、多様になってきているボランティア事業にきめ細かく対応するためである。

(4) 登録者

- ・登録者数は約 80 人(2014 年 8 月現在)であり、性別は男性が 35%、女性が 65%である。2010 年の法人格取得後、しばらくは 50 人前後の登録者であったが、学生ボランティアの増加に伴い、登録者数が増えた。
- ・年代は、10 代～70 歳以上までいるが、60 代が最も多い。また、大学生のボランティアも 3 割を占める。
- ・登録者の語学レベルは、海外から来日する要人(VIP)と流ちょうに会話することができる者から、外国語は話せないが外国人とコミュニケーションを取ることに興味を持っている者まで様々である。現在は、英語が中心となっているが、その他の外国語も積極的に取り入れるようにしており、中国語、韓国語、スペイン語、フランス語などには対応可能である。

(5) ボランティアに関する年間予算

- ・2014 年度の収入は約 150 万円。収入内容は主に会費や寄付金、事業委託費(交通費)である。会費として、登録料 2,000 円、年会費は一般が 2,000 円、学生は 1,000 円としている。
- ・2014 年度の支出は約 110 万円。支出内容は主に委託された事業に伴う交通費、事務局管理費などである。

2. 活動について

(1) 募集

- ・ウェブサイトで募集を行い、希望者を通年で受け入れている。
- ・既存のボランティアからの口コミは、大きな効果がある。最近では、ボランティア活動に参加した学生が、体験談を他の学生に伝え、興味を持った学生がボランティアとして参加するケースが多く見られる。

(2) 説明会・研修等

○ボランティアガイドの配布

説明会の代わりとして、「ボランティアガイド(マニュアル)」を作成し、登録時に配布している。業務の流れ、活動の心構え、空港での出迎え、空港内の電光掲示などの基礎知識、簡単な英会話集など、活動に必要な情報が全て盛り込まれている。



ボランティアガイド

○研修

- ・原則として月1回の例会と、年1回の講演会がある。また、成田空港の見学会は少なくとも年3回実施している。
- ・例会では、英会話の研修、年1回の講演会では、元外交官やオリンピックのメダリスト等をゲストスピーカーとして招き、外国の文化やスポーツの現状について学ぶ機会を作っている。
- ・新規のボランティアには業務イメージを持ってもらうため、空港見学を必ず行うようにしている。

(3) 活動内容

○海外から来日するスポーツ関係者の送迎

- ・成田空港を拠点として日本で開催される国際スポーツ大会等で来日する選手や大会関係者の送迎のサポートを行っている。
- ・これまで活動した主なスポーツ大会としては、2002FIFAワールドカップ、世界柔道選手権大会(2010)、FIFA U-20女子ワールドカップ(2012)、世界トライアスロンシリーズ横浜大会(2013)、世界アマチュアゴルフチーム選手権(2014)などがある。
- ・スペシャルオリンピックス冬季世界大会・長野(2005)や東京2009アジアユースパラゲームズなど障害者スポーツのサポートも多く、2005年のスペシャルオリンピックスの際には、入国審査が行われるイミグレーション(入国審査カウンター)や税関検査での活動も行った。空港を運営している成田国際空港株式会社との信頼関係があるからこそこの活動であった。
- ・競技団体等、主催者からの直接の依頼もあれば、国際スポーツ大会の輸送部門を任されている企業からの依頼もある。



成田空港から競技会場の軽井沢にバスで向う
海外選手団を見送るボランティア

○スポーツ以外の関係者の送迎

- ・2010年に日本で開催されたアジア太平洋経済協力(APEC)首脳会議の成田空港での送迎サポートを機に、国際原子力機構(IAEA)福島閣僚会議(2012)、アフリカ開発会議(2013)などの国際会議でも活動している。
- ・その他、定期的(年4回:1月、4月、7月、9月)に行っている活動としては、東京外国語大学の留学生の送迎がある。成田空港で出迎えた留学生を、バスや電車を使って大学(吉祥寺)まで同行し、大学の担当者へ引き継いでいる。送迎で唯一、空港から到着地までのサポートを行う活動でもある。

3. 運営について

(1) 工夫している点

○広報手段の拡充

- ・新たに就任した理事が中心となりウェブサイトを開設し、組織の概要や活動内容を掲載した。これによって、チラシやロコミだけでなく、ウェブサイトからのボランティアの申込みが増えてきている。

○一国二人体制での対応

- ・海外から来日する外国人に対しては、必ず一国二人以上のボランティアで対応するように配慮している。通訳者は対話に集中してしまうため、荷物の管理がおろそかになり盗難のリスクが高まるからである。この体制は依頼者からも好評である。経験者と未経験者を組み合わせる機会にもなり、手厚い送迎と新人育成の両方を実現できている。

(2) 活動に対するインセンティブ

○支給・貸与している物品など

- ・送迎を依頼する組織・団体により、支給・貸与される物品は異なる。一例としては、交通費、ユニフォーム、弁当などがある。

(3) 課題

○活動資金の確保

- ・活動の条件は依頼する組織・団体で異なる。交通費等の支給がなく、空港での拘束時間が長い場合、学生ボランティアには弁当代程度の支給をしてあげたいと思う。現状の予算では厳しいことから、学生ボランティアに負担をかけないような活動資金の確保が課題である。

○事務局スペースの確保

- ・成田空港内に事務局スペースがないため、できれば事務局のスペースが欲しい。

NPO 法人 成田空港ボランティア・スカイレッツ

○運営主体: NPO 法人 成田空港ボランティア・スカイレッツ

○所在地: 千葉県千葉市中央区松波 1-16-11-203

北九州市障害者スポーツボランティアの会 SKET(スケット)

- 1992年に結成した障害者スポーツ指導組織を、大規模イベント開催を機に再編
- 障害者スポーツセンター及び障害者スポーツ協会と連携したボランティアの養成・確保
- 障害者スポーツセンターを拠点に多数の活動機会を提供

1. プロフィール

(1) 基本情報

図表 2-7 北九州市障害者スポーツボランティアの会 SKET の基本情報

組織名	北九州市障害者スポーツボランティアの会 SKET (スケット)
活動開始年	2003年
登録者数	96人(2014年度現在)
活動日数	172日/年
運営主体	北九州市障害者スポーツセンター(アレアス)・北九州市障害者スポーツ協会
主な活動場所	北九州市障害者スポーツセンター(アレアス)

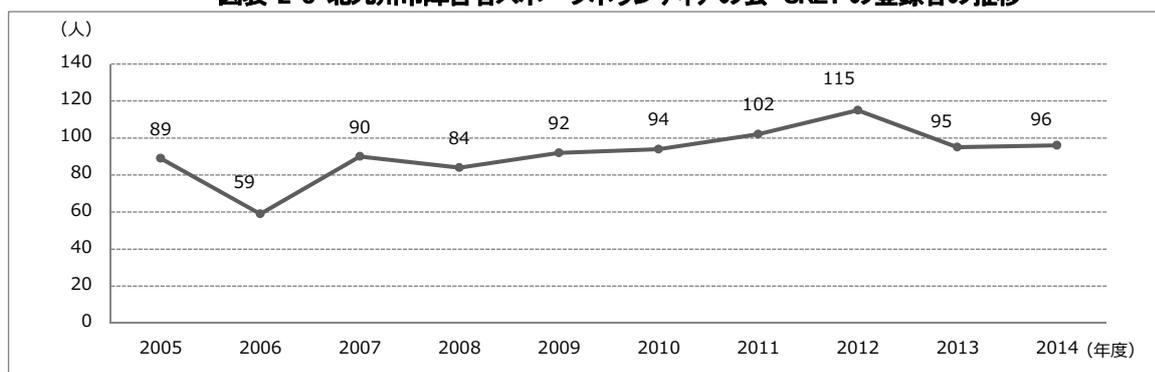
(2) 設立経緯

1990年に福岡県で開催された全国身体障害者スポーツ大会(ときめきのとびうめ大会)に向けて、1989年に北九州市障害者スポーツ協会が設立。1992年、北九州市障害者スポーツ協会が主体となり、日本障がい者スポーツ協会の初級障がい者スポーツ指導員の養成講習会を実施した。その受講生が中心となり、北九州市障害者スポーツ指導員クラブ「やわら会」(ボランティア指導者組織)を結成。当初は活発であったが、活動規模は徐々に縮小していった。こうした中、2002年に北九州市で開催された車椅子バスケットボールの世界大会では、多くのボランティアが運営に参画し、障害者スポーツのボランティア活動の機運が高まった。この流れを受けて、やわら会などの既存の組織を統合する形で、2003年に北九州市障害者スポーツボランティアの会 SKET(スケット)を設立した。SKETの名称は、Sports(スポーツ)、Know-how(能力・知識・技術)、Enjoy(楽しむ)、Tie-up(連携する)の頭文字に由来している。

(3) 登録者

- ・登録者数は96人(2014年度現在)であり、性別は男性が48%、女性が52%である。
- ・年代は、29歳以下(21%)、30代(7%)、40代(15%)、50代(21%)、60歳以上(36%)であり、60歳以上が最も多い。
- ・居住地域は、北九州市が9割以上を占めるが、市外からも若干名が参加している。

図表 2-8 北九州市障害者スポーツボランティアの会 SKET の登録者の推移



(4) ボランティアに関する年間予算

・2014年度の年間予算は約27万円。支出内容は主に団体登録費、保険料、会議費などである。団体登録費は、北九州市障害者福祉ボランティア協会や北九州市障害者スポーツ協会への登録料である。

2. 活動について

(1) 募集

- ・日本障がい者スポーツ協会の初級指導員の養成講習会(北九州市障害者スポーツ協会が主催)の受講者に加えて、アレアスが施設利用者を対象に2014年度から実施している「ミニ講座」(障害者への理解やボランティア活動の概要を紹介する1回20分程度の講義)の受講者などにも、募集の幅を広げている。
- ・既存の登録者については、毎年3月に継続の意向を確認している。

(2) 活動内容

・障害者スポーツセンターが開催する大会、イベント及び教室のほか、障害者スポーツ協会や障害者スポーツクラブが主催している大会などで、運営補助や障害者のスポーツ活動をサポートしている。

図表 2-9 北九州市障害者スポーツボランティアの会 SKET の活動内容(2013年度実績)

	活動内容	対象	場所	回数	SKETからの参加人数
大会	○障害者スポーツ大会開催事業				
	・交流ポッチャ大会	・障害者	アレアス	1	8人
	・北九州市長杯 小学生ふうせんバレーボール大会	・障害児 ・一般(障害のない児童)	北九州市立総合体育館	1	7人
	○障害者スポーツ協会主催大会				
	・北九州市障害者スポーツ大会	・障害者 ・一般(健常者)	本城陸上競技場	1	20人
	・北九州市障害者水泳大会 など	・障害者 ・一般(健常者)	アレアス	1	11人
	○障害者スポーツクラブ主催大会				
	・全国ふうせんバレーボール大会	・障害者 ・一般(健常者)	北九州市立総合体育館	1	8人
イベント	○交流促進事業				
	・スポーツ交流デー	・障害児者 ・一般(健常者) ・ボランティア	アレアス	1	16人
教室	○巡回・出張事業				
	・巡回水泳教室	・障害者	市内3か所のプール	32	延べ78人
	・巡回スポーツ教室	・障害者	地域の施設及び体育館	80	延べ101人
	○生涯スポーツ支援事業				
	・トレーニング教室 ・ヨガ教室 ・水泳教室 など ※1日に2回以上活動することもある	・障害児者	アレアス	313	延べ444人
	○余暇活動支援事業				
	・トレッキング教室	・障害者	アレアス	1	1人



ポッチャ大会での審判を務める



イベントにて車椅子参加者のサポート

3. 運営について

(1) エ夫している点

○ボランティアの交流促進

- ・活動参加後に振り返りを行っている。次回への改善提案や感想などを話し合い、ボランティア同士の交流を促進することが目的である。
- ・年度末に報告会を開催して年間の活動内容、会計報告を共有し、交流を図っている。

(2) 活動に対するインセンティブ

○支給・貸与している物品など

- ・巡回、出張事業については交通費(1,000 円)を支給しているが、アレアス内の教室・大会は支給なし(水泳教室を手伝った場合は、ボランティア活動後1時間程度無料でプールが利用でき、駐車場も無料になる)。
- ・障害者スポーツ協会及び障害者スポーツ競技団体の大会・イベントでは、弁当のみが支給される場合が多い。

(3) 課題

○専任スタッフの配置

- ・SKETには専任の事務局スタッフがおらず、アレアスの職員のサポートを受けて活動している。障害者スポーツに関するボランティアのニーズは高まっているが、現在の体制では、これ以上の要請には応えられない状況である。登録ボランティアの中から、専任の事務局スタッフが配置されれば、登録者の増員や活動の一層の充実が期待できる。

北九州市障害者スポーツボランティアの会 SKET

○運営主体: 北九州市障害者スポーツセンター(アレアス)・北九州市障害者スポーツ協会

○所在地: 北九州市小倉北区三郎丸 3-4-1

山口県スポーツボランティア

- 2011年の「おいでませ！山口国体」に向け、募集・養成したボランティアを組織化
- ボランティアの窓口は各市町に委ね、県が活動内容や登録者数を集約
- 「山口県スポーツボランティア手帳」が活動のモチベーション維持に貢献

1. プロフィール

(1) 基本情報

図表 2-10 山口県スポーツボランティアの基本情報

組織名	山口県スポーツボランティア
活動開始年	2006年
登録者数	1,372人(2014年10月現在)
活動日数	77日/年
運営主体	山口県 総合企画部 スポーツ・文化局 スポーツ推進課、(公財)山口県体育協会 県内市町の生涯スポーツ主管担当課
主な活動場所	山口県及び県内19市町で開催されるスポーツイベント

(2) 設立経緯

2011年の「おいでませ！山口国体(以下、山口国体)」に向けて、2006年からスポーツボランティアの登録制度を設け組織化を図った。その契機として、2002年から開催している全国中学校駅伝大会で、100人規模のボランティアを募集し運営を行っていたことが挙げられる。

また、県内では2001年に地方博覧会「山口きらら博」、2006年に国民文化祭と大規模イベントが開催され、知事が掲げる『県民総参加』のスローガンの下、県民がボランティアとして大規模イベントに関わる機会があり、比較的「ボランティア」が認識されていたことも背景としてある。

なお、山口国体後のボランティアの活用については、募集の段階から検討が進められていた。国体が終わった時点でボランティア登録者に対し、国体終了後もスポーツボランティアとして登録を希望するかを尋ね、希望者のみの名簿を市町に移管した。国体後の希望調査は「おいでませ！山口国体きらめきセンター」(2007年10月設置。国体県民運動の推進組織であるNPO法人が運営)が実施した。

(3) 組織体制

事業は、県と各市町の生涯スポーツ主管担当課が連携して進めている。県においては一部県の体育協会(以下、県体協)とも連携して行っている。具体的な役割分担は以下のとおりである。

○山口県(県体協)の役割

- ・県のウェブサイトでの募集の告知、19市町のスポーツボランティア関連事業の紹介
- ・「山口県スポーツボランティア手帳」の配布・押印(県体協と共同)
- ・スポーツボランティア養成講習会の実施
- ・「スポーツボランティア活動ガイド」の発行
- ・19市町の活動実績報告の取りまとめと、次年度のスポーツボランティア養成事業予定の集約
- ・県体協加盟競技団体からのボランティア派遣依頼の調整(県体協と共同)

○県内 19 市町の役割

- ・スポーツボランティアの募集・登録・名簿の管理
- ・市町内スポーツボランティア養成事業の案内・募集・派遣業務
- ・県主催のスポーツイベントへのボランティアの派遣業務
- ・県への登録数及び活動実績の報告

(4) 登録者

- ・登録者は 1,372 人(2014 年 10 月現在)であり、性別は男性が 67%、女性が 33%である。
- ・登録者の多い市町は、下関市 199 人、周南市 144 人、岩国市 143 人、山口市 137 人などである。
- ・宇部市では、10 団体が、個人登録とは別に団体登録している。
- ・登録者のうち、スポーツ推進委員が 334 人(24%)含まれている。

図表 2-11 山口県の市町別登録者数一覧(2014 年 10 月現在)

(人)

No.	市町名	登録者数 (うち、スポーツ推進委員)	No.	市町名	登録者数 (うち、スポーツ推進委員)
1	下関市	199 (35)	11	美祢市	65 (17)
2	宇部市	69 (56)	12	周南市	144 (31)
3	山口市	137 (0)	13	山陽小野田市	75 (8)
4	萩市	43 (17)	14	周防大島町	5 (4)
5	防府市	103 (6)	15	和木町	5 (5)
6	下松市	39 (8)	16	上関町	22 (10)
7	岩国市	143 (61)	17	田布施町	28 (6)
8	光市	37 (10)	18	平生町	22 (8)
9	長門市	116 (26)	19	阿武町	81 (12)
10	柳井市	39 (15)	合計		1,372 (334)

2. 活動について

(1) 募集

- ・県や各市町のウェブサイトから「スポーツボランティア登録票」をダウンロードできるが、申込みは各市町に郵送などで提出するようになっている。

(2) 活動内容

○山口県

- ・県と 19 市町の活動実績を併せると、延べ 1,813 人のボランティアが年間 74 のスポーツイベントや講習会に参加している(2012 年度実績)。
- ・2014 年度は、県がスポーツボランティア養成講習会を年 3 回実施している。ただし、スポーツボランティア事業に関する予算はないため、総合型地域スポーツクラブのクラブマネージャー講習会のボランティアに関連する講義を登録者に案内している。
- ・山口県主催の「やまぐち総合スポーツ大会」、山口県教育委員会主催の「全国中学校駅伝大会」でのボランティア活動に関しては、市町から登録者の名簿を借りて、県から案内を送付している。
- ・「スポーツボランティア活動ガイド」を、スポーツボランティアに参加したい個人と、ボランティアを求めている団体等の橋渡しをする目的で、2005 年に作成した。



全国中学校駅伝大会での活動直前の説明会



全国中学校駅伝大会でのコース誘導

○県内 19 市町

・19 市町のみでの活動実績としては、年間 69 のスポーツイベントや講習会に、延べ 1,482 人のボランティアが参加した(2012 年度実績)。実施回数の多い自治体は、周南市で 8 事業(延べ 175 人)、次いで光市の 7 事業(延べ 73 人)、下関市の 5 事業(延べ 84 人)と岩国市の 5 事業(延べ 190 人)であった。

3. 運営について

(1) 工夫している点

○実働可能な名簿の管理

・2013 年度、県は各市町に対して、より実態に即した名簿の整備を求めたところ、現在の 1,372 人の名簿となり、ほぼ実働可能な人数となった。昨年、県から登録者全員にイベントの案内を送付したところ、住所不明等の不達は 5 通のみであった。

○ボランティア保険

・県ではスポーツボランティア事業に関する予算を持っておらず、県としてボランティア保険に加入することができないため、ボランティアを必要とする各市町の大会やイベントの主催者には、必ず保険に入るよう依頼している。

(2) 活動に対するインセンティブ

○「山口県スポーツボランティア手帳」

・県及び県体協が「山口県スポーツボランティア手帳」を配布。活動に参加するごとにスタンプを押し、活動の記録としている。登録者の中には、スタンプを押すことを楽しみに活動している者もあり、また、この手帳を見た者が活動に興味を持ってボランティア登録をすることもあるため、登録者数を増やす良いツールにもなっている。

・1冊の手帳には、活動にして 30 回分のスタンプを押すことができる。3 冊目に入っているボランティアもいる。ポイントがたまって景品等に交換できる仕組みなどはないが、この手帳を持っていることが一つのステータスとなっている。



山口県スポーツボランティア手帳

(3) 課題

○ボランティアを活用する側の研修の必要性

・ボランティアを活用する側の経験や力量不足が課題である。大きな大会は組織がきちんとしており、ボランティア一人一人の役割分担が明確なので活用しやすいが、小さなイベントでは難しい。ボランティアを募集しても参加したボランティアをうまく活用できなければ、ボランティア参加者の満足度が低く、ボランティア活動の継続につながらないなど、かえって問題になるため、ボランティアを活用する側の研修も検討する必要がある。

4. 今後の予定

今後、スポーツボランティアの活用が期待される山口県開催の大規模スポーツイベントとしては、以下が挙げられる。

- ・2015年: 全国健康福祉祭やまぐち大会「ねんりんピック おいでませ！山口2015」
山口国体と同様に全19市町で開催し、大会を盛り上げる予定
- ・2016年: 全国高等学校総合体育大会(インターハイ)
- ・2018年: 全国中学校体育大会

5. 市町の活動事例：山口県周南市のスポーツボランティア

(1) 基本情報

図表 2-12 山口県周南市のスポーツボランティアの基本情報

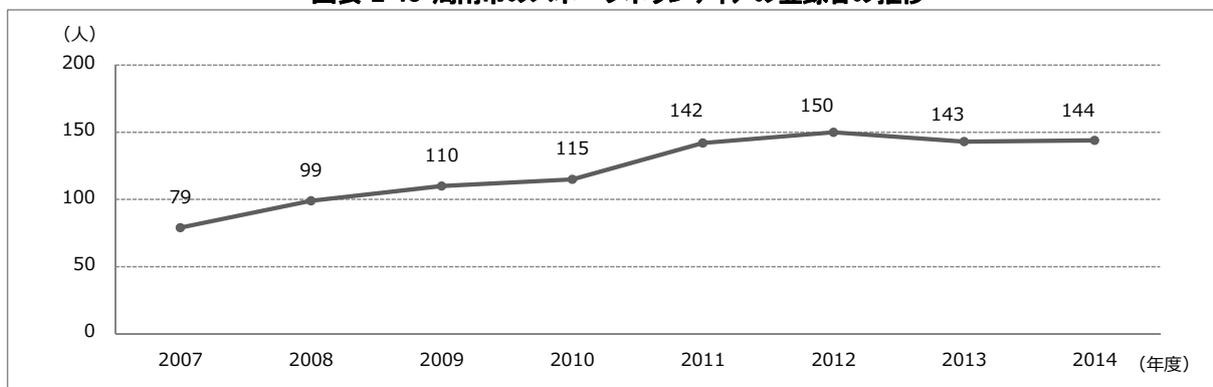
登録者数	144人（2014年10月現在）
活動日数	14日／年
運営主体	山口県周南市 地域振興部 文化スポーツ課
主な活動場所	周南市内で開催されるスポーツイベント

※)周南市の人口:148,388人(2015年1月31日現在)

(2) 登録者

- ・登録者は144人(2014年10月現在)であり、性別は男性が69%、女性が31%、平均年齢は61歳である。
- ・2011年に開催された山口国体のボランティア経験者は24人(17%)である。

図表 2-13 周南市のスポーツボランティアの登録者の推移



(3) 活動について

周南市では、県との窓口は地域振興部文化スポーツ課が担当しているが、2014年度事業で見ると、年間14回の活動のうち11事業は、公益財団法人周南市体育協会(以下、市体協)が窓口となってスポーツボランティアを募集・派遣している。

○周南市地域振興部文化スポーツ課の事業

市内で開催する「市民スポーツフェスタ」「くまげ鶴の里ウォーク大会」「大津島ポテトマラソン」の3事業に、ボランティアが参加した(2012年度実績)。



大津島ポテトマラソンのゴールにて
記録係を担うボランティア



大津島ポテトマラソンの沿道にて
給水係を担うボランティア

○市体協の担当事業：「我がまちスポーツおもてなし事業」

市内で開催される中国地区大会や全国大会の開催会場で、おもてなしの心を持って県内外の来場者をサポートすることや、ボランティアの募集・派遣を担う。

- ・活動場所: キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター(メインアリーナ、多目的ホール、弓道場などの施設)
将来的には、他の体育施設でも活動場所を広げていく方向で検討している。
- ・活動内容: 場内案内活動(場内の施設案内)、環境美化活動(場内の整備と場外の清掃)、周南市のPR活動(観光パンフレットを活用したPR活動や周南市特産品の紹介)
- ・活動人数: 1日4人程度募集。2013年度は、41人が参加、延べ51人が活動した。
- ・活動回数: 年12日、16大会で活動した。具体的な大会名等は、図表2-14のとおり。
- ・「我がまちスポーツおもてなし事業 スポーツボランティア活動マニュアル」を作成・配布

図表 2-14 「我がまちスポーツおもてなし事業」の実施状況(2013年度)

(人)

No.	おもてなし事業日※1 (大会開催日)	活 動 場 所	来場者数※2	スポーツボランティア の人数
1	6月23日 (6月22・23日)	第65回中国卓球選手権大会	1,010	5
		第36回周南地区空手道選手権大会	900	
2	7月6日 (7月3～8日)	高松宮記念杯第3回全日本社会人ハンドボール選手権大会	6,970	5
3	7月13日 (7月11～14日)	西日本地区居合道講習会及び審査会	1,470	3
4	8月24日 (8月24・25日)	第22回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会中国予選	1,410	2
		山口県柔道周南大会	988	
5	9月15日 (9月15・16日)	全国ソフトバレーボール・レディース&メンズ交流大会	1,850	4
6	11月3日 (11月3日)	第22回山口放送旗西日本弓道大会	425	3
		山口県ダンススポーツ競技大会	490	
		フレグランス・ミニ杯家庭婦人バレーボール大会	210	
7	11月23日 (11月18～24日)	第65回全日本大学バスケットボール選手権大会	3,335	4
8	12月8日 (12月7・8日)	第4回スポーツひのまるキッズ中国小学生柔道大会	3,100	4
9	1月12日 (1月11・12日)	第34回伊藤杯徳山オープン卓球大会・原田裕花杯中学大会	2,985	1
10	2月1日 (1月30日～2月2日)	第41回全国高等学校選抜卓球大会中国予選会	1,540	3
11	2月15日 (2月15～16日)	全日本社会人ハンドボールチャレンジ2013・市中学生バスケットボール大会	2,600	4
12	2月22日 (2月22～23日)	東日本大震災復興支援レスリング親善交流大会・ふれあい卓球	1,300	4

※1 おもてなし事業日：「我がまちスポーツおもてなし事業」の実施日

※2 来場者数：「参加選手」「役員運営者」「観覧応援者」の総計

(4) 運営について

○工夫している点

- ・募集の段階で活動内容を分かりやすく具体的に示している。
- ・登録者は高齢者が多いため、連絡には電子メールや携帯電話は使わず、郵送で行っている。

○活動に対するインセンティブ

- ・市の事業: 弁当支給、大津島ポテトマラソンは離島での開催のため、交通費を支給
- ・市体協の事業: 交通費支給、スタッフベストを貸与、弁当・飲物は支給なし

(5) 課題

○「ボランティア」に対する認識の違い：ボランティアとイベント主催者

・ボランティアとイベント主催者間の問題として、ボランティアの定義や活動内容に対する共通認識ができていないケースがある。ボランティアの活動については双方の共通認識が必要となる。

○若年層の登録者の確保

・2013 年に実施した市民意識調査によれば、若年層のボランティア活動に対する関心が高いことから、若年層のボランティア活動機会を確保し、ボランティア登録に繋げることが課題となっている。

○ボランティアの養成

・ボランティアの充実は、大会運営やおもてなしの充実に欠かせないことから、ボランティアの養成は課題となっている。

山口県スポーツボランティア

○運営主体: 山口県 総合企画部 スポーツ・文化局 スポーツ推進課

○所在地: 山口県山口市滝町1番1号

埼玉県スポーツボランティア

- 2004年「彩の国まごころ国体」に参加したボランティアを組織化
- イベント主催者とボランティアのマッチングを実施
- QRコード、電子メール、登録用紙などの多様な登録方法で全ての年代に配慮

1. プロフィール

(1) 基本情報

図表 2-15 埼玉県スポーツボランティアの基本情報

組織名	埼玉県スポーツボランティア
活動開始年	2008年
登録者数	5,022人(2014年3月末現在)
活動日数	28日(2013年度)
運営主体	埼玉県 教育局 市町村支援部 スポーツ振興課
主な活動場所	埼玉県内各地で開催されるスポーツイベント

(2) 設立経緯

2004年の「彩の国まごころ国体」における運営ボランティアのうち、本人の承諾を得た465人をスポーツボランティアとして「埼玉県スポーツリーダーバンク」に登録した。2008年に現在の制度である「埼玉県スポーツボランティア」を立ち上げ、埼玉県スポーツリーダーバンクからボランティアを移行した。

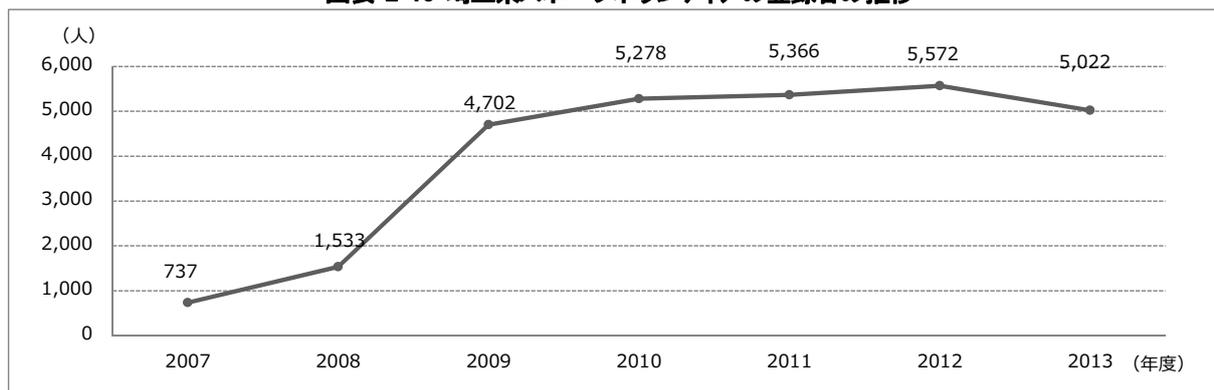
(3) 組織体制

- ・県庁内でのボランティア活動の所管は、ボランティアの対象となる事業の担当課となっている。例えば、スポーツボランティアはスポーツ振興課、NPO活動については共助社会づくり課が所管している。
- ・スポーツボランティアの関連業務は、埼玉県教育局から公益財団法人埼玉県体育協会(以下、県体協)へ、生涯スポーツ・相談業務(生涯スポーツの普及・振興に関わる業務)の一部として、業務委託している。

(4) 登録者

- ・登録者は5,022人(2014年3月末現在)であり、うち個人登録者数は2,101人(電子メールアドレスありは1,824人、86.8%)、団体登録数は2,921人である。
- ・団体登録の内訳は、埼玉県スポーツ推進委員協議会(2009年～)2,270人、彩の国いきがい大学(2009年～)380人、埼玉マスターズ陸上連盟(2010年～)206人、ジャパン・スポーツボランティア・ネッツ(2010年～)35人、日本医療科学大学ボランティアサークル(2013年～)30人である。
- ・登録者の推移を見ると、2009年に登録数が大幅に伸びている。これは、団体登録制度を導入したことによる。また、2013年に登録者が減っているのは、電子メールアドレス登録の重複者を整理した結果である。

図表 2-16 埼玉県スポーツボランティアの登録者の推移



※)2007 年は埼玉県スポーツリーダーバンクに登録していた人数

(5) ボランティアに関する年間予算

・スポーツボランティアの業務については、「スポーツで埼玉を元気に！事業」の中の生涯スポーツ・相談業務（2014 年度予算:21,132,000 円）の一部として行われているため、予算額は明らかになっていない。この業務では、スポーツボランティア制度の運営のほか、総合型地域スポーツクラブの設立・育成支援や地域スポーツ指導者の育成、スポーツリーダーバンク（指導者派遣）制度などの事業を行っている。

2. 活動について

(1) 募集

- ・県のスポーツ振興課のウェブサイトから電子申請。携帯電話から登録できるように QR コード提示。
- ・メールが使えない者は、登録用紙による申請も可能。FAX か郵送にて用紙を入手することができる。

(2) 活動内容

○活動日数・活動延べ人数等

図表 2-17 埼玉県スポーツボランティアの活動状況

時期	(年度)	2008	2009	2010	2011	2012	2013
活動日数	(日)	19	22	37	17	36	28
情報発信件数	(件)	12	20	29	15	28	23
募集人数	(人)	340	537	672	1,408	1,996	1,745
活動延べ人数	(人)	93	152	375	186	312	356

○イベント主催者とボランティアのマッチング

- ・県のスポーツ振興課のウェブサイトで、スポーツボランティアを必要としているイベント主催者に向けて、この制度を紹介している。イベント主催者がボランティアを募集する場合は、電話等で事前に連絡をし、「募集依頼書」に必要事項を記入の上、電子メールか FAX で県体協まで送付する。県体協が、公益性の高いスポーツイベントであるか等を審査した上で、最終的に県のスポーツ振興課が募集の可否を決定する。
- ・募集が決定したイベントについては、県体協からボランティア登録者にイベント内容や募集事項の情報が発信され、参加を希望するボランティアは直接、主催者へ申し込む流れとなっている。

- ・イベント終了後、主催者は簡単な事後報告書を提出する必要がある(募集依頼書、事後報告書、共にウェブサイトから入手可)。
- ・2013年度の実績としては、23件のスポーツイベントで、延べ356人が活動した。主なイベントとして、彩の国実業団駅伝(29人)、埼玉マスターズ陸上競技記録会(21人)、川越アクアスロン・エキデン(19人)、bjリーグ・埼玉ブロンコスホームゲーム(16人)などがある。

3. 運営について

(1) 工夫している点

○市町村スポーツ関係者へのアプローチ

- ・ボランティアの活動機会を確保するため、市町村のスポーツ関係者が一堂に会す場で、スポーツイベントにおけるボランティアの有用性について説明を行っている。また、ボランティアのリピーター参加が多い大会を紹介し、市町村で行われているスポーツイベントでのボランティアの活用を促している。ちなみに、リピーターが多いのはマスターズ陸上関連の大会(記録会、選手権大会)で、主催団体がボランティアをしっかり把握しており、ボランティアもやりがいを感じ、毎年参加を希望する者が多い。

(2) 活動に対するインセンティブ(特典)

- ・県としては特にインセンティブ(特典)は準備していない。以前は、活動を認証するためのスタンプ制度があったが、2009年で廃止した。
- ・イベント主催者により、Tシャツ、ジャンパー、キャップ、タオルなどが支給される場合がある。

(3) 課題

○ボランティア登録者に対する研修

- ・2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでは、多くのスポーツボランティアが必要とされる。その気運の醸成と人材育成のために、スポーツボランティアへ向けた研修について検討している。

○イベント主催者に対するボランティアの活用研修

- ・始めはボランティアが多く集まったイベントでも、回を重ねるにしたがって参加人数が減っていくイベントがある。主催者側のボランティアへの対応などが、参加したボランティアの満足度や継続参加に影響していると推測される。イベント主催者に対して、ボランティアの活用ノウハウを伝える研修が必要である。

○活動場所によりボランティアの確保が困難になる

- ・人口の多い地域には、比較的ボランティアが集まりやすいが、県の北部や、また交通の便が悪い地域での活動には、ボランティアが集まりにくい傾向がある。特に自然の中で開催されるスポーツイベントなどでは、募集人数の半分にも満たない時がある。

埼玉県スポーツボランティア

○運営主体:埼玉県 教育局 市町村支援部 スポーツ振興課

○所在地:埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1

川崎フロンターレボランティア

- ホームゲームと地域イベントで年間延べ 150 日以上ボランティアが活動
- 「チューター制度」「リーダー制度」を設けてボランティアを運営
- 「ボランティア活動ポイント制度」による活動継続の動機付け

1. プロフィール

(1) 基本情報

図表 2-18 川崎フロンターレボランティアの基本情報

組織名	川崎フロンターレボランティア
活動開始年	1997 年
登録者数	245 人 (2014 年 11 月現在)
活動日数	延べ 157 日/シーズン
運営主体	株式会社川崎フロンターレ
主な活動場所	等々力陸上競技場で開催されるホームゲームや川崎市内でのイベント など

(2) 設立経緯

1996 年に株式会社川崎フロンターレを設立し、1997 年にボランティア組織を立ち上げ、登録者 5 人からスタートした。川崎フロンターレがチーム内にボランティア組織を持っている理由は、その方がチームとボランティアとの間に一体感が生まれるので活動しやすく、ボランティアにとっても川崎フロンターレに所属しているという帰属意識・応援意識が高まるからである。

(3) 登録者

- ・登録者数は 245 人(2014 年 11 月現在)であり、性別は男性が 42.0%、女性が 58.0%である。
- ・初年度の登録者は 5 人であったが、1999 年に J2 リーグ加盟、2000 年に J1 リーグ昇格を経て、現在は約 50 倍の登録者が活動している。
- ・年代は、10 代(14.7%)、20 代(24.1%)、30 代(19.2%)、40 代(20.0%)、50 代(9.8%)、60 代(6.1%)、70 歳以上(2.4%)である。
- ・居住地域は、川崎市(56.6%)、横浜市(9.9%)、その他神奈川県市町村(9.4%)から参加する者で約 75%を占めているが、東京都や千葉県などから参加している者も 2 割以上いる。登録者の居住地域は、スタジアムからほぼ 1 時間圏内だが、年々地域は広がってきている。

(4) ボランティアに関する年間予算

- ・2014 シーズンの年間予算は約 500 万円。支出内容は主にボランティアの交通費(交通費の代わりに観戦チケットに交換する者もいる)、納会の運営費、ボランティア保険、研修費などである。試合当日に支給する弁当代や業務中に身に付ける ID カード代については、ボランティアに関する予算には含まれておらず、試合運営費から支出されている。

2. 活動について

(1) 募集

- 例年、シーズンが始まる3月に備えて、同年1月頃にボランティアの募集を開始する。1シーズンごとの登録制のため、継続のボランティアにも再登録してもらう。
- 主に、ウェブサイトやチラシを活用して募集しており、市のボランティア広報誌などに掲載することもある。
- 2014年から、NPO法人日本スポーツボランティアネットワーク(JSVN)の正会員となり、JSVNのネットワークを通じて、広くボランティア個人に告知することができるようになり、募集の強化を図っている。



ボランティアスタッフ登録用紙(表)

川崎フロンターレ *Frontale* ボランティアスタッフ登録用紙

新規・継続 ※どちらかに○をつけて下さい。(20 年度AD番号)

名前が女

氏名

現住所

生年月日 19 年 月 日 性別 男・女

連絡先
 自宅電話
 FAX
 携帯電話
 Eメール ※必須 PC

職業
 ・高校生
 ・会社員
 ・主婦
 ・専門/大学生
 ・自営業
 ・その他()

学校名(学年) または勤務先名

資格・特技
 登録用紙をどこで受け取りましたか?

ボランティア経験
 あり・なし 内容

志望動機
 ・フロンターレを応援したい
 ・ボランティア活動に興味がある
 ・特技を活かしたい
 ・友人の勧め
 ・友人を応援したいから
 ・地元川崎のチームだから
 ・その他()

希望する活動分野
 ・スタジアム運営
 ・イベント補助
 ・その他()
 ・マスコット関連
 ・地域イベント補助

登録にあたっての目標、またはやってみたいこと

※事務局からの連絡は基本的にEメールで行いません。必ずご記入下さいませようお願い致します。

Frontale FAX.044-813-8619

ボランティアスタッフ登録用紙(裏)

(2) 説明会・研修等

○説明会

- 2014 シーズンは、2~8 月までに 1 回当たり 1 時間 30 分程度の説明会を計 28 回実施。継続のボランティアも毎年参加している。
- 説明会の内容は、活動内容や当日の流れ、ボランティアの心得・禁止行為、チューター制度・リーダー制度、リーダーの役割、ウェブサイト上のボランティア専用サイトの登録・活用方法の説明などである。以前はボランティア向けのマニュアルを作っていたが、今はあえてマニュアルを作っていない。ボランティアにはマニュアルに頼らず、都度の説明に注意を払い、臨機応変に対応できる能力を身に付けてもらいたいと考えているからである。
- 継続のボランティアに対して毎年説明会に参加するよう呼びかけている理由は、スタジアムの設備の変更に伴う活動場所の確認や、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)への対応や禁止事項などが絶えず変化しているためと、継続の意思を確認するためである。

(3) 活動内容

○ホームゲームでの活動人員と配置

- 1 試合に必要なボランティアは 60 人以上。大きなイベント時は 80 人が理想。2014 年の平均活動者数は 62.3 人。
- ホームゲームでは活動場所が 10 か所程度あり、本人のモチベーションと業務の質を保つために、チームの職員が配慮しながら当日の配置を決める。

○ホームゲーム当日のタイムスケジュール

- 15:00 から試合開始の場合は、以下の流れで活動する。
 - 10:45: ボランティア集合
 - 11:00~18:00: 朝礼後、担当業務を開始
 - 18:00: 終礼後、解散

○ホームゲームでの主な活動内容（2014 シーズン）

図表 2-19 川崎フロンターレボランティアのホームゲームでの主な活動内容

活動場所	活動内容
ゲート	チケットもぎり、チケットチェック、チラシ配布、ハーフタイムのごみ回収 など
総合案内所	落とし物や迷子対応、各種受付、引換え など
関係者受付	サッカー協会、スカウト、行政担当者、VIP の受付・アテンド
後援会受付	ファンクラブの受付、ポイント付与
メディア受付	メディアの受付
運営本部	試合に関係したデータ配布
キッズ対応	選手と手を取り合って入場する「ウィズハンド」や、旗を持って入場する「フェアプレーフラッグ掲揚」の子供たちの補助
マスコット	チームマスコットとしての活動
ボランティア控室	ボランティアの管理や世話
販売スペース	マッチデープログラムの販売

○ホームゲーム以外での活動

- ・年間延べ 157 日の活動のうち、Jリーグのホームゲームが 20 日で、残りの延べ 137 日は地域のイベントで活動を行っている。
- ・地域のイベントには、地元区民祭や市民運動会、商店街、幼稚園・保育所などのイベントへの参加、また、フロンターレカラーの青いサンタクロース「ブルーサンタ」による市内小児病棟訪問などがある。



地域イベントでの活動

3. 運営について

(1) 工夫している点

○チューター・リーダー制度

- ・川崎フロンターレでは、ボランティアによるチューター制度・リーダー制度を設けている。
- ・チューターは、各活動場所で、チームの職員とボランティアの間に入って、ボランティアが円滑に活動できるようにサポートする。新しいチューターを選ぶ際には、既存のチューターからの推薦に基づき、チームの職員が任命する。現在は 12 人のチューターがおり、任期は 1 年である。
- ・リーダーは、各業務の中心となり、他のボランティアの先頭に立って活動を行う。活動中にトラブル等が起これば、スタッフやチューターと連絡を取り合って問題解決に努める。なお、リーダーについては多くのボランティアが経験できるようにシーズン中固定せず、試合の前日にチームの職員が任命する。

○ボランティアとアルバイトの役割の明確化

- ・ボランティアとアルバイトは同じ活動場所に配置しないように配慮している。一つの活動場所に必要なボランティアがそろわなかった場合には、ボランティア登録締切後、該当する活動場所の業務は全てアルバイトが担うよう、アルバイトを確保する。

(2) 活動に対するインセンティブ

○ボランティア活動ポイント制度

- ・活動の内容や回数に応じてポイントが付与される、ボランティア活動ポイント制度がある。1回の活動で得られるポイントは、活動内容や活動の曜日、天候、活動条件などで異なる。例えば、ホームゲームでの活動は2ポイント、通常より早い集合や雨天時などはプラス1ポイント、遅刻・早退はマイナス1ポイントなどである。
- ・年間の活動ポイントが一定以上になると、12月に行われる「ボランティア納会」に参加することができる。12月の納会には、監督や選手、スタッフも参加するため人気が高い。ちなみに、納会に参加する権利を得るためには、活動1年目のボランティアで20ポイント以上、活動2年目以降のボランティアは25ポイント以上が条件となり、ホームゲーム約10回分の活動が必要となる。



ポイントカード

○支給・貸与している物品など

- ・支給: 交通費(又は、ホームゲームチケットのどちらかを選べる)、活動時間に応じて弁当、お茶
- ・貸与: ユニフォーム、キャップ

○納会・慰労会等の開催

- ・『ボランティア納会』: シーズン終了後に、監督、選手(15人程度)、スタッフが中心となり、ボランティアに一年間の感謝の気持ちを伝えるための納会を開催する。納会では選手との会話や写真撮影、サインをもらうことができ、ボランティア活動を継続する動機付けとなっている。
- ・『慰労会』: ホームゲーム終了後に、ボランティアとスタッフがスタジアム内で1時間程度開催するものが年2回、その他の慰労会も含めると、合計で年間4~5回実施している。
- ・『ボランティア交流会』: ボランティア同士のコミュニケーションを促進するため、ボランティアが自主的にレクリエーションを兼ねた交流会を開催している。レクリエーションの内容としては、バーベキューや遠足、ボウリング大会、フットサルなどがある。



バーベキューでのボランティア交流会

(3) 課題

○活動者数の確保と固定化

- ・ホームゲーム1回当たり60人以上のボランティアが必要であり、70人のボランティアがいると経験したことがない活動場所へ配置し、新たな経験を積ませることが可能となる。ただし、平日開催の試合などは活動人数が不足することがある。
- ・特別な活動(マスコット関連のボランティアなど)を担当するボランティアが固定化しており、後継者の育成が課題となっている。

川崎フロンターレボランティア

○運営主体: 株式会社川崎フロンターレ

○所在地: 神奈川県川崎市高津区末長 4-8-52

仙台 89ERS ボランティア

- 仙台市内のスポーツボランティア団体と連携してボランティア組織を設立
- チームとボランティアの一体感を積極的に醸成
- シーズン終了後に開催するボランティアのための慰労会には、選手・チアリーダー等が全員参加

1. プロフィール

(1) 基本情報

図表 2-20 仙台 89ERS ボランティアの基本情報

組織名	仙台 89ERS ボランティア
活動開始年	2005 年
登録者数	131 人 (2015 年 3 月現在)
活動日数	26 日/シーズン
運営主体	株式会社仙台スポーツリンク
主な活動場所	ゼビオアリーナ仙台などで開催されるホームゲームやチームが主催するイベント など

(2) 設立経緯

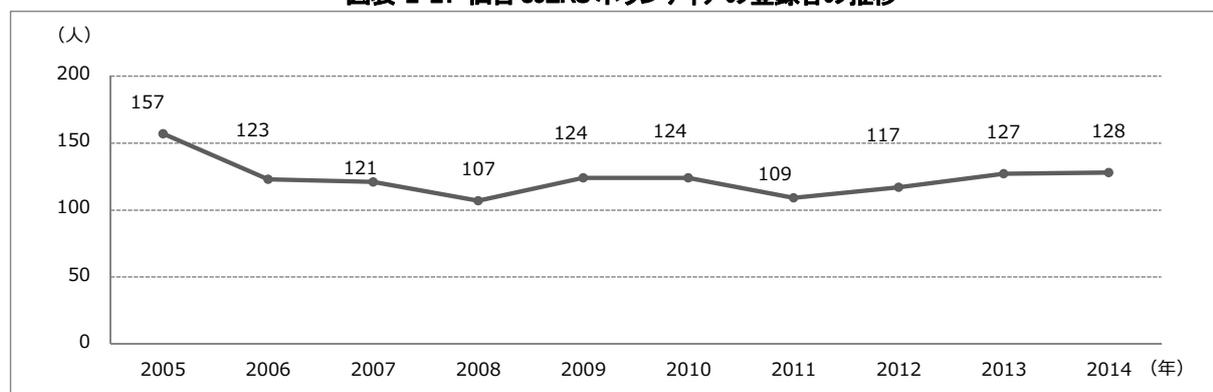
2004 年 11 月に、日本プロバスケットボールリーグ(通称:bjリーグ)が発足し、仙台 89ERS が参入することを決めた直後、「市民スポーツボランティア SV2004[※]」から、ボランティア組織を立ち上げ仙台市民と一体となってチームを運営すべきとの提案を受けた。東北楽天ゴールデンイーグルス(プロ野球)などでボランティア運営の実績がある「市民スポーツボランティア SV2004」の支援を受け、2005 年に仙台 89ERS ボランティアを立ち上げた。

※)市民スポーツボランティア SV2004 は、1998 年からスタートしたサッカー「ブランメル仙台」(現ベガルタ仙台)のボランティアや 2001 年の宮城国体、2002 年の FIFA ワールドカップのボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で 2004 年に発足した組織。

(3) 登録者

- ・登録者は 131 人(2014 年 10 月現在)であり、性別は男性が 53%、女性が 47%である。
- ・年代は、10 代(4%)、20 代(11%)、30 代(10%)、40 代(14%)、50 代(15%)、60 代(23%)、70 歳以上(18%)、不明(6%)である。
- ・居住地域は、8 割は仙台市在住であるが、残りの 2 割に名取市、岩沼市、大崎市、石巻市など仙台市外から参加している者もいる。

図表 2-21 仙台 89ERS ボランティアの登録者の推移



(4) ボランティアに関する年間予算

2013-2014 シーズンの年間予算は約 94 万円。支出内容は主に弁当、ボランティア感謝の集い(慰労会)の運営費、ボランティア保険、お礼状や各種案内の発送費などである。

2. 活動について

(1) 募集

- ・例年、レギュラーシーズンが始まる 10 月に備えて、同年 7 月に新規ボランティアの募集を開始する。
- ・主にウェブサイトや広報誌を活用して募集し、Jリーグやプロ野球のシーズン終了後には、ベガルタ仙台、東北楽天ゴールデンイーグルスの協力を得て、各チームのボランティアへ募集告知も行っている。
- ・以前は募集期間を設けていたが、ボランティアの活動を見た者からシーズン途中に参加希望があったため、2013 年から締切日を廃止し、通年で募集を受け入れるようになった。
- ・既存のボランティアにも新しいシーズンに入る前に、継続の意向確認を行っている。

(2) 説明会・研修等

○説明会

- ・8～9 月に説明会を 2 回開催。新規ボランティアだけではなく、継続のボランティアも必ず 1 回参加する。
- ・説明会の内容は、仙台 89ERS ボランティアの活動目的やアドバイザー^{※)}の紹介、ホームゲーム当日のタイムスケジュール、活動内容、選手・スタッフ・チアリーダーの紹介などである。
- ・シーズン途中のボランティア登録者には、初回の活動会場で説明を行う。
- ・「ボランティア活動マニュアル」を作成し、配布している。内容には、活動の心構え、一日の流れ、活動内容の説明、観戦のルールなどが記されている。

※)アドバイザー:「市民スポーツボランティア SV2004」、「公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク」

○研修

- ・ボランティアに対する説明会の中で、おもてなし研修を行っている。おもてなし研修の講師は、チーム専属のチアリーダー「89ERS チアーズ」のプロデューサーが担当している。

(3) 活動内容

○ホームゲームでの活動人員と配置

- ・1 試合当たり必要なボランティアは 40 人程度。
- ・ホームゲームでは活動場所が 10～12 か所あり、活動場所ごとにリーダーを一人配置する。
- ・ホームゲームごとにチームの職員が当日のリーダーを決める。

○ホームゲーム当日のタイムスケジュール

- ・14:00 に試合開始の場合は、以下の流れで活動する。

11:50:ボランティア集合

11:50～12:30:全体ミーティング、89ERS チアーズと体操、活動場所ごとに準備

12:30～16:45:開場、担当業務を開始

16:45:解散

○ホームゲームでの主な活動内容

図表 2-22 仙台 89ERS ボランティアのホームゲームでの主な活動内容

活動場所	活動内容
入場口	チケットもぎり、プログラム配布、サンプリング、再入場の対応
総合案内	落とし物や迷子対応、各種受付、プレゼントの引換え
ポイントラリー	ポイント付与、景品渡し
エコステーション	ごみの分別回収
その他	チケットチェック、車椅子の来場者対応、ボランティア控室の運営

○ホームゲーム以外での活動

年間 26 日の活動のうち、ホームゲームが 23 試合(市外開催を除く)で、残りの 3 日は地域のイベントで以下のよ
うな活動を行っている。

- ・ゼビオアリーナ周辺の清掃活動
- ・市内各所へのポスター掲示
- ・ショッピングモールで開催する激励会の運営など

3. 運営について

(1) 工夫している点

○チームとボランティアの一体感を醸成

- ・『仙台 89ERS 名鑑』の配布:フロントスタッフ(職員)やチームスタッフ(コーチ、トレーナーなど)、選手、チアリーダー、インターン生の写真やプロフィールをまとめた「仙台 89ERS 名鑑」を作成し、毎年ボランティアだけに説明会で配布している。ボランティアが、チームの職員や選手等の名前や顔を覚える、コミュニケーションツールとなっている。
- ・『ボランティアスタッフ紹介 POP』の掲示:スタッフや会場への来場者とコミュニケーションが図れるよう、活動場所にボランティアの名前、顔写真、来場者へのメッセージを記した紹介シートを提示している。
- ・『活動前のウォーミングアップ』:ホームゲーム開始前、チームの職員からボランティアへ業務説明を行った後、活動前のウォーミングアップとして、チアリーダー主導でストレッチとジンギスカンダンスを行っている。試合の合間に、チアリーダーと来場者がジンギスカンダンスを踊る場面があり、ボランティアも一緒に踊ることでチームの一体感を醸成している。
- ・『ボランティアニュース』の発行:チームのボランティア担当職員が、チームやボランティアの情報を伝えるために、毎試合ごとに「ボランティアニュース」を発行している。ボランティアに関する情報や、活動報告、前回の試合結果や写真、当日の試合結果の記入欄、インターン生からのメッセージなどが掲載されており、ボランティア控室にはバックナンバーが置いてある。

本日ここを担当します



ボランティアの
むらまつ あつし
村松 淳司 です!

フースト!
チームに火を付けて
選手に気持ちよく燃えさせたい



ボランティアスタッフ紹介 POP

○ボランティアによるボランティアのサポート

- ・ボランティア控室に、ボランティアのサポート役として 1~2 人のボランティアを配置している。サポート役はボランティアへの配布資料の準備などをするほか、ボランティアからの活動に関する質問・相談を聞くことなども行っている。質問や相談は後でスタッフにも共有され、円滑なボランティア運営につなげている。

○大学生インターンの活用

- ・2014～2015 シーズンでは、チームに大学生のインターン生が5人いた。そのうちの一人は元々仙台 89ERS ボランティアの一員であり、ボランティアの活動内容や登録者のことをよく理解しているため、ボランティア担当として配置した。担当のインターン生は、ホームゲーム当日のボランティア配置案の作成、ボランティア控室の運営、ボランティア感謝の集いで司会などを行っている。ボランティアにとって学生は親しみやすい存在であり、チームとボランティアをつなぐ役割を果たしている。

(2) 活動に対するインセンティブ

○貸与している物品など

- ・ID カード(ボランティア経験年数により色が異なる)、ジャンパー、ベンチコート、手ぬぐい(チアリーダーとのジギスカンダンス時に使用する)

○慰労会

- ・『ボランティア感謝の集い』:シーズン終了後に、ボランティアのための慰労会としてチーム主催で「ボランティア感謝の集い」を開催している。会場は、ゼビオアリーナと同じ敷地内のドーム型施設「HALEO ドーム」で、チームに所属するフロントスタッフやインターン生はもちろんのこと、コーチなどのチームスタッフ、選手、チアリーダーなどは必ず全員が参加する。ボランティアの参加条件は、1試合以上活動した者が対象で、2013～2014シーズンは約90人のボランティアが参加した。

- ・『記念グッズ』:参加者には、ボランティア用に特別に作成した応援手ぬぐい、選手の写真・サイン入りカード(サンクスカード)、感謝状などの記念グッズを贈呈する。全試合参加のボランティアには選手のサイン入りTシャツ、15試合以上参加のボランティアには選手のサイン入りグッズを贈呈し表彰する。当日は、選手との写真撮影やサインを自由にもらうことができ、ボランティアを継続するためのモチベーションとなっている。

- ・選手に対しては、ボランティアからボールの寄せ書きが贈られるサプライズもあり、相互に感謝し合う場となっている。



サンクスカード

(3) 課題

○研修の充実

新規ボランティアの育成、既存ボランティアのスキルアップの機会提供など、今後、研修の種類や機会を充実させることが課題である。

○活動の多様化

立ち上げから10年が経過し、特にホームゲームの活動が固定化しているため、ボランティアの満足度向上のために、ホームゲーム以外も含めて活動の多様化が必要である。

仙台 89ERS ボランティア

○運営主体:株式会社仙台スポーツリンク

○所在地:仙台市青葉区一番町 2-8-18 仙台中央ビル 2F

山雅後援会 TEAM VAMOS(チームバモス)

- Jリーグ参入前にボランティア組織を設立。ホームゲームで1試合100人以上のボランティアが活動
- 障害者のボランティア活動への参加機会を提供
- ボランティアの自主性を重んじることで、試合運営の改善や質の高いおもてなしを実現

1. プロフィール

(1) 基本情報

図表 2-23 山雅後援会 TEAM VAMOS の基本情報

組織名	山雅後援会 TEAM VAMOS (チームバモス)
活動開始年	2005年
登録者数	330人(2014年8月現在)
活動日数	30日/年
運営主体	山雅後援会
主な活動場所	松本平広域公園総合球技場アルウィンで開催されるホームゲーム、その他のスポーツ大会の運営支援 など

(2) 設立経緯

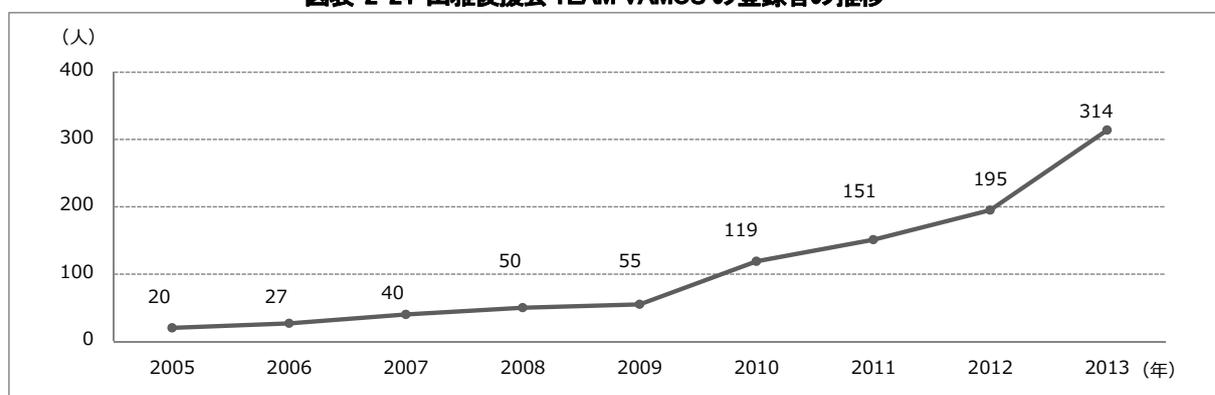
1965年に結成された山雅クラブは、2004年にNPO法人アルウィンスポーツプロジェクトを運営母体とし、Jリーグ入りを目指す「松本山雅FC」として新たなスタートを切った。2005年、ファンクラブ会員制度の策定に携わったサポーター有志が、ボランティア組織の「TEAM VAMOS(チームバモス)」を発足し、ホームゲームの運営をサポートするようになった。2011年に山雅後援会[※]が設立し、その下部組織として位置付けられている。

※)山雅後援会は、松本山雅FCの活動を支援するとともに、スポーツの振興、青少年の健全育成、地域の発展に貢献する会員組織

(3) 登録者

- ・登録者は330人(2014年8月現在)であり、性別で見ると男性がやや多い。
- ・年代は、10～70代まで登録しており、最も多い年代は30～40代である(2013シーズンの平均年齢は38歳)。
- ・居住地は、9割以上のボランティアが県内からであるが、県外(東京都や千葉県、大阪府、山口県)から参加している者も5%いる。
- ・次のシーズンに向けて活動を継続するボランティアは、全体の50～60%である。

図表 2-24 山雅後援会 TEAM VAMOS の登録者の推移



(4) ボランティアに関する年間予算

チームから山雅後援会に試合運営を委託しており、2013シーズンの試合運営委託費の年間予算は約700万円である。大半はTEAM VAMOSの活動費(主にユニフォーム代と食事代)として使用されるが、山雅後援会が実施するGreen & Clean 大作戦[※]などの活動費も含む。

※)アルウィンで行う小学生を対象としたごみ拾いの活動

2. 活動について

(1) 募集

- ・シーズンが始まる3月に備えて、前年の12月から新規ボランティアの募集を行う。主にウェブサイトで募集の告知をしており、ボランティア説明会へ参加後、正式に登録することができる。
- ・既存のボランティアについては、年度ごとに継続意向を確認している。
- ・チームがプレスリリースで紹介するため、新聞などに取り上げられることもある。

(2) 説明会・研修等

○説明会

- ・オフシーズンに土日と平日を合わせて3回程度、シーズン中に2~3回程度の合計年5~6回程度開催する。
- ・説明会の内容は、リーグの説明、チームバモスについて、ボランティア活動の1日の流れ、「チームバモスの約束(基本ルール)」、試合運営以外の地域活動などである。
- ・オフシーズンの説明会では、ボランティアからの体験発表も行われる。

○研修

- ・不定期ではあるが、普通救命講習やマナー講習を開催したこともある。

(3) 活動内容

○ホームゲーム運営時のボランティアの種類

ホームゲームを運営する際に、3種類のボランティアが活動している。ホームゲーム当日にボランティア活動と観戦を共に希望する者や、ボランティア活動を希望する障害者の要望に応じており、1日の活動時間や待遇が異なる(以下、活動時間は試合時間を2時間として計算する。2014シーズン情報)。

1) VAMOS(バモス)

- ・募集方法: 一般公募(高校生以上)
 - ・活動時間: 約8時間(試合開始4時間半前から試合終了1時間半後まで)
 - ・待遇: 食事代2,000円、リーグ戦チケット引換券[※]、ポロシャツ、防寒着の支給
- ※)参加後にリーグ戦チケット引換券(試合は限定)を渡している理由として、クラブからの謝意に加え、周りの家族・知人への勧誘活動の促進も期待している。

2) Be-VAMOS(ビーバモス)

- ・募集方法: 一般公募(高校生以上)
 - ・活動時間: 4時間30分(試合開始4時間半前から試合開始まで[※])
 - ・待遇: 食事代1,000円、ビブスや防寒着は原則貸与
- ※)ボランティア活動後、試合観戦をすることが可能(ただしチケットは自己負担)

3) Eco-VAMOS(エコバモス)

- ・募集方法:障害者(一般公募ではなく、「就労支援ネットワーク まつもと[※]」から受け入れる)
- ・活動時間:約4時間(試合開始1時間前から試合終了1時間後まで)
- ・待遇:食事代1,000円、ビブスや防寒着は原則貸与

※)就労支援ネットワーク まつもとは、障害者の就労支援を主な事業とする任意団体

○ホームゲームでの活動人員と配置

- ・1試合当たりの平均活動者数は111人(2013シーズン)。
- ・当日の配置はTEAM VAMOSの人事担当者(ボランティア)がボランティアの適性を考慮して決める。メーリングリストを用いてボランティアを募集し、当日参加するボランティアの人数が確定した後、各活動場所におけるボランティアの配置を決定する。試合前日までに、ボランティアに活動分担表を通知する。
- ・活動前には全体ミーティングで業務説明や注意点を共有し、活動後には反省会を行う

○ホームゲームでの主な活動内容

図表 2-25 山雅後援会 TEAM VAMOS のホームゲームでの主な活動内容

活動場所	活動内容
会場設営	テント張り、場内看板設置
ゲート	チケットもぎり、チェック
案内・誘導	場外・場内の各種案内業務
イベント補助	特設イベント(例:浴衣で来場した来場者限定の抽選会 など)の補助
グッズ販売	チームの関連グッズの販売
エコステーション	ごみの分別回収



グッズ販売



エコステーション

○ホームゲーム以外での活動

「全日本マウンテンサイクリング in 乗鞍」、「ツール・ド・美ヶ原高原自転車レース大会」などのスポーツイベントの運営サポート

3. 運営について

(1) 工夫している点

○YELL 事業

- ・2013 シーズンより、YELL 事業(Yamaga EcoLogy Link の略)を実施している。資源物回収を主とするエコ活動を通じて、松本山雅FCとホームタウン地域の人々にYELL(エール)を送ることを目的とした事業である。Eco-VAMOS が中心となり、試合会場内でのごみの分別回収(可燃ごみ、ペットボトル、キャップ、古紙類)、試合会場外での古紙類(新聞、ダンボール、雑誌・チラシ)の回収を行う。
- ・YELL の活動により、2013 シーズンはクラブが負担してきたごみの廃棄費用 200 万円が削減された。

○VAMO-Support の設置

- ・ボランティア内に、ボランティアの活動を支援する VAMO-Support を設置している。ボランティアの送迎を手配する「車両」班、ボランティアの受付管理を行う「ID 受付」班、インターネットで広報を行う「広報」班、活動時にセクションのリーダーとなる「セクションリーダー」班、その他「渉外」、「Eco」、「レク・懇親」などである。TEAM VAMOS から必要に応じて募集している。

○ボランティアの自主性を尊重

- ・ボランティアの自主性を重んじるため、できるだけチームの職員から業務の指示を出さないようにしている。チームから依頼された決まった業務に従事するというわけではなく、来場者のために必要であろう業務をボランティアに提案してもらい、試合運営を改善していくスタイルを大事にしている。
- ・ボランティアのリーダーとチームの職員で試合終了後に毎回運営ミーティングを実施。ボランティアが試合運営上の課題や来場者とのトラブル等をチームの職員へ報告し、意見交換する場を設けている。

○ボランティアのおもてなしの発揮

- ・試合運営に対するボランティアからの提案にはおもてなしに関するものもあり、チームと山雅後援会の承諾を得て、提案が実現したケースもある。例えば、アウェイチームの来場者に向けて、ボランティアが手作りで歓迎フラッグを作成しゲートに掲げている。また、「こまったことがあったら声かけてね！」と書かれた誘導看板を手に持つボランティアが所々にいて案内をしてくれるため、アウェイチームの来場者からも、質の高いおもてなしをするボランティア組織だと好評である。



アルウィン内で誘導看板を持つボランティア

○ボランティアの送迎手段の確保

2014 シーズンから来場者のマイカー利用を削減するため、松本駅からアルウィンまでのシャトルバス(片道 500 円)をチームが無料化した。その際、チームと TEAM VAMOS で運行時間を調整し、ボランティアも利用することができるようになった。現在では、試合開始 5 時間 30 分前からと試合終了 1 時間 30 分後までシャトルバスは運行している。

○ボランティア同士の交流促進

VAMO-Support の「レク・懇親」班の主催により、納会、バーベキュー、アウェイ観戦ツアーなどを実施し、ボランティア同士の交流を促進している。

(2) 課題

○ボランティアの参加者数の安定化

- ・シーズンを通して、ボランティアの参加者数を安定させることが困難である。平日1日と日曜日に仕事が休みのボランティアが多く、土曜日の試合では活動人数が不足することがある。また、ボランティアの仕事の予定にかかわらず、夏休み期間は人数が不足することが多い。
- ・参加する人数が少ないと予想される日には、高校生、大学生などの体験ボランティアを受け入れ、それぞれの活動場所に人員が充足するよう努めている。

○リーグ戦チケット引換券

- ・後援会組織の事務局に専従のスタッフがいないのが課題である。専従スタッフを設けることで、ボランティアの広報を強化するとともに、新たな活動を企画することが期待できる。

山雅後援会 TEAM VAMOS(チームバモス)

○運営主体:山雅後援会

○所在地:長野県松本市中央3-11-1 ハヤマビル3階

北海道日本ハムファイターズボランティア

- 年間 50 日以上のホームゲームでボランティアが活動
- リーダーを固定化せず当日の出欠状況に応じて球団職員が指名
- ボランティア運営の質を確保するため、球団職員担当者向けのマニュアルを整備

1. プロフィール

(1) 基本情報

図表 2-26 北海道日本ハムファイターズボランティアの基本情報

組織名	北海道日本ハムファイターズボランティア
活動開始年	2007 年
登録者数	346 人 (2014 シーズン現在)
活動日数	64 日/シーズン
運営主体	株式会社北海道日本ハムファイターズ
主な活動場所	札幌ドームで開催されるホームゲーム

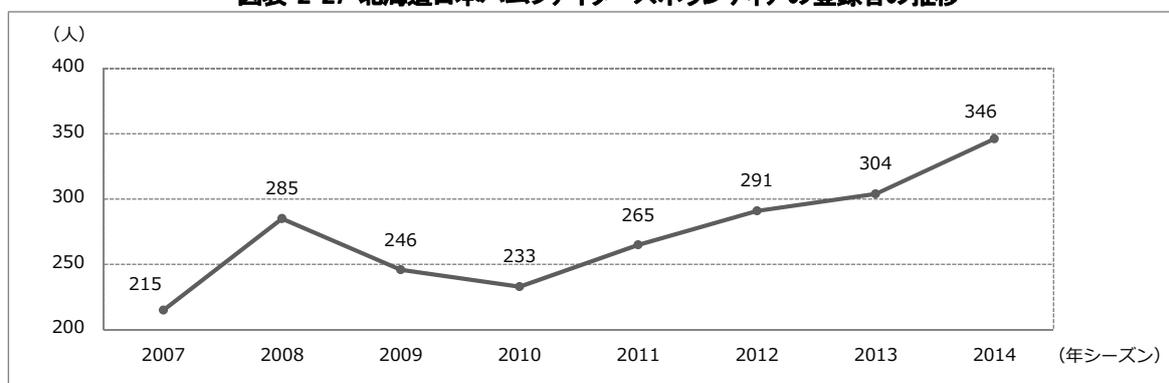
(2) 設立経緯

2004 年にチームのホームタウンが東京から北海道に移転し、北海道の住民に対しての交流の促進やチームへの愛着を醸成するための取組を実施していた。その過程で、ホームゲームの運営を地域住民やファンと一緒に実施することにより、地域との結びつきが強まるのではないかと考え、2007 年にボランティア組織を立ち上げた。

(3) 登録者

- ・登録者は 346 人(2014 シーズン現在)であり、性別は男性が 47%、女性が 53%である。
- ・年代は、20 歳以下(6%)、21～30 歳(7%)、31～40 歳(6%)、41～50 歳(11%)、51～60 歳(21%)、61～70 歳(38%)、71 歳以上(10%)であり、61-70 歳の登録者が最も多い。
- ・居住地域は、9 割は札幌市内在住であるが、残りの 1 割に新十津川町や帯広市から来る者や、東京から複数回参加した者などがいる。
- ・継続年数は、1 年目の者が 99 人(28.6%)と最も多いが、設立時から登録して 8 年目の者も 42 人(12.1%)いる。
- ・コンサドーレ札幌のボランティアと重複するスタッフが 20 人程度おり、北海道マラソン、ゴルフ大会でボランティアを行っている者もいる。

図表 2-27 北海道日本ハムファイターズボランティアの登録者の推移



(4) ボランティアに関する年間予算

- ・支出内容は主に弁当、市営地下鉄専用のプリペイドカード、ボランティア保険、慰労会・懇親会の運営費などである。

2. 活動について

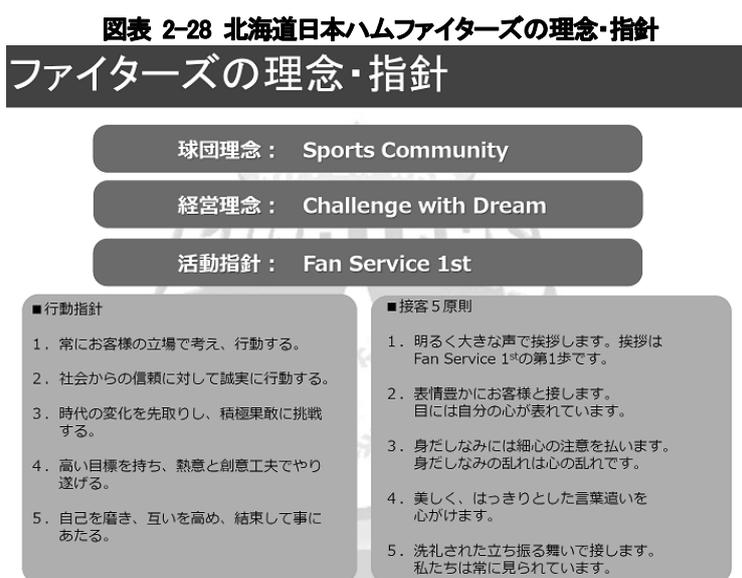
(1) 募集

- ・公式戦のシーズンが始まる3月に備えて、前年の11～12月に継続ボランティアの募集(意向確認)を行い、1～2月に新規ボランティアの募集を行う。
- ・新規ボランティアの募集では、主に球団のウェブサイトで告知し、専用フォームから申し込んでもらう(履歴書の郵送も可)。

(2) 説明会・研修等

○説明会

- ・2～3月に説明会を開催。新規ボランティアだけではなく、継続のボランティアも参加する。
- ・説明会の内容は、球団の理念・指針、ボランティアの活動方針や活動内容、年間スケジュールの紹介などである。



(3) 活動内容

○ホームゲームでの活動人員と配置

- ・1試合当たり必要なボランティアは60人以上。大きなイベント時は80人が理想。
- ・ホームゲームでは活動場所が10か所程度あり、本人のモチベーションと業務の質を保つために、チームの職員が配慮しながら当日の配置を決める。

○ホームゲーム当日のタイムスケジュール

- ・18:00 から試合開始(平日)の場合は、以下の流れで活動する。
 - 15:15:ボランティア集合(試合開始2時間45分前)
 - 15:15～15:45:全体での当日の業務説明
 - 15:45～16:15:各担当場所へ移動し準備開始
 - 16:30～7回表終了時:開場、担当業務を開始
(18:00～18:40に交代で弁当休憩、19:30頃に20分休憩がある)
 - 7回表終了時:担当業務を終了、控室にて反省会
- ・なお、14:00 から試合開始(土日祝)の場合は、開場から試合開始までが30分長いいため集合時間が10:45になる。



全体での当日の業務説明

○ホームゲームでの主な活動内容

図表 2-29 北海道日本ハムファイターズボランティアのホームゲームでの主な活動内容

活動場所	活動内容
サンプリング (30人)	入場ゲートで当日のプレゼント等を配布
車椅子対応 (4人)	車椅子の来場者や球場内で車椅子が必要な来場者への補助。
キッズダム運営 (6人)	2013年から始まったキッズダム(子供向け遊具施設)の運営。数人のアルバイトと共同で運営。子供の安全管理の観点から、担当できるボランティアは球団職員が厳選。
イベント補助(変動あり)	試合中に開催される球団主催のイベントでの補助。
場内案内 (25～30人)	チケットの座席番号を確認し、正しい座席を案内。

3. 運営について

(1) 工夫している点

○球団職員の全体統括による柔軟な対応

- ・球団職員がボランティアの顔と名前を覚えて直接接点を持ち、全体の統括をするよう心掛けている。シーズンを通じた継続的な活動のため、個々の性格に応じて適切な配置を行うことが重要であり、不測の事態(急なボランティアの欠席など)にも柔軟に対応できている。球団職員と直接関わることがモチベーションとなっているボランティアもいる。

○リーダーの固定化を避ける

- ・登録されているボランティアの中で、リーダーを担当できるのは20人程度である。その中から、ホームゲームごとに球団職員が当日のリーダーを決める。一方、リーダーに指名されなかった場合は、リーダーを担当できるボランティアであっても一般のボランティアと同じ立場で業務を行う。一般のボランティアの気持ちを理解することや、リーダーと一般のボランティアとの間で確執が生まれないようにすることが狙いにある。

○担当する業務の固定化を避ける

・ボランティアが常に同じ業務をすることがないよう、球団職員がホームゲームごとに役割を変えている。以前は業務を固定していたが、サンプリング(配布物)担当者は時に来場者からの厳しい意見を聞くケースがあり、場内案内担当者はチケットの細かい文字を何度も読まなければならないなど、一部の役割を担っていたボランティアから不満の声が上がっていた。この不満を解消し、活動に対するモチベーションを下げないよう複数の業務ができるように配慮している。



場内案内をするボランティア

○球団職員に対するマニュアルの整備

・球団職員は、3～4年で部署を異動する。担当者が変わっても、ボランティア運営の質が確保されるよう、ボランティア説明会で使用するスライド資料や接客マニュアルなどを整備している。ボランティアの自主性は重要視しているものの、球団が全体を統括しているため、職員の誰が担当になっても一定水準でボランティア運営が遂行できることに重点を置いている。

(2) 活動に対するインセンティブ

○支給・貸与している物品など

- ・支給:弁当、お茶、市営地下鉄専用のプリペイドカード 500円分
- ・貸与:スタッフユニフォーム

○懇親会・慰労会

- ・『懇親会』:2013年からボランティア同士の交流促進を目的とした懇親会を、球団職員とボランティアと共同で開催している。2014年にはボウリングや食事会を行い、100人程度が参加した。
- ・『慰労会』:年間10日以上活動に参加したボランティアを対象に、球団主催で慰労会を開催している。立食パーティー形式で球団マスコットも参加する。年20回以上活動したボランティアが表彰される。

(3) 課題

○平日のホームゲームに参加するボランティアの確保

- ・登録されているボランティアの中で、50歳代以下の者(全体の約3割)は会社勤めが多く、平日に必要なボランティアの人数の確保が困難な日がある。

北海道日本ハムファイターズボランティア

- 運営主体:株式会社北海道日本ハムファイターズ
- 所在地:北海道札幌市豊平区羊ヶ丘1番地

IV. トライアル事業の報告

1. 事業概要

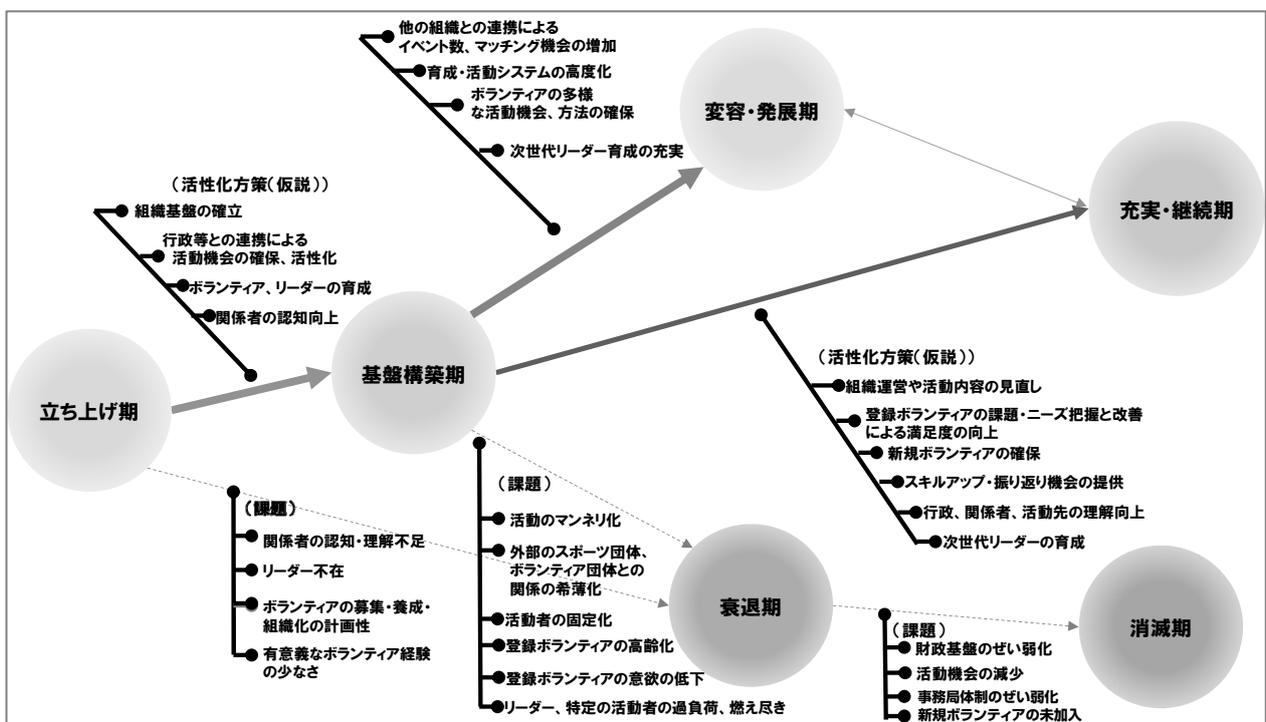
1.1 事業目的

トライアル事業は、地域におけるスポーツボランティア組織等を活性化するための具体的な方策を検討、提案することを目的とし、試行的な事業の実施を通して、課題及び活性化方策の検証を行った。

1.2 スポーツボランティア組織課題及び活性化方策の仮説

スポーツボランティア組織の課題は、組織のライフサイクルによって異なることが想定される。したがって、スポーツボランティアのライフサイクルを「立ち上げ期」「基盤構築期」「変容・発展期」「充実・継続期」「衰退期」「消滅期」に分類し、それぞれ課題及び活性化方策の仮説を整理した。

図表 3-1 スポーツボランティア組織のライフサイクル



笹川スポーツ財団・山口泰雄(2012)「スポーツボランティア団体の活動に関する調査」より作成

事業の対象及び内容

スポーツボランティア組織のライフサイクルを考慮した上で、以下の三つの組織・団体を選定し、トライアル事業を実施した。

図表 3-2 トライアル事業の対象及び内容

自治体	事業の狙い／ライフサイクル	事業連携先	実施内容	協力団体
岡山県	スポーツボランティアの育成及び組織の創設支援 【立ち上げ期→基盤構築期】	(公財)岡山県体育協会	・募集、養成プログラムの設計 ・スポーツボランティア研修会の開催 ・スポーツボランティア・リーダー養成研修会の開催 ・スポーツボランティア普及シンポジウムの開催	NPO法人日本スポーツボランティアネットワーク
広島市	既存のスポーツイベントボランティアの活動活性化支援 【基盤構築期→変容・発展期】	(公財)広島市スポーツ協会	・活動の課題・ニーズ調査の実施 1) 登録ボランティア: 質問紙調査 2) 市スポーツ協会: ヒアリング調査 3) イベント主催者: ヒアリング調査 (サンフレッチェ広島、広島東洋カープ) ・スポーツボランティア啓発シンポジウムの開催 ・若手ボランティアの募集・養成研修会の設計・検討	広島経済大学 松本耕二研究室
仙台市	中高生のスポーツボランティア育成講座の開設支援 【基盤構築期→充実・継続期】	市民スポーツボランティア SV2004 グランディ・21 ボランティア	・中高生のボランティア参画・研修プログラムの構築 ・宮城県(仙台市)の既存組織の連携強化 1) ベガルタ仙台ボランティアクラブ 2) 仙台ベルフィーユボランティア 3) 仙台89ERSボランティア 4) 市民スポーツボランティアSV2004 5) グランディ・21ボランティア 他	市民スポーツボランティアSV2004 グランディ・21ボランティア

事業連携先の団体概要は、以下のとおりである。

○公益財団法人岡山県体育協会

岡山県体育協会は、2012年に財団法人から公益財団法人に名称変更し、57競技団体、26市町村体育協会が加盟している(2014年6月現在)。県内のスポーツ現場でスポーツボランティアに取り組むきっかけを県民に提供したいと考えている。

○公益財団法人広島市スポーツ協会

1994年広島アジア競技大会を機に、1998年からスポーツイベントボランティアの育成に取り組み、現在「スポーツイベントボランティア登録派遣事業」の名称で、ボランティアの登録派遣を実施している(登録者260人、2014年8月現在)。主な派遣先は、広島東洋カープとサンフレッチェ広島のホームゲームである。

○市民スポーツボランティア SV2004

1998年からスタートしたサッカー「ブランメル仙台(現ベガルタ仙台)」のボランティアや2001年の宮城国体、2002年FIFAワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをサポートする目的で2004年に発足したボランティア組織である。

○グランディ・21 ボランティア

2003年の宮城県スポーツ振興基本計画で明文化されている「スポーツボランティアの育成」のために、宮城県が2004年に設置し、ボランティアが運営を行う日本ではあまり例のない官設完全民営型のボランティア組織である。活動の範囲は県のスポーツ施設に限られており、2002年FIFAワールドカップ宮城大会時に宮城スタジアムで活動したボランティアが中心となっている。

2. トライアル事業結果

2.1 スポーツボランティアの育成及び組織の創設支援（岡山県）

(1) トライアル事業の目的

新たなスポーツボランティア組織の立ち上げ期の事例として、募集、養成、普及等の一連の流れを検証し、一般化することで、他県でも参考になる事例とすることを目的とした。

また、岡山県体育協会として、本事業をきっかけに、県内各地域・活動現場で、スポーツボランティアに関する取組を考え、スタートさせるきっかけにすることも併せて目的とした。

(2) トライアル事業の実施体制

公益財団法人岡山県体育協会と連携し、NPO 法人日本スポーツボランティアネットワークの協力を得て実施した。

(3) スケジュール

- 2014年 6月1日(日) 岡山県体育協会主催「スポーツボランティア講演会」※関連事業
- 2014年 9月21日(日) スペシャルオリンピック日本主催「スポーツボランティア研修会」※関連事業
- 2014年 11月9日(日) 「スポーツボランティア研修会」
- 2014年 12月7日(日) 「スポーツボランティア・リーダー養成研修会」
- 2014年 12月20日(土) 「スポーツボランティアシンポジウム in 岡山」

(4) 事業内容の詳細

① 事業の周知

以下の団体経由で、事業の周知と参加者の募集を行った。

図表 3-3 事業の周知と参加者の募集

発信団体	方法
笹川スポーツ財団	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岡山県体育協会主催「スポーツボランティア講演会」(6/1 参加者 59 人)での告知 ・ 笹川スポーツ財団ウェブサイトでの告知
岡山県体育協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主催事業でのチラシ配布 アシスタントマネジャー養成講習会(17人) 桃スポキッズチャレンジフェスタの保護者・指導者(約80人)) ・ 普及委員会委員へ関係各所への広報依頼 委員構成: 学識経験者、市町村体育協会役員 スポーツ少年団認定育成員、健康運動実践指導者 ・ 岡山県体育協会ウェブサイトでの告知
日本スポーツボランティアネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登録会員(1,200人)へのメールニュースの配信 ・ 日本スポーツボランティアネットワークのウェブサイトでの告知

図表 3-4 事業の岡山県内広報先リスト(日本スポーツボランティアネットワーク発信)

区分	広報先
県内スポーツ関係者	市町村行政スポーツ担当課、市町村スポーツ推進委員協議会、市町村体育協会競技団体、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ 県レクリエーション協会加盟団体、県障害者スポーツ協会
県内マラソン大会	そうじゃ吉備路マラソン実行委員会事務局 倉敷国際トライアスロン大会実行委員会事務局 岡山吉備高原車いすふれあいロードレース事務局
トップスポーツチーム	ファジアーノ岡山、岡山シーガルズ
教育機関	岡山大学、四国学院大学、吉備国際大学、福山市立大学、倉敷芸術科学大学 環太平洋大学、川崎医療福祉大学、岡山県立大学、就実大学
その他	スペシャルオリンピックス岡山、おかやま NPO ボランティアセンター

② スポーツボランティア養成プログラムの開催

スポーツボランティアに関する知識や技術の習得を目的に、日本スポーツボランティアネットワークの規程に基づき、スポーツボランティア養成プログラムを計 2 回開催した。

図表 3-5 スポーツボランティア養成プログラム

研修会人	概要
スポーツボランティア研修会	日時・場所: 11月9日(日) 13:00~16:00 岡山大学
	参加者数: 42人
	主な講習内容: 1. スポーツボランティアについて 2. コミュニケーションスキルについて ※受講者には「スポーツボランティア研修会修了証」を発行
スポーツボランティア・リーダー養成研修会	日時・場所: 12月7日(日) 10:00~16:30 岡山大学
	参加者数: 23人 ※スポーツボランティアの活動経験がある高校生以上で、スポーツボランティア研修会(11月9日の研修会、及び他でスポーツボランティアネットワークが開催した研修会の修了者)
	主な講習内容: 1. ボランティア・リーダーについて 2. 理論(スポーツ政策、リーダーシップ) 3. コミュニケーションスキルについて ※認定者には「スポーツボランティア・リーダー認定証」を発行



「スポーツボランティア・リーダー認定証」

③ スポーツボランティアシンポジウムの開催

スポーツボランティアの可能性について、事例報告や参加者同士での意見交換を行い、市民が主体となるスポーツボランティアの在り方について理解を深め、スポーツボランティアの普及を目的として開催した。

図表 3-6 スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 岡山

『スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 岡山』	
日時・場所:	12月20日(土) 13:00~16:00 岡山大学
参加者数:	36人
主な内容:	1.基調講演 「我が国のスポーツボランティアの現状～これからのスポーツボランティアの在り方～」 2.パネルディスカッション 「岡山県のスポーツボランティアの可能性を探る」 3.グループワーク 「ワールドカフェ:スポーツイベントを成功させるために私たちができること」



パネルディスカッション



ワールドカフェ

④ 参考：同時期に開催されたスポーツボランティア関連事業

本年度岡山県内で、本トライアル事業と連携し、以下のスポーツボランティア関連事業が実施された。

図表 3-7 本事業と連携した関連事業

事業人	概要
スポーツボランティア講演会	主 催：岡山県体育協会 日 時・場 所：6月1日(日) 13:00～16:30 岡山ロイヤルホテル 参 加 者：59人
スポーツボランティア研修会	主 催：スペシャルオリンピックス日本 日 時・場 所：9月21日(日) 13:30～16:30 きらめきプラザ 参 加 者：17人 ※スペシャルオリンピックス日本は、日本スポーツボランティアネットワークの正会員であり、11月9日の本事業主催の研修会と同内容の研修会を開催した。本研修会を受講した17人も、12月7日の「スポーツボランティア・リーダー養成研修会」の受講資格を有する。

⑤ その他

岡山県体育協会主催の「スポーツボランティア講演会」に参加していた岡山県真庭市生活環境部スポーツ・文化振興課の担当者依頼により、市の予算で以下の研修会が実施された。

図表 3-8 真庭市スポーツ少年団指導者研修会

『真庭市スポーツ少年団指導者研修会』	
日 時：	2015年1月22日(木) 19:30～20:30
参 加 者：	61人
講 演：	「我が国のスポーツボランティア～現状と意義、これからの可能性を考える～」



大岡山科学未来センターにおいてのボランティア活動活性化のための調査研究

スポーツボランティア シンポジウム 2014 in 岡山

地域においてスポーツボランティアが活動する総合型地域スポーツクラブをはじめ、障害者スポーツやフットボールチームなどに限らず、岡山県でも都市型ボランティアの増加が確認。スポーツボランティアにとって多くの活動機会が想定されます。岡山県にスポーツボランティアに関する個人や組織の担当者、行政、企業、有識者などそれぞれの立場の人が一堂に会し、活動報告や意見交換を行うことで、これからのスポーツボランティアのあり方を話し、広げ合に繋げる機会です。スポーツボランティアをまだやったことがない方も、是非この機会にご参加ください。

日時：12月20日(土)13時～16時
場所：岡山大学 (岡山市津島中2-1-1) (裏面参照)
 参加費：無料 定員：100名 申込：ホームページまたはFAX
 主催：日本スポーツボランティアネットワーク 共催：皆川以博研究会
 協賛：岡山県体育協会 後援：岡山大学

【プログラム】(予定)
基調講演
 「我が国のスポーツボランティアの現状」
 ～これからのスポーツボランティアの在り方～
 講師：皆川以博 皆川以博研究会 スポーツ政策研究所 副主任研究員

パネルディスカッション
 「岡山県にスポーツボランティアの可能性を探る」
 (パネリスト) 大木 裕志 氏 おかやまマラソン実行委員会 事務局長
 藤本 直久 氏 スペシャルオリンピックス日本・岡山 ボランティア委員長
 山本 圭一 氏 岡山大学 体育学助教授 准教授
 (コーディネータ) 二宮 龍也 氏 文政大学 准教授 / 日本スポーツボランティア・アシスタント 理事

グループワーク
 「ワールドカフェ：スポーツイベントを成功させるために私たちができること」
 ※このセッションは無料です。お昼の休憩時間まで参加いただけます。

特定非営利活動法人 日本スポーツボランティアネットワーク
 〒107-6011 東京都港区赤坂1-12-32 アーク赤坂ビル1階 皆川以博研究会内
 TEL 03-5545-3301 FAX 03-5545-3305 http://www.jsvn.or.jp/ E-mail: info@jsvn.com

「スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 岡山」募集チラシ

2. 2 既存のスポーツイベントボランティアの活動活性化支援（広島市）

(1) トライアル事業の目的

既存のスポーツイベントボランティア登録者*の活動満足度の向上のために、課題の認識及び解決を図るとともに、若年層のボランティアを確保することによる登録者の拡大と募集のノウハウを蓄積することによって、既存のボランティア組織に対する活動継続可能な支援策を検証し一般化することを目的とした。

※公益財団法人広島市スポーツ協会が実施する「スポーツイベントボランティア登録派遣事業」に登録しているボランティアのこと(登録者 260 人、2014 年 8 月現在)。

(2) トライアル事業の実施体制

公益財団法人広島市スポーツ協会と連携し、広島経済大学松本耕二研究室の協力を得て実施した。

(3) スケジュール

2014 年 5 月 13 日(火) 広島市スポーツ協会へのヒアリング調査

2014 年 8 月 11 日(月) 広島東洋カープ ボランティア担当者へのヒアリング調査

2014 年 8 月 31 日(日) サンフレッチェ広島 ボランティア担当者へのヒアリング調査

2014 年 8 月 31 日(日) 「スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 広島」

2015 年 1 月 24 日(土) 「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」

2015 年 1 月下旬 「スポーツイベントボランティア登録者の活動に関するアンケート調査」の実施

(4) 事業内容の詳細

① 事業の周知

以下の団体経由で、事業の周知と参加者の募集を行った。

図表 3-9 事業の周知と参加者の募集

発信団体	方法
笹川スポーツ財団	・笹川スポーツ財団ウェブサイトでの告知 ・中国新聞社へのリリース配信
広島市スポーツ協会	・スポーツイベントボランティア登録者(260 人)への案内 ・広島市スポーツ協会加盟団体(50 団体)・役員等への案内 ・中国新聞社への案内 ・市内大学(12 大学)への直接訪問によるセミナー(1/24)の説明・案内 ・広島市スポーツ協会ウェブサイトでの告知
広島東洋カープ	・ホームゲーム(10 日分)来場者へのチラシの配布 (シンポジウム(8/31)チラシ 6,000 部(300 部×2 ゲート×10 日分))
サンフレッチェ広島	・ホーム最終戦(12/6)来場者へのチラシの配布 (セミナー(1/24)チラシ 3,000 部)
広島経済大学 松本耕二研究室	・広島経済大学内での案内

② 関係者へのヒアリング調査

広島市スポーツ協会及びイベント主催者を対象としてヒアリング調査を実施した。対象と概要は以下のとおりである。

図表 3-10 関係者へのヒアリング調査

対象	日時	概要
広島市スポーツ協会	5月13日(火) 16:00~18:00	広島市のスポーツボランティア登録派遣制度ができて14年目を迎えることから、現状を把握し、運営主体である広島市スポーツ協会が考えるボランティア運営に関する課題やニーズを確認した。
広島東洋カープ	8月11日(月) 17:00~18:00	ボランティアに対する現状認識を確認するとともに、課題とニーズを把握することによって、今後の活動の在り方を探った。
サンフレッチェ広島	8月31日(日) 11:00~12:00	

③ 「スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 広島」の開催

活動上関わりのある、トップチームのボランティア担当者、ボランティアの代表者、施設管理者、スポーツボランティアに詳しい専門家等が一堂に会し、一般参加者も含めて、今後の広島のスポーツボランティアの可能性について考える機会とした。

図表 3-11 スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 広島

『スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 広島』	
日 時:	8月31日(日) 13:30~16:30
会 場:	メルパルク広島
参加者数:	86人
主 な 内 容:	1. 基調講演 「我が国のスポーツボランティアの現状 ～これからのスポーツボランティアの在り方～」 2. 広島市の「スポーツ・サポート・センター」 概要報告 3. パネルディスカッション 「広島市のスポーツボランティアの 可能性を探る」

④ 「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」の開催

若年層登録者の確保が課題の一つとして挙げられていることから、市内大学生を中心とした若者世代を対象に、スポーツボランティアの正しい理解と認識を提示し、今後の登録者数の確保と若年層への活動機会の提供を目的として開催した。

図表 3-12 若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA

『若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA』	
日 時:	1月24日(土) 9:30~13:00
会 場:	総合屋内プール(広島ビッグウェーブ) 会議室
参加者数:	35人
主な内容:	1.講演①「スポーツボランティア概論 ~入門編~」 2.講演②「楽しさの共有~ボランティア活動におけるコミュニケーションワーク」 3.講演③「スポーツボランティアのネットワーク ~地域から全国へ~」 4.活動報告①「広島市スポーツイベントボランティア」 5.活動報告②「サンフレッチェ広島と広島市スポーツイベントボランティア」 6.募集情報①「広島ライトニング ボランティア」※1 7.募集情報②「広島ドラゴンフライズ ボランティア」※2

※1 広島ライトニングは、プロバスケットボールリーグのbjチャレンジリーグに所属

※2 広島ドラゴンフライズは、ナショナル・バスケット・リーグ(NBL)に所属



若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA

⑤ 「スポーツイベントボランティア登録者の活動に関するアンケート調査」の実施

既登録者を対象としたアンケート調査を実施した。結果については、2013年11月に広島経済大学松本耕二研究室が実施した、同様のアンケート調査結果と比較分析した。

図表 3-13 スポーツイベントボランティア登録者の活動に関するアンケート調査

時 期	2015年1月14日(水)~30日(月)
配布数	スポーツイベントボランティア登録者 250人
回収数	175票(70.0%)
調査内容	登録年数、過去1年間の活動状況、参加動機、活動理由、広島市スポーツイベントボランティア以外のボランティア活動状況(スポーツ以外も含む)、ボランティアの活動希望等

2. 3 中高生のスポーツボランティア育成講座の開設支援（仙台市）

(1) トライアル事業の目的

スポーツの「する」「見る」「支える」の3要素のうちの「支える」ことの大切さを、中学生、高校生に学んでもらい、支える活動であるスポーツボランティアへの理解の促進と、実践活動の提供を行うことで、どの団体でも課題となっている、若手ボランティアの育成・確保の解決策を見つけることを目的とした。また、併せて仙台市に複数あるスポーツボランティア組織・団体の有機的な横のつながりを構築することも目的とした。

(2) トライアル事業の実施体制

市民スポーツボランティア SV2004、グランディ・21 ボランティアと連携して実施した。

(3) スケジュール

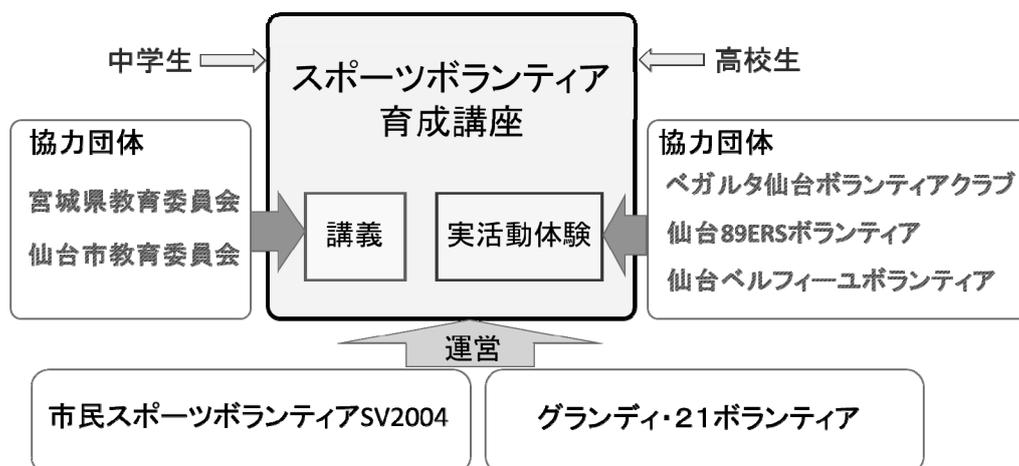
2014年 9月1日(月)～10月15日(水)	募集
2014年 10月11日(土)・19日(日)	説明会 兼 第1回講義
2014年 11月2日(日)・3日(月祝)	第2回講義 (2・3のいずれかの日を選択)
2014年 10月中旬～2015年 1月	実活動体験 (3回以上の選択)、レポートの提出
2015年 2月7日(土)	スポーツボランティア育成講座「修了証授与式」

(4) 事業内容の詳細

① 運営・管理主体と協力団体

市民スポーツボランティア SV2004 とグランディ・21 ボランティアの両団体の担当者が、講座の実際的な計画と運営を行った。ボランティアの実活動体験については関連する団体との連絡調整を行い、詳細な実施計画を立てて、活動の管理・運営に当たった。実施運営の実務は協力団体と分担した。

図表 3-14 仙台市「中高生のボランティア育成講座」運営体制図



②事業の周知

以下の団体経由で、事業の周知と参加者の募集を行った。

図表 3-15 事業の周知と参加者の募集

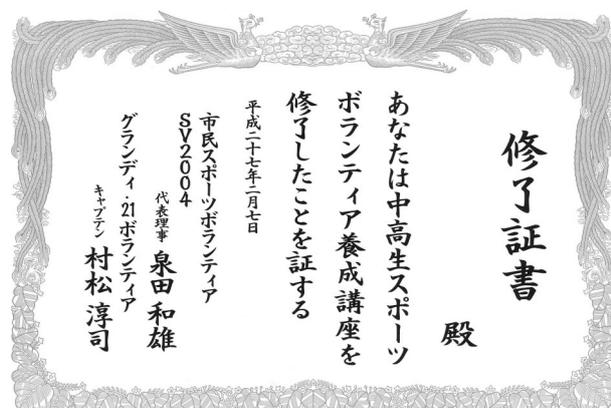
発信団体	方法
笹川スポーツ財団	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仙台市長及び仙台市教育委員会教育長宛てに後援申請し、告知協力を得た ・ 宮城県教育委員会教育長宛てに後援申請し、告知協力を得た
仙台市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仙台市教育局総務企画部健康教育課からチラシの配布及び教頭・部活顧問への電話説明 <p>バスケットボールやサッカーのリーグ戦会場に近いエリアの比較的規模の大きい中学校(5校)を対象とし、体験学習担当の教員(各100部)、バスケットボール部とサッカー部(各50部)に対してチラシを配布。仙台市内の市立高校にチラシを配布(200部)</p>
市民スポーツボランティア SV2004	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民スポーツボランティア SV2004 ウェブサイト ・ ボランティアネットワーク(約300人)へのメール発信 ・ 河北新報社へのリリース配信



説明会に参加する中高生



講習会に参加する中高生



スポーツボランティア育成講座終了証



修了認定バッジ

③ 中高生のスポーツボランティア育成講座の開催

以下のようなプログラムからなる中高生のスポーツボランティア育成講座を開催した。修了の条件は、講座の受講と少なくとも3回以上の実活動体験の実施とレポート提出である。

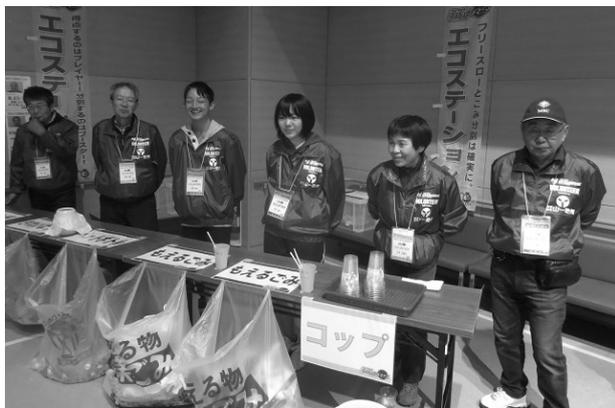
図表 3-16 中高生のスポーツボランティア育成講座のプログラム

プログラム	実施者数	日時	概要
説明会 第1講義	28人	10月11日(土) 又は19日(日) 9:30~11:30	主な内容: 1. 本事業の説明 2. 「スポーツボランティア入門」 3. 「楽天イーグルスにおけるスポーツボランティア」 ※同内容を2回開催
第2講義	17人	11月2日(日) 又は3日(月・祝) 9:30~11:30	主な内容: スポーツ舞台を支える ~スポーツマネジメントの役割~ ※同内容を2回開催
実活動体験	22人	—	・ あらかじめ講座受講者向けに設定されたボランティア活動から、少なくとも3回(3日)の実活動体験を行った。実活動体験においては、協力団体が指定した時間、場所、活動内容に合わせて、ボランティア活動を行った。 ・ 活動当日は、ボランティア活動経験が豊富な市民スポーツボランティアSV2004、若しくはグランディ・21ボランティアが、中高生のサポートに付きながら活動を実施した。
レポート作成	22人	—	・ 実活動体験を終えるごとにA4用紙1枚程度のレポートを作成させた。レポートの形式は自由とし、ボランティア活動の感想、意見等を記述させた。また、講義と全ての実活動体験修了後に講座レポートを提出させた。
「スポーツボランティア育成講座」修了証授与式	48人	2月7日(土) 13:00~16:30	主な内容: 1. 基調講演「スポーツとボランティアの関わり方~2020年に向けて~」 2. 修了証授与 3. 応援メッセージ・ビデオメッセージ(活動チームから) 4. 修了生記念写真 5. 懇親会 中高生15人、保護者含む一般33人が参加した。

各協力団体におけるボランティア活動日程、参加者数、活動内容は以下のとおりである。

図表 3-17 中高生のスポーツボランティア育成講座の実活動体験日程

No	月日	活動時間	チーム名	試合・イベント内容	会場	参加人数	活動内容
1	10/26(日)	9:30-16:00	ベガルタ仙台	13:00キックオフ 柏レイソル戦	ユアテックススタジアム仙台	3	入場口対応・エコステーション・チケットチェック
2	11/22(土)	15:30-21:00	ベガルタ仙台	19:00キックオフ セレッソ大阪戦	ユアテックススタジアム仙台	7	入場口対応・エコステーション・チケットチェック
3	10/25(土)	15:50-21:00	仙台89ERS	18:00試合開始 埼玉戦	仙台市青葉体育館	2	活動説明・エコステーション・チケットのもぎり・サイン会体験
4	10/26(日)	11:50-17:00	仙台89ERS	14:00試合開始 埼玉戦	仙台市青葉体育館	1	活動説明・エコステーション・サイン会体験
5	11/15(土)	15:50-21:00	仙台89ERS	18:00試合開始 富山戦	仙台市体育館	2	キッズパーク・エコステーション・サイン会体験
6	11/16(日)	11:50-17:00	仙台89ERS	14:00試合開始 富山戦	仙台市体育館	8	キッズパーク・エコステーション・のぼり撤去・サイン会体験
7	11/22(土)	15:50-21:00	仙台89ERS	18:00試合開始 大分戦	仙台市青葉体育館	0	
8	11/23(日)	11:50-17:00	仙台89ERS	14:00試合開始 大分戦	仙台市青葉体育館	0	
9	12/6(土)	15:50-21:00	仙台89ERS	18:00試合開始 奈良戦	ゼビオアリーナ仙台	5	チケットのもぎり・案内・エコステーション
10	12/7(日)	10:20-17:00	仙台89ERS	14:00試合開始 奈良戦	ゼビオアリーナ仙台	9	チケットのもぎり・案内・エコステーション
11	12/20(土)	14:20-21:00	仙台89ERS	18:00試合開始 群馬戦	仙台市体育館	4	キッズパーク・エコステーション・サイン会体験
12	12/21(日)	10:20-17:00	仙台89ERS	14:00試合開始 群馬戦	仙台市体育館	3	キッズパーク・エコステーション・サイン会体験
13	1/17(土)	15:50-21:00	仙台89ERS	18:00試合開始 秋田戦	ゼビオアリーナ仙台	6	チケットのもぎり・案内・エコステーション
14	1/18(日)	10:20-17:00	仙台89ERS	14:00試合開始 秋田戦	ゼビオアリーナ仙台	5	チケットのもぎり・案内・エコステーション
15	10/25(土)	9:00-16:00	グランディ・21	フリスポ2014	ひとめぼれスタジアム宮城	0	
16	10/26(日)	9:00-16:00	グランディ・21	フリスポ2014	ひとめぼれスタジアム宮城	0	
17	11/29(土)	11:30-17:00	仙台 ベルフィーユ	13:00試合開始 PFU vs GSS 仙台 vs 柏	富谷スポーツセンター	1	案内・エコステーション
18	11/30(日)	10:30-16:00	仙台 ベルフィーユ	12:00試合開始 PFU vs 柏 仙台 vs GSS	富谷スポーツセンター	1	案内・エコステーション
19	12/20(土)	11:30-17:00	仙台 ベルフィーユ	13:00試合開始 PFU vs JAぎふ 仙台 vs 大野石油	元気フィールド仙台	2	案内・エコステーション
20	12/21(日)	10:30-16:00	仙台 ベルフィーユ	12:00試合開始 PFU vs 大野石油 仙台 vs JT	元気フィールド仙台	1	案内・エコステーション
21	1/31(土)	11:30-17:00	仙台 ベルフィーユ	13:00試合開始 柏 vs GSS 仙台 vs 熊本	ゼビオアリーナ仙台	2	案内・エコステーション
22	2/1(日)	10:30-16:00	仙台 ベルフィーユ	12:00試合開始 KUROBE vs GSS 仙台 vs 柏	ゼビオアリーナ仙台	0	



実活動体験①エコステーション



実活動体験②サイン会での選手サポート

3. トライアル事業の効果検証

3. 1 トライアル事業の目的と主な検証項目

各トライアル事業の目的と主な効果検証項目については、以下のとおりである。

(1) スポーツボランティアの育成及び組織の創設支援（岡山県） 【立ち上げ期→基盤構築期】

新たなスポーツボランティア組織の立ち上げ期の事例として、募集、養成、組織化するまでの一連の流れを検証し、一般化を試みることを目的として実施した。

【主な効果測定項目】

- ・ 募 集：募集・広報の方法
- ・ 養 成：研修内容、参加者の意識変容
- ・ 組織化：各組織の連携協力状況

(2) スポーツイベントボランティアの活動活性化支援（広島市） 【基盤構築期→変容・発展期】

設立 14 年を過ぎ、活動の固定化、ボランティアの活動満足度の低さが運営側から課題として挙げられている。活動の維持・継続に向けて、活動内容の拡大、活動満足度の向上、若年層の確保など組織活性化を目的としたトライアル事業を実施し、その効果を検証することで、有効な取組を抽出することを目的として実施した。

【主な効果測定項目】

- ・ 募 集：若年層ボランティアの募集方法
- ・ 養 成：若年層ボランティア向けの研修内容、研修参加者の意識変容
- ・ 組織化：セミナー参加や新規ボランティアの加入による既登録者の活動満足度の変化、研修受講者の今後の活動意向

(3) 中高生のスポーツボランティア育成講座の開設支援（仙台市）【基盤構築期→充実・継続期】

スポーツボランティア団体間の連携により、中高生ボランティアの育成を図り、団体間及び教育委員会とのネットワークを構築することを目的としたトライアル事業を実施し、新たな取組の有効性を検証した。

【主な効果測定項目】

- ・ 募 集：団体連携による中高生ボランティアの育成・確保の状況
- ・ 養 成：研修内容（教委連携、研修内容）、研修に参加した中高生ボランティアの意識変容
- ・ 組織化：団体間のネットワーク構築の状況、プログラム参加者の今後の活動意向

3. 2 検証項目一覧

スポーツボランティア組織に対するトライアル事業の評価について、ボランティア組織の活動過程に応じて、募集、養成、組織化、活動、その他の5区分に分類し、それぞれについて望ましい効果、及びその評価・分析指標を整理し、図表3-18に取りまとめた。

表中の「○」は、各トライアル事業において評価・分析対象とした指標であることを示す。

図表 3-18 トライアル事業の評価指標

分野	トライアル事業の効果	トライアル事業の評価・分析指標	岡山	広島	仙台
1. 募集	1.1 ボランティア数の増加	研修・講習会参加者数・参加者属性(未経験者、経験者)	○	○	○
		セミナー・シンポ・修了式参加者数・参加者属性(未経験者、経験者)	○	○	○
		新規ボランティア登録者数・登録者属性(未経験者、経験者)	○	○	○
	1.2 効果的な募集経路の確立	募集・案内の配布数、配布先	○	○	○
		募集・案内の配布先別の参加者数、配布数	○	○	○
2. 養成	2.1 活動につながる研修・セミナーの実施	研修・セミナーの理解度	○	○	○
		研修・セミナーの満足度	○	○	○
		プログラム終了後の活動意欲	○	○	○
		ボランティア養成プログラム受講意欲		○	
		リーダー研修受講意欲	○	○	
	2.2 ボランティア、ボランティアリーダーの育成	ボランティア研修受講者数、終了者数	○		○
		リーダー研修受講者数、終了者数	○		
ニーズに応じた研修の実施状況				○	
3. 組織化	3.1 運営・活動基盤の構築	事務局機能の整備			○
		事務局機能の負担軽減			○
	3.2 関係者の理解	関係者の認知、理解		○	○
		一般市民の認知、理解	○	○	○
	3.3 ボランティアの活動意欲の維持	ボランティアの今後の活動意欲	○	○	○
		ボランティアの活動ニーズの把握		○	○
		ボランティア活動の満足度			○
	3.4 関係機関との連携確保	行政との関係構築	○		○
		他のスポーツ団体との関係構築	○	○	○
		その他団体との関係構築	○	○	○
4. 活動	4.1 活動の活発化	活動回数		○	○
		活動人数(実人数、延べ人数)		○	○
		多様な活動機会提供の状況		○	○
	4.2 活動の質の担保	活動目的の達成状況		○	○
		活動内容のフィードバック機会の設定		○	○
5. その他	5.1 多様な効果の発生	団体、地域、活動先への効果発生	○	○	○

3. 3 トライアル事業の効果検証

(1) スポーツボランティアの育成及び組織の創設支援（岡山県） 【立ち上げ期→基盤構築期】

岡山県で実施したトライアル事業「スポーツボランティアの育成及び組織の創設支援」の効果検証結果は以下のとおりである。

図表 3-19 効果検証(岡山県)

評価指標	実績
1.1 募集:ボランティア数の増加	
・ スポーツボランティア研修会参加者は 42 人(うち、岡山県内者 30 人)、うちスポーツボランティア・リーダー養成講習会参加者は 23 人(うち、岡山県内 18 人)であり、スポーツボランティアの育成が図られた。	延べ研修受講者数 65 人
・ シンポジウム参加者は 36 人(うち、岡山県内者 33 人)であった。	シンポジウム参加者 36 人
・ スポーツボランティア・リーダー養成研修会及びシンポジウム参加者のうち 55%が、ボランティア組織が設立された場合には登録したいと回答した。	ボランティア登録意向 55%
1.2 募集:効果的な募集経路の確立	
・ 連携先である公益財団法人岡山県体育協会及び協力先である NPO 法人日本スポーツボランティアネットワークの協力を得て募集・案内を行った。	案内配布数 1,799 枚
・ 研修の情報の入手経路は、「日本スポーツボランティアネットワークの HP 又は Facebook」(36%)が最も多く、次いで「岡山県体育協会の HP 又は案内」(27%)、「友人・知人からの紹介」(18.2%)であった。 ・ 県内 27 自治体(15 市 10 町 2 村)のうち 13 自治体(10 市 3 町)、全体の 48%の自治体から、本事業への参画が得られた。また、県内の主要なスポーツ関係者からの参画があったことは評価できる。 ・ 一方で、トップスポーツチーム、大学からの参画は少数であった。	県内自治体参加率 48%
2.1 養成:活動につながる研修・セミナーの実施	
・ 研修会の難易度は、5 段階評価(1.簡単、5.難しい)でスポーツボランティア研修会は 2.71、スポーツボランティア・リーダー養成研修会は 2.96 であり、難易度は適当であったと言える。	平均難易度 2.71～2.96/5.00
・ スポーツボランティア研修会、スポーツボランティア・リーダー養成研修会の満足度は、5 段階評価で平均 4.56～4.57 と高評価であった。	平均満足度 4.56～4.57/5.00
・ スポーツボランティア研修会参加者の 90%、スポーツボランティア・リーダー養成研修会参加者の 83%、シンポジウム参加者の 87%が今後、スポーツボランティアとして活動したいと回答した。	活動意欲 83～90%
・ スポーツボランティア研修会参加者の 62%、スポーツボランティア・リーダー養成研修会参加者の 65%、シンポジウム参加者の 87%が今後もスポーツボランティア養成講習会に参加したいと回答した。	研修受講意欲 62～87%
・ スポーツボランティア研修会参加者の 42%がスポーツボランティア・リーダー養成研修会に参加したいと回答した。	リーダー研修受講意欲 42%
2.2 養成:ボランティア、ボランティアリーダーの育成	
・ スポーツボランティア 42 人(うち、岡山県内者 30 人)を養成した。	ボランティア育成数 42 人
・ スポーツボランティア・リーダー 23 人(うち、岡山県内者 18 人)を養成した。	リーダー育成数 23 人
3.1 組織化:運営・活動基盤の構築	
・ 本トライアル事業の評価・分析対象外。	—

評価指標	実績
3.2 組織化:関係者の理解	
・ 主催事業には、県内 13 自治体(48.1%)及び県内スポーツ関連組織・団体の関係者が参加し、県内のステークホルダーに対してスポーツボランティアが浸透した。	県内主要関係者の事業参加
・ スポーツボランティア研修会に、スポーツボランティア未経験者が 23%参加するなど、一般市民への理解が得られた。	研修会へのスポーツボランティア未経験者参加 23%
3.3 組織化:ボランティアの活動意欲の維持	
・ 【再掲】スポーツボランティア研修会参加者の 90%、スポーツボランティア・リーダー養成研修会参加者の 83%、シンポジウム参加者の 87%が今後、スポーツボランティアとして活動したいと回答した。	活動意欲 83~90%
3.4 組織化:関係機関の連携確保	
・ 【再掲】県内の 13 自治体(岡山県内の自治体の 48.1%)から、本事業への参画があった。	県内自治体参加率 48%
・ 県内スポーツ関連組織・団体である「市町村スポーツ行政担当者」「市町村体育協会」「スポーツ推進委員」「総合型地域スポーツクラブ」「スポーツ少年団」「大学」「おokayamaマラソン大会実行委員会事務局」等から本事業へ参画があった。	主要スポーツ団体の参画数 10 団体
・ スペシャルオリンピックス日本・岡山、スポーツボランティアを大学のカリキュラムに取り入れている環太平洋大学とのネットワークが構築できた。	その他団体の参画数 2 団体
4.1 活動:活動の活発化	
・ 本トライアル事業の対象外。	—
4.2 活動:活動の質の担保	
・ 本トライアル事業の対象外。	—
5.1 その他:多様な効果の発生	
・ 岡山県真庭市では、市の依頼により、「真庭市スポーツ少年団指導者研修会」においてスポーツボランティアに関する講演を行った。また、総合型地域スポーツクラブと市体育協会の関係者の計 3 人がスポーツボランティア・リーダー認定を得ており、今後の展開が期待される。	地域内での展開 1 地域

スポーツイベントボランティアの活動活性化支援（広島市） 【基盤構築期→変容・発展期】

広島市で実施したトライアル事業「スポーツイベントボランティアの活動活性化支援」の効果検証結果は以下のとおりである。

図表 3-20 効果検証(広島市)

評価指標	実績
1.1 募集:ボランティア数の増加	
<ul style="list-style-type: none"> 「スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 広島」は事前申込み 88 人、参加者 86 人であった。また、「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」は事前申込み 45 人、参加者 35 人であった。 若者向けに特化した告知を実施せずに開催した8月のシンポジウムでは、参加者のうち 20 代の占める割合は 5.8%であったが、タイトルに「若者」の言葉を使い、市内 12 大学に告知して開催したセミナーでは、20 代の占める割合が 45.7%と約半数を占めた。若者の参画を促す一つの方法としては一定の効果があったと考える。 	シンポジウム、セミナー 延べ参加者数 121 人
<ul style="list-style-type: none"> 「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」参加者のうち 20 代までの参加者の 18%が、ボランティアに登録したいと回答した。 大学などでも募集があること、今後広島で生活するか未定等の理由により、活動意欲の高さに対して登録希望は多くはなかった。 	ボランティア登録意向 18%
1.2 募集:効果的な募集経路の確立	
<ul style="list-style-type: none"> 連携先である広島市スポーツ協会を通じて、スポーツイベントボランティア登録者、広島市スポーツ協会加盟団体、広島市スポーツ協会役員等、中国新聞社、市内大学(12 大学)への直接訪問によるセミナー(1/24)の説明・案内、ウェブサイト掲載を実施した。また、サンフレッチェ広島ホームゲームでのチラシ配布、広島経済大学内での案内を実施した。 	案内配布数 3,500 枚
<ul style="list-style-type: none"> 「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」の情報の入手経路は、「大学関係者からの紹介」「講師からの紹介」(38.5%)が最も多く、次いで「広島市スポーツ協会のウェブサイト又は案内」(23.1%)であった。 広島市内にある 12 大学に告知をし、1/3 の 4 大学から 15 人の参加があったことは一定の成果と評価している。 大学にはボランティアセンターやボランティア担当職員がいることもあり、体育系・スポーツ系の学部以外の大学でも大学への告知が有効であることが分かった。一方で、開催日程が多く大学の試験期間と重なったことから、大学生を対象とする場合には、大学行事の確認が重要である。 主たる活動場所である、サンフレッチェ広島のホームゲームでもチラシを配布したが、チームの応援に来るファンやサポーターには、ホームゲーム会場内でのボランティア活動にはあまり興味関心を示してもらえないことが確認できた。 	市内参加大学数 4 大学/12 大学
2.1 養成:活動につながる研修・セミナーの実施	
<ul style="list-style-type: none"> 「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」の 20 代までの参加者の 85%が満足(満足+やや満足)と回答した 	平均満足度 85%
<ul style="list-style-type: none"> 「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」の 20 代までの参加者の 58%が今後、スポーツボランティアとして活動したいと回答した。 	活動意欲 58%
<ul style="list-style-type: none"> 「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」20 代までの参加者 33%が今後もスポーツボランティア養成講習会に参加したいと回答した。 	研修受講意欲 33%
2.2 養成:ボランティア、ボランティアリーダーの育成	
<ul style="list-style-type: none"> 本トライアル事業の評価・分析対象外。 	—
3.1 組織化:運営・活動基盤の構築	
<ul style="list-style-type: none"> 本トライアル事業の評価・分析対象外。 	—

評価指標	実績
3.2 組織化:関係者の理解	
・「スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 広島」に、トップチームのボランティア担当者、ボランティアの代表者、活動場所のスポーツ施設管理者、スポーツボランティアの専門家等が一堂に会し、フロアの参加者約90人も加わり、今後の広島のスポーツボランティアの可能性について考える機会が提供できた。	県内主要関係者の事業参加
・「スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 広島」や「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」の開催を通じて、一般市民への理解が得られた。	—
3.3 組織化:ボランティアの活動意欲の維持	
・【再掲】「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」の20代までの参加者の58%が今後、スポーツボランティアとして活動したいと回答した。	活動意欲 58%
・「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」のアンケートを通じて、活動ニーズを把握した。20代までの参加者のうち、各チームでの活動を希望する割合は、「サンフレッチェ広島」46%、「広島東洋カープ」38%、「広島ライトニング」31%、「広島ドラゴンフライズ」23%であった。	—
3.4 組織化:関係機関の連携確保	
・バスケットボールのプロリーグ「広島ドラゴンフライズ(NBL)」、「広島ライトニング(bj チャレンジリーグ)」から本事業の参画があった。	新規団体参画 2 団体
・トライアル事業(仙台)の協力団体である、市民スポーツボランティア SV2004との関係を構築した。また、今後、日本スポーツボランティアネットワーク(JSVN)への加入を検討するなど、本事業が関係機関とのネットワーク拡大の契機となった。	—
4.1 活動:活動の活発化	
・広島東洋カープではホームの全60試合で活動、サンフレッチェ広島ではホームの20試合(リーグカップ戦の上位進出で変動あり)を基本として活動し、今後も継続していく。	年間活動回数 92 回
・広島東洋カープでは1試合当たり約27人、サンフレッチェ広島では1試合約48人が活動している。	延べ活動人数 2,504 人
・活動機会の拡大のニーズに対応するため、バスケットボールのプロリーグ「広島ドラゴンフライズ」、「広島ライトニング」からボランティア募集の情報を発信し、スポーツボランティアの新たな活動機会の提供へつなげることができた。	新規ボランティア先の開拓 2 団体
4.2 活動:活動の質の担保	
・【活動目的の達成状況】	—
・イベント主催者であるサンフレッチェ広島、広島東洋カープのボランティア担当者より、広島市スポーツ協会から派遣を受けているスポーツイベントボランティアに対する問題点や課題を聞き、その解決策の一助となる取組を実施できた。	—
5.1 その他:多様な効果の発生	
・スポーツイベントボランティア登録者の数人が、トライアル事業(岡山)で実施した、「スポーツボランティア研修会」「スポーツボランティア・リーダー養成研修会」に参加し、リーダーの認定を受けるなど、自身で学びの場を求めて活動する事例があった。本事業間の相乗効果とも言える。	—

(2) 中高生のスポーツボランティア育成講座の開設支援（仙台市）【基盤構築期→充実・継続期】

仙台市で実施したトライアル事業「中高生のスポーツボランティア育成講座の開設支援」の効果検証結果は以下のとおりである。

図表 3-21 効果検証(仙台市)

評価指標	実績
1.1 募集:ボランティア数の増加	
・ 中高生を対象とした「スポーツボランティア育成講座」を実施し、申込者は 29 人であった。	養成講座参加者数 29 人
・ 「スポーツボランティア育成講座」修了証授与式及び講演に中高生 15 人、一般 33 人が参加した。	養成講座修了証授与式参加者数 48 人
・ 「スポーツボランティア育成講座」修了者のうち 93%が、スポーツボランティアとして活動したいと回答した。	ボランティア活動希望 93%
1.2 募集:効果的な募集経路の確立	
・ 仙台市教育局総務企画部健康教育課から、ボランティア活動を行う会場に近いエリアの比較的規模の大きい中学校(5 校)の地域連携担当の教員(各 100 部)、バスケットボール部とサッカー部(各 50 部)、仙台市内の市立高校(200 部)にチラシを配布した。また、市の担当者から対象校の教頭・部活顧問への電話説明も併せて実施した。	案内配布数 1,200 枚
・ 「スポーツボランティア育成講座」参加者の情報の入手経路は、「部活動で案内を配布された」(33.3%)、「学校で案内を配布された」22%、「チラシを見て」22%、「友人・知人からの紹介で」17%であった。 ・ 仙台市教育局の協力を得たことにより、学校に対して効果的な広報を展開でき、結果、中学校 5 校、高等学校 3 校から 29 人が参加した。	市内参加学校数 8 校
2.1 養成:活動につながる研修・セミナーの実施	
・ 講習会への参加動機は、「ボランティア活動に興味がある」72%と最も高く、次いで「友人・知人に誘われたから」38%、「東京オリンピックでの活動に興味がある」33%であった ・ 「実活動体験」について、「やや簡単」40%、「どちらでもない」27%、「やや難しい」33%であった。「やや難しい」と回答したのは全員が中学 1、2 年生であった。	—
・ 「実活動体験」について参加者の 93%が満足(満足+やや満足)と回答した。また、「スポーツボランティア育成講座」については 100%が満足と回答した。	平均満足度 100%
・ 【再掲】「スポーツボランティア育成講座」修了者のうち 93%が、スポーツボランティアとして活動したいと回答した。	活動意欲 93%
2.2 養成:ボランティア、ボランティアリーダーの育成	
・ 「スポーツボランティア育成講座」参加者 29 人のうち、22 人が修了した。	養成講座修了者数 22 人
・ 来年度から「スポーツボランティア育成講座ステーション」において、実活動体験後に提出されたレポートに対して、意見等を返す仕組みを設ける予定である。	—
3.1 組織化:運営・活動基盤の構築	
・ 市民スポーツボランティア SV2004 とグランディ・21 ボランティア内に「スポーツボランティア育成講座」実施ステーションを設置し、ステーションには両団体から担当者を出し、講座の実際的な計画と運営を行う予定であったが、今回は設置できなかった。	—
・ 次年度以降は、4 月にスポーツボランティア育成講座の参加者募集を開始し、通年での育成を行う。また、スポーツコミッションせんだい内に「スポーツボランティア育成講座」実施ステーションを設置し、講座の運営を行う予定である。	—

評価指標	実績
3.2 組織化:関係者の理解	
・ 宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、仙台のトップスポーツチームのスポーツボランティア組織・団体、ボランティアの NPO との協力により、トライアル事業を実施した。	県内主要関係者の事業参加
3.3 組織化:ボランティアの活動意欲の維持	
・ 実活動体験の受入れ協力団体から、事業終了後も、参加中高生のボランティア活動への受入れ希望があった。 ・ 「スポーツボランティア育成講座」修了者のうち 93%が、今後もボランティア活動をしたいと回答した。	活動意欲 93%
・ 修了式参加者のうち、各チームでの活動を希望する割合は、「仙台 89ERS」71%、ペガルタ仙台 47%、東北楽天ゴールデンイーグルス 43%、グランディ・21 ボランティア 43%、仙台ベルフィーユ 7%であった。	—
3.4 組織化:関係機関の連携確保	
・ 宮城県教育委員会に加えて、仙台市教育委員会の理解、協力が得られ、今後、仙台市内で有機的な連携の構築が期待できる。	—
・ 本事業の実施において、仙台のトップスポーツチームのスポーツボランティア組織・団体、ボランティアの NPO からの理解、協力が得られ、今後、仙台市内で有機的な連携の構築が期待できる。	—
・ スポーツコミッションせんだい(2014 年 12 月設立)との協力関係が築けた。	—
4.1 活動:活動の活発化	
・ 育成講座における活動機会は 4 団体 22 回用意され、うち 17 回に中高生が参加した。	育成講座における活動機会 22 回
・ 育成講座における中高生によるスポーツボランティア活動は、延べ 62 人であった。	育成講座における延べ活動人数 62 人
・ 協力団体からは、中高生がボランティア活動に加わることで、既存の登録ボランティアが、刺激を受けて生き生きと活動しており、既存のベテランのボランティアにとっても、有意義な事業であったとの意見があった。	—
4.2 活動:活動の質の担保	
・ 【活動目的の達成状況】	—
・ 【活動内容のフィードバック機会の設定】	—
5.1 その他:多様な効果の発生	
・ 広島市スポーツ協会(広島県広島市)、広島経済大学松本耕二研究室、市民スポーツボランティア SV2004 の三者によるネットワークが構築でき、今後、定期的な情報交換や連携した事業の実施を検討している。	—

3. 4 トライアル事業のまとめと今後の展開

(1) トライアル事業のまとめ

本トライアル事業は、地域におけるスポーツボランティア組織等を活性化する具体的な方策を検討、提案することを目的とし、試行的な事業の実施を通して、課題及び改善方策の仮説検証を行うことであった。スポーツボランティア組織の課題は、組織のライフサイクルによって異なることが想定されることから、スポーツボランティアのライフサイクルが異なる3つの組織・団体を選定し事業を実施した。

① トライアル事業の効果

本トライアル事業を通して得られた成果を、以下にまとめて報告する。

○若年層ボランティアの発掘・育成方策の提示

既存のスポーツボランティア組織・団体が抱える課題である「新たなボランティアの参画」「ボランティアの高齢化・固定化」に対して、中学生、高校生、大学生を対象にボランティアの発掘・育成を目的とした事業を実施した。大学生にはスポーツボランティアの概論、活動に必要なコミュニケーションスキル、実際の活動現場の報告や募集情報等を講義し、中高生には講習とボランティア体験活動を組み合わせたプログラムを実施した。どちらも今後のスポーツボランティアの活動意欲を高めるには有効であることが確認できた。また、中高生プログラムでは、中学1年から高校3年生まで、ボランティア活動や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会での活動に興味を持って参加することが確認できた。さらに、プログラム終了後、活動の継続を希望する者が多数いたことから、本事業での取組は若年層ボランティアの発掘・育成に、一定の成果が得られた。

○既存ボランティアの活動意欲の向上

リーダー的な存在である既存のボランティアが、セミナーやシンポジウムなどの学びや交流の機会を得ることによって、より発展的な活動への意欲を見せた。さらに、他のトライアル事業のリーダー養成研修を受講し、リーダー認定を受けるなど、自身で学びの場を求めて活動する事例などがあり、本トライアル事業間の相乗効果も見られた。また、特に中学生や高校生と接することで、既存のボランティアが活気付く好影響が見られたことも成果であった。

○スポーツボランティアに関わる既存のステークホルダーとの関係構築

イベント主催者、ボランティア個人、ボランティア組織・団体が一堂に会する機会を設けたことにより、それぞれの立場からの意見を交換し、関係を構築するきっかけとなった。また、既存のスポーツボランティア組織・団体の、今後の事業の発展的な展開・活動の足掛かりとなったことも成果であった。

○新たな外部組織との連携・協力の体制強化

スポーツボランティアを地域で普及・振興していく際の外部組織として、地域のスポーツ関係団体(体育協会、競技団体、スポーツ少年団、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等)、スポーツ行政、教育機関(中学・高校・大学)、トップスポーツチーム、マスコミ等との新たな連携が築けた。また、本事業を実施することにより、地域の障害者スポーツや教育機関の中でスポーツボランティアに取り組んでいた組織・団体の存在が明らかとなり、新たなスポーツボランティアのネットワークが構築できたことも成果であった。また、各トライアル事業においては、マスコミの取材・告知協力も得られ、広く一般にスポーツボランティアに関する情報発信ができたことも成果であった。

② 課題と解決方策

○若年層へのアプローチ先及び方法の検討

中学校・高等学校へは、教育委員会の協力を得て各学校の地域連携の担当教員及び運動部活動の顧問を通じて案内した。大学へは、主催者が直接訪問し、ボランティアセンターやボランティアサークルを通じての告知を依頼した。これらのアプローチ先及び方法は一定の成果が見られた。

一方でトップチームの試合会場に集まる応援者にも多くのチラシを配布したが、チームの応援とチームの試合運営を支えるボランティア活動は目的が異なることから、学校や大学以上の成果は見られなかった。教育機関を経ない一般の若年層へのアプローチの方法としては、今後、Facebook や Twitter、LINE などの SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の活用も試みるべきと考える。

○若年層のライフスタイルに合わせた説明会等の開催

大学生を対象としたセミナーでは、開催日程が幾つかの大学の試験期間と重なってしまい、多くの参加が得られなかった。また、中高生を対象としたプログラムでは、部活動の練習時間との関係で、1日に複数の時間帯で説明会を実施することになった。若年層向けに事業を進める際には、大学や学校の行事(テスト期間や学園祭など)、部活動の予定(大会期間など)を考慮し、同じ内容で複数回実施し、参加機会の選択肢を増やす対応が必要であることが分かった。

○地域のコーディネーター役となる人材や組織の発掘・育成

活動経験が豊富なボランティアは、やりがいと充実感のある活動でないと満足度が低くなり、該当イベントでの活動は継続しなくなる。活動経験が少ないボランティアにとっては、ボランティア活動から離れてしまう可能性がある。地域のスポーツボランティアを活性化するためには、今後、ボランティアを必要とする者(イベント主催者など)の意向と、ボランティアをマッチングさせる調整役となる人材や組織の存在が重要となってくる。地域におけるコーディネーター的な人材や組織の発掘・育成が求められる。

○スポーツボランティアの正しい理解・認識の発信

スポーツボランティアに多くの組織・団体、個人が関わってもらうためには、スポーツボランティアに対する正しい理解と認識を広める必要がある。併せてスポーツボランティアの楽しさややりがいなどの魅力も伝えることが、新たなスポーツボランティアの参加者を増やすことにもつながる。具体的には、スポーツボランティアについて学べる機会や実際に体験できる機会を提供し、スポーツボランティアの魅力を感じてもらうことである。スポーツボランティアを可視化できる事例集やガイドブックなどの作成・提供も重要である。

(2) トライアル事業の今後の展開

① スポーツボランティアの育成及び組織の創設支援(岡山県)【立ち上げ期→基盤構築期】

岡山県体育協会においては、当初からスポーツボランティアの組織化をする予定はなく、本事業をきっかけに、県内各地域・活動スポーツ現場で、スポーツボランティアを育成し、活用するきっかけにしたいと考えていた。今後も、スポーツボランティアに関する情報を継続して提供し、県内のスポーツ関連組織・団体におけるスポーツボランティア育成の取組を支援していく予定である。

また、岡山県では 2015 年 11 月 8 日に第1回おかやまマラソンの開催が予定されている。中四国地方最大級のマラソン大会で、14,500 人のフルマラソンと 500 人の 4.5 キロが開催される。ボランティアの募集人数は 4,000 人を予定しており、岡山県民にとっては、身近なところでの大規模スポーツイベントでのボランティアの活動機会となる。本事業の参加者や育成されたボランティア、認定されたボランティアリーダー

が、おokayamaマラソンのボランティアとして活動することが期待できる。岡山県体育協会とおokayamaマラソン実行委員会事務局は、今後も連携してボランティア募集・養成に取り組む予定である。

② スポーツイベントボランティアの活動活性化支援（広島市）【基盤構築期→変容・発展期】

広島市スポーツ協会は、登録ボランティアに対しての研修事業を、来年度以降も今年度と同様に年1回実施する予定である。また、本事業をきっかけに、仙台市のスポーツボランティア組織や日本スポーツボランティアネットワークとの関係を築くことができ、「スポーツ・サポート・センター」機能の拡充に向けた検討を行う予定である。

また、広島市スポーツ協会は、2015年4月からNPO法人日本スポーツボランティアネットワークの正会員として加盟する予定であり、同ネットワークに加盟することによって、多くのスポーツボランティア募集情報を、登録ボランティアに発信することが可能となることから、多様なボランティア活動を希望する登録者への、新たな活動機会の提供を考えている。さらに、広島市内にバスケットボールのトップチームが新たに2チームでき、それぞれがスポーツボランティアを必要としていることから、これまでの野球とサッカーに加えて、新たなスポーツ環境での活動機会の増加が期待できる。

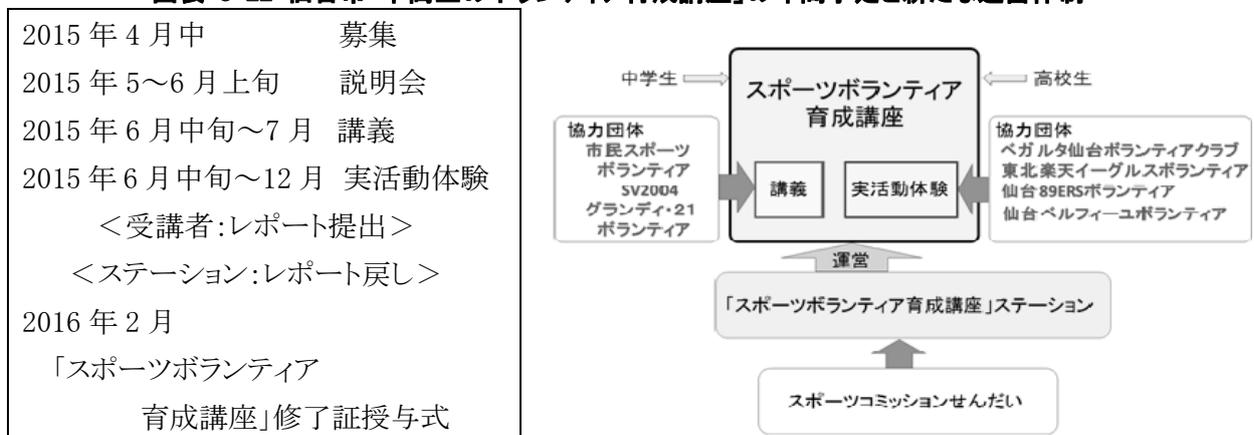
③ 中高生のスポーツボランティア育成講座の開設（仙台市）【基盤構築期→充実・継続期】

仙台市の市民スポーツボランティア SV2004 とグランディ・21 ボランティアでは、仙台市内にある複数のスポーツボランティア組織・団体が抱えるボランティアの高齢化と、宮城スタジアムは2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の会場となる可能性があることから、中高生のボランティアの発掘・育成を事業の核とした。中高生を対象とすることから、関連の行政機関からの協力も、この事業を通じて初めて得られ、今後につながる関係性が構築できた。

来年度以降は、仙台市内で中高生がスポーツボランティア活動に継続して参加できる仕組みを構築していきたいと考えている。具体的には「スポーツコミッションせんだい※」が主体となって継続実施ができるように現在調整中である。新たな運営体制としては、スポーツコミッションせんだい内に「スポーツボランティア育成講座」実施ステーションを設置し、講座の実際的な計画と運営を行う。年間予算は約20万円で、年間予定と新たな運営体制は以下のとおりである。

※スポーツコミッションせんだいは、スポーツを生かした街づくりや地域活性化を目的として2014年12月に設立。仙台市や民間組織（競技団体やプロスポーツ球団、ボランティア組織、報道機関、大学など）約50団体が参加する。事務局は、仙台市スポーツ振興事業団と仙台市が務める。

図表 3-22 仙台市「中高生のボランティア育成講座」の年間予定と新たな運営体制



V. まとめと考察

まとめと考察

1. まとめ

本事業では、「スポーツにおけるボランティア活動を担う組織・団体の活性化のための実践研究」として、スポーツボランティア組織・団体の実態調査、事例調査及び団体のトライアル事業を実施した。以下に主な結果をまとめた。

(1) スポーツボランティア活動に関する組織・団体の実態調査

地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体(85団体)のうち、質問紙調査で回答が得られた65団体(80.2%)の結果と、トップスポーツチーム(11競技、21リーグ、303チーム)のうち、質問紙調査で回答が得られた115チーム(38.0%)の結果から、以下の点が明らかとなった。

- ・地域で活動するスポーツボランティア組織・団体の6割がスポーツイベントをきっかけに設立。
- ・回答が得られたトップスポーツチームの6割でボランティアが活動。
- ・ボランティアの年代は、地域で活動するスポーツボランティア組織・団体では60代、トップスポーツチームが活用するボランティア組織・団体では20～40代が活動の中心。
- ・効果的な登録者の募集方法は、地域で活動するスポーツボランティア組織・団体では「登録者の口コミ」、トップスポーツチームが活用するボランティア組織・団体では「ウェブサイト」
- ・地域で活動するスポーツボランティア組織・団体も、トップスポーツチームが活用するボランティア組織・団体も活動上の課題は、「新しい登録者が集まらない」「運営の中心となる登録者が不足している」であった。

(2) スポーツボランティア活動に関する組織・団体の事例調査

地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体(5団体)、ボランティアを活用しているトップスポーツチーム(4団体)のヒアリング調査の結果をまとめた。

<地域で活動する組織・団体>

①日産スタジアム運営ボランティア

- ・スタジアム専属のボランティア組織として1999年に設立。
- ・ボランティアが自発的・積極的に活動できるよう六つの部会を作り活動。
- ・課題は、ボランティアの高齢化及び世代交代、登録者数の増員、ボランティアリーダーの育成、ボランティア精神の原点回帰(自主性の見直し)。

②NPO法人成田空港ボランティア・スカイレッツ

- ・長野オリンピック・パラリンピック時に、成田空港で案内や送迎を担当したボランティアが1998年に組織化。
- ・空港見学会などの現場研修や英会話などのスキルアップ研修も実施。
- ・課題は、活動資金と事務局スペースの確保。

③北九州市障害者スポーツボランティアの会 SKET(スケット)

- ・1992年に結成した障害者スポーツ指導組織を、大規模イベント開催を機に再編。
- ・障害者スポーツセンターと連携したボランティアの養成・確保。
- ・課題は、専任の事務局スタッフの配置。

④山口県スポーツボランティア

- ・2011年の「おいでませ！山口国体」に向け、募集・養成したボランティアを組織化。
- ・ボランティアの窓口は各市町に委ね、県が活動内容や登録者数を集約。
- ・課題は、ボランティアを活用する側(イベント主催者)の研修の必要性。

⑤埼玉県スポーツボランティア

- ・2004年「彩の国まごころ国体」に参加したボランティアを組織化。
- ・イベント主催者とボランティアのマッチングを実施。
- ・課題は、ボランティア登録者への研修と、イベント主催者に対するボランティア運営研修の必要性。

<トップスポーツチームのボランティア組織・団体>

⑥川崎フロンターレボランティア

- ・1997年にボランティア組織を設立し、ホームゲームと地域イベントで年間延べ150日以上活動。
- ・ボランティアの運営に「チューター制度」「リーダー制度」を設ける。
- ・課題は、ボランティア参加者数の確保(特に平日開催の試合)と一部の活動でのメンバーの固定化。

⑦仙台89ERSボランティア

- ・仙台市内のスポーツボランティア団体と連携してボランティア組織を2005年に設立。
- ・チームとボランティアの一体感を積極的に醸成。
- ・課題は、研修の種類や機会の充実、ボランティアの満足度向上のための活動の多様化。

⑧山雅後援会TEAM VAMOS(チームバモス)

- ・2005年にサポーターの有志がボランティア組織を設立。2011年に山雅後援会が設立し、その下部組織として位置付けられる。
- ・ホームゲームで1試合100人以上のボランティアが活動。
- ・障害者のボランティア活動への参加機会を提供。
- ・課題は、ボランティア参加者数の安定化(土曜日の試合、夏休み期間中は不足)、専従スタッフの確保(ボランティア募集を強化できる)。

⑨北海道日本ハムファイターズボランティア

- ・2004年の北海道への移転後、地域密着を目指して、2007年にボランティア組織を設立。
- ・年間50日以上ホームゲームでボランティアが活動。
- ・課題は、平日のホームゲームのボランティア参加者数の確保(会社勤めの登録者3割)。

(3) トライアル事業報告

スポーツボランティア組織のライフサイクルを考慮し、「立ち上げ期→基盤構築期」の岡山県、「基盤構築期→変容・発展期」の広島市、「基盤構築期→充実・継続期」の仙台市の、それぞれ事業連携先とトライアル事業を実施し、効果検証を行った。

①スポーツボランティアの育成及び組織の創設支援(岡山県)

- ・連携事業先:公益財団法人岡山県体育協会
- ・協力団体:NPO 法人日本スポーツボランティアネットワーク
- ・実施内容:スポーツボランティア研修会、スポーツボランティア・リーダー養成研修会、シンポジウムの開催
- ・効果:スポーツボランティア 42 人、スポーツボランティア・リーダー23 人を育成することができた。県内の1市でスポーツボランティアに関する取組が行われた。

②スポーツイベントボランティアの活動活性化支援(広島市)

- ・連携事業先:公益財団法人広島市スポーツ協会
- ・協力団体:広島経済大学松本耕二研究室
- ・実施内容:広島市スポーツ協会、広島東洋カープ、サンフレッチェ広島のボランティア担当者へのヒアリング調査。一般向けのシンポジウム、若者をターゲットとしたセミナーの開催。スポーツイベントボランティア登録者の活動に関するアンケート調査の実施。
- ・効果:協会、依頼団体、ボランティアの三者が一堂に会した意見交換ができた。中心となる登録ボランティアの活動意欲が向上した。協会の事業を発展的に展開・活動するための足掛かりとなった。新たなボランティアの活動の場の開発につながった。

③中高生のスポーツボランティア育成講座の開設(仙台市)

- ・連携事業先:市民スポーツボランティア SV2004、グランディ・21 ボランティア
- ・実施内容:中高生の募集、育成講座説明会、スポーツボランティア講義(2回)、スポーツボランティア実活動体験(一人3回以上)、レポートの提出、スポーツボランティア育成講座「修了証授与式」。
- ・効果:中学1年~高校3年の29人が参加、うち22人が修了生となった。本プログラムが中高生スポーツボランティアの発掘・育成に有効であることが確認できた。

2. 考察

文部省(現、文部科学省)では、1997～1999年度の3年間に「スポーツにおけるボランティア活動の実態等に関する調査研究協力者会議」を設置し、スポーツボランティアに関する実態を多様な視点から調査し、結果を報告書としてまとめた。

それ以降、文部科学省ではスポーツボランティアに関する調査は実施しておらず、本事業が世紀をまたぎ、15年ぶりの調査研究となる。

以下は、2000年にまとめた報告書に記されている「おわりに」の文章である。

21世紀の国民生活を予測するとき、生活の豊かさを求める活動のひとつとしてスポーツは、いよいよ国民の間に浸透するものと思われる。

こうした中で、スポーツにおけるボランティア活動が一層活性化されることにより、国民の生きがいや生活の質の向上につながるだけでなく、我が国のスポーツの豊かな発展と振興をもたらすことになる。

したがって、スポーツボランティアに対する理解と活動への参画の重要性が、広く国民に認識されることとなるよう、関係者が今後、努力を続けていくことが望まれる。

スポーツボランティアに対する理解と活動への参画の重要性が、現在、国民にどこまで認識されているのかを改めて考えると、今回の調査研究事業の結果から、これまで以上に継続的な努力が必要であると考える。

そこで、15年前の思いを受け継ぎ、スポーツにおけるボランティア活動を担う「組織・団体」へ向けた、スポーツボランティア活動活性化のための考察を行う。

(1) スポーツボランティアの正しい理解と浸透

スポーツボランティアの活動を活性化するためには、今後、多くの組織・団体・機関(競技団体を含むスポーツ関係団体や行政、教育機関、マスコミ等)が主体的に関わることが重要であるが、そのためには、スポーツボランティアに対する正しい理解と認識を広める必要がある。

既に連携・協力体制にある関係機関はもとより、新たな関係を構築する必要のある組織・団体に対して、スポーツボランティアに関する情報を共有し、それらのことを学ぶ機会を提供することが重要である。

また、ボランティアを募集する立場のイベント主催者も、スポーツボランティアがイベントや大会にとってどのような存在であるか、主催者としてどう対応するべきか、また適切なボランティアの募集や運営のノウハウなどについて学ぶことが必要である。

(2) 若年層(特に中高生)のスポーツボランティアの育成支援

スポーツボランティア組織・団体の多くが抱える課題である「メンバーの高齢化、固定化」の解決策の一つとして、中学・高校生を対象としたスポーツボランティアの発掘・育成講座を仙台市で実施した事例がある。講座の募集から修了式までが6か月間という限られた時間の中で、予想以上の成果を得ることができた。講座に参加した中学1年生から高校3年生の参加動機は「ボランティア活動に興味がある」7割、「東京オリンピック・パラリンピックでの活動に興味がある」3割であり、スポーツボランティア活動に興味・関心がある中高生の存在を改めて確認することができた。また、講座を修了した中高生の多くは活動の継続を希望しており、中には既にボランティア活動を行っている修了生がいるとのことである。

なお、今回の取組では、仙台市内で約 10 年前から活動するスポーツボランティア組織である市民スポーツボランティア SV2004 とグランディ・21 ボランティアの運営ノウハウの蓄積と、体験活動の場となるトップスポーツチームとの関係が構築されていたことが成果を得られた大きな要因であった。

そのため、他の地域において同様の方法で実施することは難しいかもしれないが、地域のスポーツイベントとスポーツボランティアに関する資源を有機的に連携させ、地域の若年層向けスポーツボランティア育成講座を実施することは可能である。

(3) ボランティア組織・団体のネットワークの構築

本事業では、地域で活動する組織・団体のほかに、トップスポーツチーム(11 競技、21 リーグ)の 303 チームに対して悉皆(しっかい)調査を試みた。

その結果、115 チームから回答が得られ、うち 67 チームでスポーツボランティアが活動している実態が明らかになった。また、地域で活動するスポーツボランティア組織・団体 65 団体、スポーツボランティアが活動するトップスポーツチーム 115 団体の、計 180 団体におけるスポーツボランティアの活動状況などを把握した。各組織・団体が抱える課題は類似しており、事例調査で報告した 9 団体の状況を見ても、課題に対応した様々なボランティア運営の工夫が行われている。

特に、今回明らかになったスポーツボランティア組織・団体のネットワークを築き、ボランティア運営のノウハウや課題解決策を共有することは極めて重要なことであり、今後、更なる広範囲なネットワークの構築が期待される。

(4) 地域のコーディネーター役となる組織・団体の発掘・育成

先に、ボランティア組織・団体のネットワークの重要性を述べたが、ネットワークを構築し、有機的なつながりにするためには、コーディネーター役となる組織・団体の存在が重要となる。

例えば、仙台市では、市民スポーツボランティア SV2004 やグランディ・21 ボランティアの代表者がコーディネーターとなり、仙台市内のボランティア組織の立ち上げのサポートをしたり、仙台の三つのプロスポーツの支援組織である「仙台プロスポーツネット」の運営に関わるなど、仙台市におけるスポーツボランティア活動の活性化の大きな要因となっている。このようにスポーツボランティア活動を活性化するためには、各地域におけるコーディネーター的な人材や組織・団体の発掘・育成が必要である。

なお、全国規模では現在、NPO 法人日本スポーツボランティアネットワーク(東京都港区)が、その機能を果たすべく 2012 年から活動をしている。現在は 14 団体間(さっぽろ健康スポーツ財団、スペシャルオリンピック日本、富山スポーツボランティア育成会、川崎フロンターレ、スポーツボランティア東京、日本スポーツボランティア・アソシエーション、湘南スポーツコミュニティセンター等)でのネットワークが構築されており、この法人の今後の活動にも大いに期待するところである。

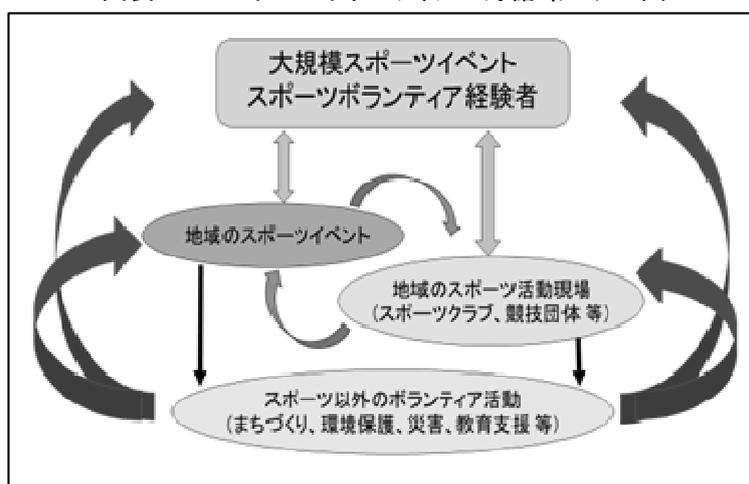
(5) スポーツボランティアの好循環の推進

図表 4-1 にスポーツボランティアの好循環モデルの図を示した。今後、スポーツにおけるボランティア活動の活性化のためには、大規模スポーツイベントや地域のスポーツイベントをきっかけに、スポーツボランティアに参画した人々が、地域の日常的なスポーツ現場のボランティアにも活動の場を広げていき、より多くの人が地域のスポーツ活動を支える、「スポーツボランティアの好循環」を推進していく必要がある。

その循環を促すためには、「地域のスポーツイベント」のボランティア活動の活性化が最も重要となる。イベントでのボランティア運営の質を高め、ボランティアの活動の満足度や達成感が高まれば、自発的に活動を継続するボランティアが増えることにつながるからである。

今後、スポーツにおけるボランティア活動の活性化に向けて、大規模スポーツイベントと地域のスポーツイベント、地域の日常的なスポーツ活動現場でのボランティアの好循環を推進し、将来的にはスポーツ以外の街づくりや災害などのボランティア等、活動の広がりが期待される。

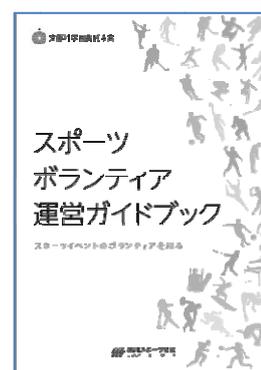
図表 4-1 スポーツボランティアの好循環モデル図



3. おわりに

スポーツボランティア活動の普及促進に関しては、2012年に文部科学省が策定した「スポーツ基本計画」に示されているように、国や地方自治体、スポーツ団体が今後取り組むべき事項を検討し、実行に移していくことが求められている。

そのための施策立案の一助として、本報告書及び併せてまとめた「スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究(スポーツにおけるボランティア活動を実施する個人に関する調査研究)報告書」、並びに両報告書の結果を踏まえて、イベントボランティアの運営者向けに作成した「スポーツボランティア運営ガイドブック」が、今後広く活用されることを期待する。



「スポーツボランティア・運営ガイドブック」2015

VI. 参考文献・付録

参考文献

- (公財) 笹川スポーツ財団(2013). スポーツ振興に関する全自治体調査 2013.
- (公財) 笹川スポーツ財団(2013). 青少年のスポーツライフ・データ 2013-10 代のスポーツライフに関する調査報告書.
- (公財) 笹川スポーツ財団(2014). スポーツ白書 2014.
- (公財) 笹川スポーツ財団(2014). スポーツライフ・データ 2014.
- 笹川スポーツ財団・山口泰雄(2012)「スポーツボランティア団体の活動に関する調査」
- スポーツにおけるボランティア活動の実態等に関する調査研究協力者会議(2000). スポーツにおけるボランティア活動の実態等に関する調査研究報告書.
- 日本スポーツボランティア学会(2008). スポーツボランティア・ハンドブック. 明和出版.
- (特非) 日本スポーツボランティアネットワーク(2014)「スポーツボランティア研修会テキスト」
- 日本トップリーグ連携機構 ウェブサイト <http://japantopleague.jp/>
- 文部科学省(2012). スポーツ基本計画.
- 山口泰雄(2004). スポーツ・ボランティアへの招待—新しいスポーツ文化の可能性. 世界思想社.

スポーツボランティア活動に関する組織・団体の実態調査

本調査は、文部科学省「スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究」の一部であり、地域でのスポーツにおけるボランティア活動の受け皿となっているスポーツボランティア組織等について、活動の実態を調査及び整理することを目的としています。調査結果は、文部科学省のホームページ等を通じて公開されるとともに、文部科学省によるスポーツボランティア施策の充実のための基礎資料として活用されます。調査の結果は統計処理され、回答者や組織・団体名が公表されることはありません。お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2014年8月 公益財団法人 笹川スポーツ財団

【回答方法】 郵送でご回答ください。

回答先住所：〒116-8581 東京都荒川区西日暮里 2-40-10

調査票の発送・回答・データ入力については、(公財)笹川スポーツ財団の委託先である㈱サーベイリサーチセンターが担当しております。調査について不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

㈱サーベイリサーチセンター 調査事務局

〒116-8581 東京都荒川区西日暮里 2-40-10

TEL：0120-974-658（平日 9:00～17:00）

ご回答期限

2014年9月23日（火）

ご回答者の所属先等記入欄（回答の内容についてお伺いする場合がありますため、必ずお書きください）

所属先正式名称 (法人格含む)			
氏名 (役職含む)	(役職：)		
所在地住所	〒		
TEL		E-mail	

問1 スポーツボランティア組織・団体の名称をお書きください。

また、上記の所属先正式名称と同じ場合は、「同上」とお書きください。

【以降、問1でご回答したスポーツボランティア組織・団体についておうかがいします】

問2 貴組織・団体の設立の経緯を簡潔にお書きください。

(例) ○○○○年国体のボランティアを組織化。地域スポーツクラブの運営スタッフの人材確保。

問3 貴組織・団体における現在の運営主体をお書きください（〇はひとつ）。

- | | | |
|-----------|---------------------|---------|
| 1. 自治体 | 2. スポーツ振興公社・事業団・財団等 | 3. 体育協会 |
| 4. 自主運営組織 | 5. その他（具体的に： | ） |

問4 スポーツボランティアに関連する活動を開始した年をお書きください。

西暦（ ）年から

問5 スポーツボランティアの登録者数をお書きください。

合計（ ）人 ⇒ 西暦（ ）年（ ）月 現在

問6 スポーツボランティア登録者の、おおよその男女の割合をお書きください。

男性：女性 = （ ）%：（ ）%

問7 スポーツボランティア登録者の年代について、あてはまる年代の番号すべてに〇をつけてください。また、最も多い年代には◎をつけてください（◎はひとつ）。

- | | | | |
|--------|--------|----------|--------|
| 1. 10代 | 2. 20代 | 3. 30代 | 4. 40代 |
| 5. 50代 | 6. 60代 | 7. 70代以上 | |

問8 スポーツボランティア登録者の初期登録料や年会費はどれくらいですか。集めていない場合は、「（ 〇 ）円」とお書きください。

なお、年齢などの条件で金額が異なる場合は、備考欄にお書きください。

初期登録料（ ）円 年会費（ ）円
備考（ ）

問9 スポーツボランティア登録者に対する講習（ボランティア養成講習会、リスクマネジメント研修会等）を実施していますか（〇はひとつ）。

実施している場合は2013年度中の実施回数もお書きください。

- | | |
|----------------------|----------|
| 1. している ⇒ 2013年度（ ）回 | 2. していない |
|----------------------|----------|

問10 2013年度、実際にスポーツボランティア活動を行った合計日数をお書きください。

合計（ ）日

問11 貴組織・団体において、ボランティア登録者の活動に伴うインセンティブ(物品や行事の特典)はありますか(○はいくつでも)。

インセンティブがない場合は「10. 特になし」に○をつけてください。

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. ボランティアユニフォーム・キャップ(支給) | |
| 2. ボランティアユニフォーム・キャップ(貸与) | |
| 3. スポーツ観戦機会(チケット提供含む) | 4. 弁当・食事 |
| 5. アスリートとの懇親会 | 6. 慰労会 |
| 7. 現金(交通費、食事代等の実費程度) | 8. 金券(商品券、クオカード等) |
| 9. その他(具体的に: _____) | 10. 特になし |

問12 スポーツボランティアの派遣先において、貴組織・団体のボランティア登録者への活動に伴うインセンティブ(物品や行事の特典)はありますか(○はいくつでも)。

派遣先がない場合は「12. 派遣先はない」に○をつけてください。

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. ボランティアユニフォーム・キャップ(支給) | |
| 2. ボランティアユニフォーム・キャップ(貸与) | |
| 3. スポーツ観戦機会(チケット提供含む) | 4. 弁当・食事 |
| 5. アスリートとの懇親会 | 6. 慰労会 |
| 7. 現金(交通費、食事代等の実費程度) | 8. 金券(商品券、クオカード等) |
| 9. その他(具体的に: _____) | 10. 特になし |
| 11. わからない | 12. 派遣先はない |

問13 貴組織・団体では、現在、スポーツボランティア活動を行ううえでの課題はありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。また、最も課題となっているものには◎をつけてください(◎はひとつ)。課題がない場合は「12. 特になし」に○をつけてください。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 新しい登録者が集まらない | 2. 運営の中心となる登録者が不足している |
| 3. 登録者の事務局スペースがない | 4. 活動資金が不足している |
| 5. 提供する活動数・イベント数が十分でない | 6. 登録者の経験やスキルが乏しい |
| 7. 提供する研修機会の数が十分でない | 8. 組織・団体の認知度が十分でない |
| 9. 登録者の活動意欲が乏しい | 10. 登録者との連絡が困難である |
| 11. その他(具体的に: _____) | |
| 12. 特になし | |

問14 貴組織・団体では、現在、スポーツボランティアをどのように募集していますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。また、最も効果的なものには◎をつけてください（◎はひとつ）。募集をしていない場合は「9. 特に募集はしていない」に○をつけてください。

- | | |
|--|------------------|
| 1. チームやボランティア組織・団体のFacebookやLINEなどのSNS | 3. 主催事業のポスター・チラシ |
| 2. チームやボランティア組織・団体のウェブサイト | 5. 自治体の広報誌 |
| 4. メーリングリストやメールニュース | 7. 他組織との連絡網 |
| 6. チームやボランティア組織・団体の機関誌 | 9. 特に募集はしていない |
| 8. ボランティア登録者のクチコミ | |
| 10. その他（具体的に： _____） | |

問15 スポーツボランティアの活動内容（派遣先や紹介先の活動も含みます）について、下記のうち実施しているものはありますか。【□】内の（記入例）を参考に、それぞれの活動内容についてお答えください（それぞれ○はひとつ）。他に実施している活動がある場合は、「j. その他」に具体的にお書きください。

（記入例）

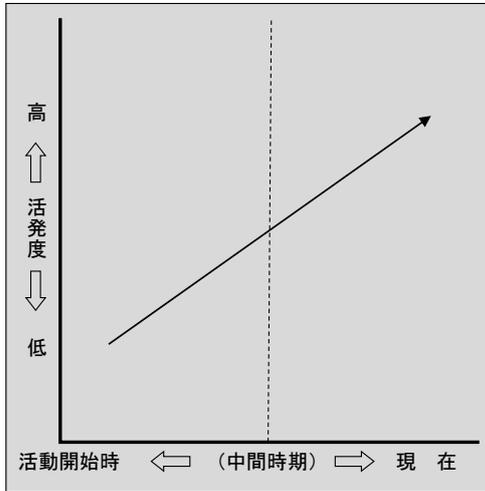
・「a. スポーツイベント・大会での運営や世話」を実施している場合

活動内容	あり	なし
a. スポーツイベント・大会での運営や世話	◎ 1	2

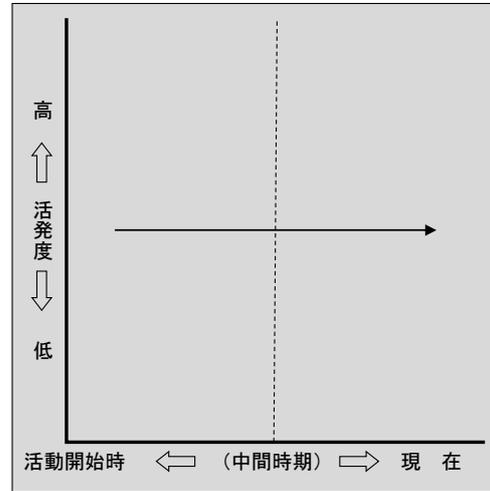
活動内容	あり	なし
a. スポーツイベント・大会での運営や世話	1	2
b. スポーツイベント・大会でのスポーツの審判	1	2
c. スポーツイベント・大会でのスポーツの指導	1	2
d. スポーツイベント・大会での障がい者に対するサポート	1	2
e. 団体・クラブ等での運営や世話	1	2
f. 団体・クラブ等でのスポーツの審判	1	2
g. 団体・クラブ等でのスポーツの指導	1	2
h. 団体・クラブ等での障がい者に対するサポート	1	2
i. スポーツ施設の管理の手伝い	1	2
j. その他（具体的に）： _____		

問16 貴組織・団体における、スポーツボランティアに関する事業の活動開始時から現在に至るまでの「活動の活発度」について、下記のうち最も近いものを1つ選んで、番号に○をつけてください。該当する図がない場合は、(記入例)を参考にし、図5に手書きで記してください。なお、「活動の活発度」については、活動回数や登録者数、団体の運営状態等、総合的に判断してお答えください。

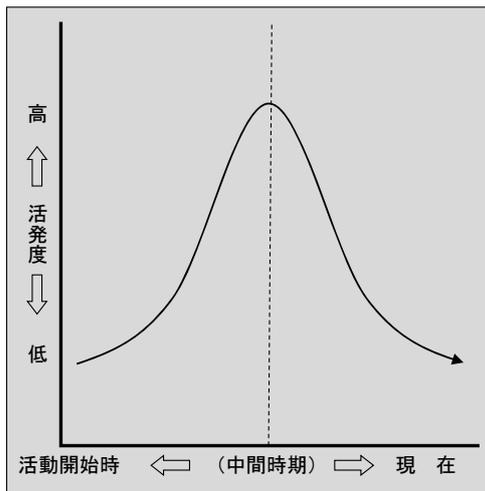
1.



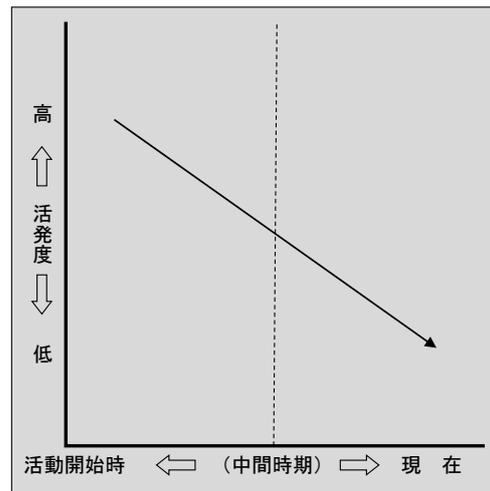
2.



3.



4.



5. その他 ⇒ (記入例)を参考に図5にお書きください。

(記入例)

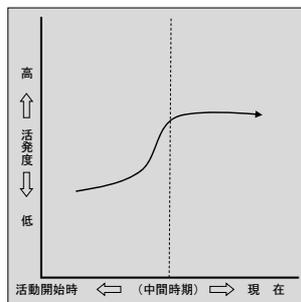
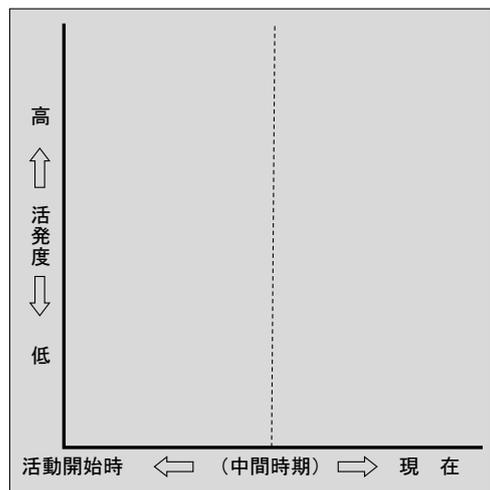


図5.



～以上でアンケートは終了です。ありがとうございました。～

問2 今後、貴チームの試合やイベント等でボランティアを活用する予定はありますか（〇はひとつ）。
「1. ある」とご回答された方は問17（P5）を参考に具体的な活用内容をお書きください。

1. ある ⇒ 具体的な活用内容 ()
2. ない

問3 今後、機会があれば貴チームの試合やイベント等でボランティアを活用したいですか（〇はひとつ）。

1. ぜひ活用したい	2. できれば活用したい
3. あまり活用したくない	4. まったく活用したいとは思わない
5. わからない	

～問1で「2. 活用していない」と回答した方は、以上で終了です。ありがとうございました。～

【問1で「1. 活用している」とお答えいただいた方のみご回答ください】

問4 貴チームにおいて、スポーツボランティアの活用を開始した年をお書きください。

西暦 () 年から

問5 昨シーズン、貴チームの試合やイベント等でスポーツボランティアを活用した合計日数をお書きください。

合計 () 日

問6 貴チームで活用しているボランティアは、主にどのような組織・団体に所属していますか（〇はいくつでも）。また、「1～3」とお答えいただいた方は、問6-1にもご回答ください。

1. 貴チーム内にあるボランティア組織・団体	} 問6-1へ
2. 貴チームの外部にあるボランティア組織・団体（貴チーム公認）	
3. 貴チームの外部にあるボランティア組織・団体（貴チーム非公認）	
4. 特定のボランティア組織・団体は無く、必要な時に都度募集している	} 次のページへ
5. その他 ()	

問6-1 問6で回答したボランティア組織・団体の正式名称をお書きください。
名称がない場合は「特になし」とご記入ください。

組織・団体の正式名称	組織・団体の分類 (問6の1～3より あてはまる番号に〇)		
・	1	2	3
・	1	2	3
・	1	2	3
・	1	2	3

【以降、問6でご回答したボランティア組織・団体についておうかがいします】

(注) 問6-1で2つ以上の組織・団体をご記入いただいた場合は、それぞれの組織・団体についておうかがいします。【問7～問18まで】をコピーしてご回答し、同封の返信用封筒にまとめてお送りください。

問7 該当する組織・団体名を一つお書きください（法人格を含む）。

また、特に名称がない場合は、「1. 特に名称はない」に○をつけてください。

1. 特に名称はない

問8 上記の組織・団体が、ボランティアに関する活動を開始した年をお書きください。

西暦 () 年から

問9 登録者数をお書きください。

合計 () 人 ⇒ 西暦 () 年 () 月 現在

問10 登録者の、おおよその男女の割合をお書きください。

男性 : 女性 = () % : () %

問11 登録者の年代について、あてはまる年代の番号すべてに○をつけてください。

また、最も多い年代には◎をつけてください（◎はひとつ）。

1. 10代	2. 20代	3. 30代	4. 40代
5. 50代	6. 60代	7. 70代以上	

問12 登録者の初期登録料や年会費はどれくらいですか。集めていない場合は、「(0) 円」とお書きください。なお、年齢などの条件で金額が異なる場合は、備考欄にお書きください。

初期登録料 () 円	年会費 () 円
備考 ()	

問13 登録者に対する講習（ボランティア養成講習会、リスクマネジメント研修会等）を実施していますか（○はひとつ）。

実施している場合は、昨シーズンに関わる実施回数もお書きください。

1. 実施している ⇒ 昨シーズン () 回	2. 実施していない
-------------------------	------------

問14 登録者の活動に伴うインセンティブ（物品や行事の特典）はありますか（〇はいくつでも）。
インセンティブがない場合は「10. 特になし」に〇をつけてください。

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. ボランティアユニフォーム・キャップ（支給） | |
| 2. ボランティアユニフォーム・キャップ（貸与） | |
| 3. スポーツ観戦機会（チケット提供含む） | 4. 弁当・食事 |
| 5. アスリートとの懇親会 | 6. 慰労会 |
| 7. 現金（交通費、食事代等の実費程度） | 8. 金券（商品券、クオカード等） |
| 9. その他（具体的に： _____） | 10. 特になし |

問15 現在、活動を行ううえでの課題はありますか。あてはまる番号すべてに〇をつけてください。
また、最も課題となっているものには◎をつけてください（◎はひとつ）。
課題がない場合は「12. 特になし」に〇をつけてください。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 新しい登録者が集まらない | 2. 運営の中心となる登録者が不足している |
| 3. 登録者の事務局スペースがない | 4. 活動資金が不足している |
| 5. 提供する活動数・イベント数が十分でない | 6. 登録者の経験やスキルが乏しい |
| 7. 提供する研修機会の数が十分でない | 8. 組織・団体の認知度が十分でない |
| 9. 登録者の活動意欲が乏しい | 10. 登録者との連絡が困難である |
| 11. その他（具体的に： _____） | |
| 12. 特になし | |

問16 現在、ボランティアをどのように募集していますか。あてはまる番号すべてに〇をつけてください。また、最も効果的なものには◎をつけてください（◎はひとつ）。
募集をしていない場合は「9. 特に募集はしていない」に〇をつけてください。

- | | |
|--|------------------|
| 1. チームやボランティア組織・団体のFacebookやLINEなどのSNS | |
| 2. チームやボランティア組織・団体のウェブサイト | 3. 主催事業のポスター・チラシ |
| 4. メーリングリストやメールニュース | 5. 自治体の広報誌 |
| 6. チームやボランティア組織・団体の機関誌 | 7. 他組織との連絡網 |
| 8. ボランティア登録者のクチコミ | 9. 特に募集はしていない |
| 10. その他（具体的に： _____） | |

問17 登録者の活動内容について、下記のうち実施しているものはありますか。【□】内の（記入例）を参考に、実施しているカテゴリの項目についてお答えください（それぞれ○はいくつでも）。他に実施している活動がある場合は「g. その他2」に具体的にお書きください。

（記入例）

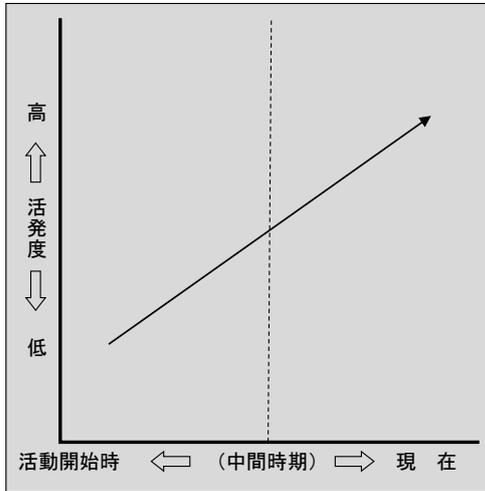
・a. 入場・接客で「1. チケットもぎり」と「3. プログラム、チラシ等の配布」を実施している場合

カテゴリ	項目（○はいくつでも）
a. 入場・接客	<input checked="" type="checkbox"/> 1. チケットもぎり 2. チケットチェック <input checked="" type="checkbox"/> 3. プログラムやチラシ等の配布 4. 入場者数カウント 5. 荷物預かり 6. 総合案内所業務

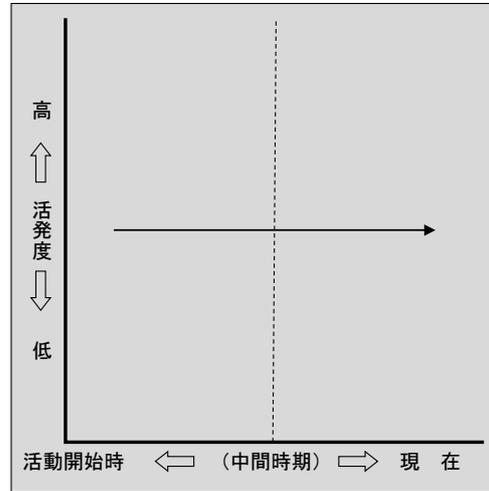
カテゴリ	項目（○はいくつでも）
a. 入場・接客	1. チケットもぎり 2. チケットチェック 3. プログラムやチラシ等の配布 4. 入場者数カウント 5. 荷物預かり 6. 総合案内所業務
b. 誘導	1. 会場内の誘導や案内 2. 会場外の誘導や案内
c. 設営	1. 受付スペース（テントや机の設置） 2. 販売スペース（テントや机の設置） 3. 館内表示や看板の設置 4. グラウンドやコート
d. 販売	1. チケット 2. グッズ
e. 清掃	1. 試合当日の会場内清掃 2. 試合当日以外の会場内清掃 3. 試合当日の会場外清掃 4. 試合当日以外の会場外清掃
f. その他1	1. ボランティア交流イベントの企画・運営 2. ボランティア活動の情報発信 3. チームが主催するイベントの運営補助（スポーツ以外も含む） 4. 行政や学校等が主催するイベントのお手伝い（スポーツ以外も含む）
g. その他2	具体的に：

問18 問7（P3）でご記入した組織・団体における活動開始時から現在に至るまでの「活動の活発度」について、下記のうち最も近いものを1つ選んで、番号に〇をつけてください。該当する図がない場合は（記入例）を参考にし、図5に手書きで記してください。なお、「活動の活発度」については、活動回数や登録者数、団体の運営状態など、総合的に判断してお答えください。

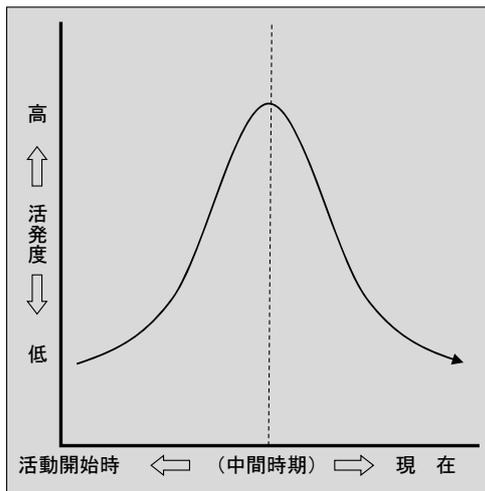
1.



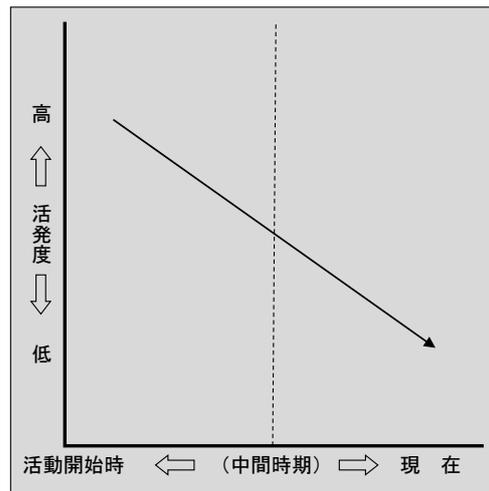
2.



3.



4.



5. その他 ⇒ （記入例）を参考に図5にお書きください。

（記入例）

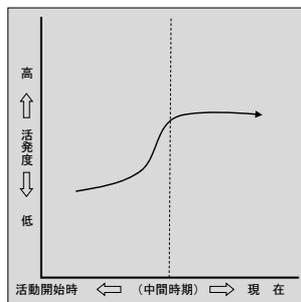
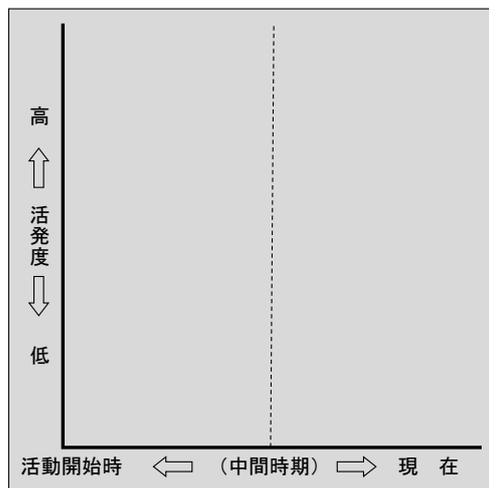


図5.



～以上でアンケートは終了です。ありがとうございました。～

○著作権者 文部科学省 スポーツ・青少年局 スポーツ振興課

(問合せ先) 〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

TEL 03-5253-4111 (代表)

○発行元 公益財団法人 笹川スポーツ財団

〒107-6011 東京都港区赤坂 1-12-32

TEL 03-5545-3301

本報告書は、文部科学省の委託事業として、公益財団法人笹川スポーツ財団が実施した平成26年度「スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究(スポーツにおけるボランティア活動を担う組織・団体活性化のための実践研究)」の成果をとりまとめたものです。したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。